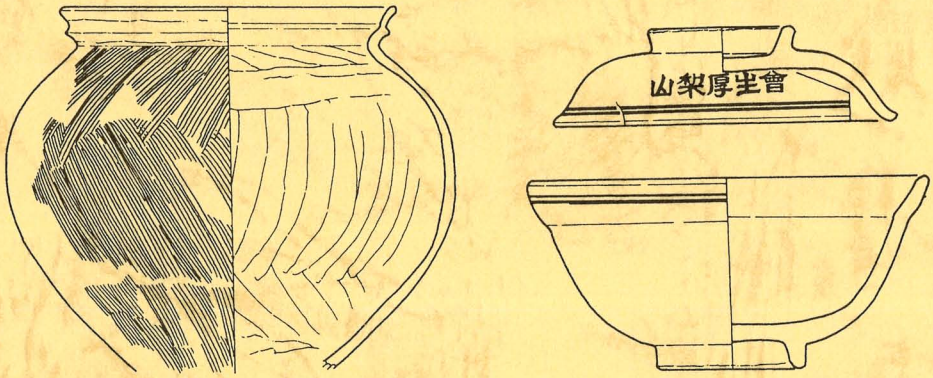
山梨市文化財調査報告書　第９集

延命寺遺跡

—山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書—



2005年3月

(財)山梨厚生会山梨厚生病院
山梨市教育委員会
(財)山梨文化財研究所

山梨市文化財調査報告書　第９集

延命寺遺跡

—山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書—

2005年3月

(財)山梨厚生会山梨厚生病院
山梨市教育委員会
(財)山梨文化財研究所

例　　言

1　本書は山梨県山梨市落合860番地に所在する（財）山梨厚生会山梨厚生病院敷地内の授産施設建設に伴う発掘調査報告書である。

2　本調査は山梨市教育委員会の指導のもと、（財）山梨文化財研究所が実施した。

3　本書の原稿執筆・編集は櫛原功一（山梨文化財研究所　考古第２研究室）が行った。

4　発掘調査における基準点設置、グリッド杭打設、全景写真撮影、等高線図化業務は（株）シン技術コンサルに委託した。

5　１号井戸出土刀子については、（財）山梨文化財研究所保存科学研究室に依頼してX線写真撮影を行った。

6　本書に関わる出土品、記録類は山梨市教育委員会で保管している。

7　発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい（順不同、敬称略）。

（財）山梨厚生会山梨厚生病院、小林昌彦（厚生病院企画管理部長）、三澤達也（山梨市教育委員会）、奥山宗石、シン技術コンサル、土屋健作、塩谷風季、草間正彦（帝京大学）、萩原忠

凡　　例

1　遺跡全体図におけるＸ・Ｙ数値は、平面直角座標第８系（原点：北緯36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である（世界測地系数値）。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北である。

2　遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

竪穴	１：60
竈・土坑・ピット	１：30
全体図	１：160
土器・石器	１：３
土製品	１：２

3　遺構図中の遺物間実線は、遺物の接合関係を示す。破線は同一個体であることを示す。図化資料のみドットで出土地点を示し、遺物図版番号と同一番号を付け、出土位置を平面、断面で示している。

4　土器断面図中の破線は接合帯を示す。スクリーントーンによる網掛け部は、器面が赤彩されていることを示す。

5　土層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』（1991年度版）を使用した。

6　遺物図版番号は遺物観察表番号と一致する。

7　本書図１上は国土地理院発行の１/200,000地勢図「甲府」、下は１/25,000地形図「塩山」を使用した。

8　本文の註・参考文献については各節（章）ごと文末にまとめた。

本文目次

例言
凡例
本文目次
挿図目次
挿写真目次
表目次
図版目次
写真図版目次
第１章　経　過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理等作業の経緯 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の方法と成果 …… 4
　第１節　調査の方法 …… 4
　第２節　層　序 …… 5
　第３節　遺　構 …… 5
　第４節　遺　物 …… 8
第４章　総　括 …… 11
報告書抄録
奥付

挿図目次

図１　延命寺遺跡の位置（上－1/200,000、下－1/25,000） …… 2
図２　厚生病院内建物配置と調査地区 …… 3
図３　調査地区と座標 …… 5
図４　ピット列断面 …… 7
図５　パレス壷（第17図４）の出土状況 …… 12
図６　山梨県内出土の「宮廷式Ｅ類」…… 11

図７　「宮廷式Ｅ類」分布図 …… 12
図８　遺構の変遷 …… 13

挿写真目次

写真１　授産施設「ひらしな」…… 4

表　目　次

表１　土器・陶磁器観察表 …… 15
表２　石器観察表 …… 17
表３　土製品観察表 …… 17
表４　金属製品観察表 …… 17

図版目次

第１図　延命寺遺跡　調査区全体図
第２図　１～３号竪穴
第３図　４・５号竪穴
第４図　６・７号竪穴
第５図　７・８号竪穴
第６図　1・３号溝
第７図　４～12号溝、土層断面図
第８図　１～７号土坑、１～７号ピット
第９図　８～26号ピット
第10図　27～47号ピット
第11図　48～58号竪穴、１号井戸、
第12図　１号石組
第13図　１～３号竪穴遺物
第14図　４～６号竪穴遺物
第15図　７・８号竪穴遺物、３・４号土坑遺物、３・５・12・24・25・51号ピット遺物
第16図　１・６～10号溝遺物
第17図　１号井戸遺物、１号石組遺物、遺構外遺物（1）
第18図　遺構外遺物（2）
第19図　遺構外遺物（3）

写真図版目次

図版１　１・２：調査区南側全景
図版２　１・２：調査区北側全景
図版３　１：調査区南側上層　２：調査区南側下層
３：１号竪穴遺物出土状況　４：１号竪穴竈
図版４　１・２：２号竪穴遺物出土状況
３：同土師器坏出土状況
４：３号竪穴遺物出土状況
５：同土製品出土状況
６：４号竪穴遺物出土状況
７：同完掘状況　８：同床下完掘状況
９：同竈検出状況
図版５　１～３：４号竪穴竈完掘状況
４：５号竪穴周辺石組　５：５号竪穴
６：６号竪穴遺物出土状況
７・８：同遺物出土状況
９：６・７号竪穴完掘状況
図版６　１・２：７号竪穴遺物出土状況
３：８号竪穴完掘状況
４：１号井戸周辺完掘状況　５：１号井戸
６：１号石組
図版７　１：１号溝　２：４・５号溝
３・４：3号溝　５：５・６・10号溝
６：７号溝　７：８号溝
図版８　１：９号溝　２・３：ピット群
４：１号土坑（１号竪穴内）
５：２号土坑　６：3号土坑　７：６号土坑
８：７号土坑
図版９　１～３号竪穴出土遺物
図版10　４・６・７号竪穴出土遺物
図版11　７・８号竪穴出土遺物、51号ピット出土遺物、６号溝出土遺物
図版12　遺構外出土遺物、１号石組出土遺物

第1章　経　過

第1節　調査の経過

延命寺遺跡は山梨市落合、山梨厚生病院付近を中心に分布する古墳時代から平安時代の集落遺跡である。（財）山梨厚生会　山梨厚生病院では敷地内に授産施設（精神障害者授産施設ひらしな）を建設計画したところ、埋蔵文化財包蔵地であることがわかり、2002年12月18日、文化財保護法第57条の2第1項による届出が行われた。2002年12月25日、山梨県教育委員会より試掘調査実施に関する通知を受けた山梨市教育委員会では、2003年1月22日～1月30日に試掘調査を実施した。試掘調査では、建物建設予定地内に幅1.2m、長さ30mと37mの2本のトレンチを設定し調査したところ、以前に外来病棟建物があった場所のため、多数の撹乱坑が存在するものの、古墳時代から平安時代の土師器が出土することが確認された。1月30日には県教育委員会立ち会いの下、本調査についての協議が行われ、建物建設部分について本調査が必要と判断された。

2003年4月中旬、山梨市教育委員会および（財）山梨厚生会　山梨厚生病院より（財）山梨文化財研究所に対し、発掘調査（本調査）の依頼があった。協議した結果、年内に工事着工の予定とのことから、直ちに委託契約を締結、山梨市教育委員会の指導のもと、発掘調査が行われるはこびとなった。

第2節　発掘作業の経過

調査地点は山梨厚生病院西門寄りの車庫と倉庫、グラウンドにはさまれた長方形の敷地で、そのうち建物予定地約550㎡が本調査範囲である。

本調査は2003年6月3日～8月7日に実施された。調査体制は以下の通りである。

調査主体　（財）山梨文化財研究所
調査担当者　櫛原功一（山梨文化財研究所　考古第2研究室）
発掘調査参加者　奥山宗石、広瀬寛、飯沼こずえ、長谷川規愛、武井美里、直井光江、広瀬侯子、初鹿野博之、萩原明美、井部利春、深澤さつき、秋山恵美、芦澤はつ子、萩原明美、林ワルチ、深沢芳邦、若目田智子

調査の経緯は次のとおりである。

2003年6月3日（火）
重機による表土剥ぎを開始。調査区内の表土剥ぎは土量の関係上、一度に行うことはできないと判断されたため、南半、北半に分けて、南半から調査を行い、南半の調査が終了した後に廃土を反転して北半の調査を行うこととした。レンタル器材の搬入を行い、荷物を運搬。一部鋤簾がけをしたところ、建物撤去時の廃棄坑などが多数確認された。病院通路に面しているため、フェンスを設置した。

2003年6月4日（水）
業者による基準点観測。重機による表土剥ぎは本日で終了。廃棄坑の掘削。

2003年6月5日（木）
鋤簾がけによる遺構確認。調査区の壁面精査。廃棄坑の掘削で昭和26年以降の病院関係の食器、薬瓶、体温計など出土。

2003年6月6日（金）
業者によるグリッド杭打設。光波測量器による図化作業を開始。

2003年6月17日（火）
遺構確認後、竪穴、溝の調査開始。

2003年6月19日（木）
1号竪穴完掘。2号竪穴掘り下げ。撹乱坑部分で基本層序の確認、図化作業。

2003年6月20日（金）
2号竪穴掘り下げ。東壁から坏が並んで出土し、ひとつには刻書がある。3号竪穴掘り下げ開始。

2003年6月23日（月）
4号竪穴掘り下げ。3号竪穴床面から不明土製品出土。

2003年6月25日（水）
溝調査。4号竪穴の竈調査。

2003年7月8日（火）
南半分の調査はほぼ終了。

2003年7月9日（水）
全体写真を撮るための清掃を行い、病院3号館屋上より撮影。北半に重機を入れ、表土剥ぎ開始。

2003年7月10日（木）
重機による表土剥ぎ。調査区壁面の精査。遺構確認を行う。

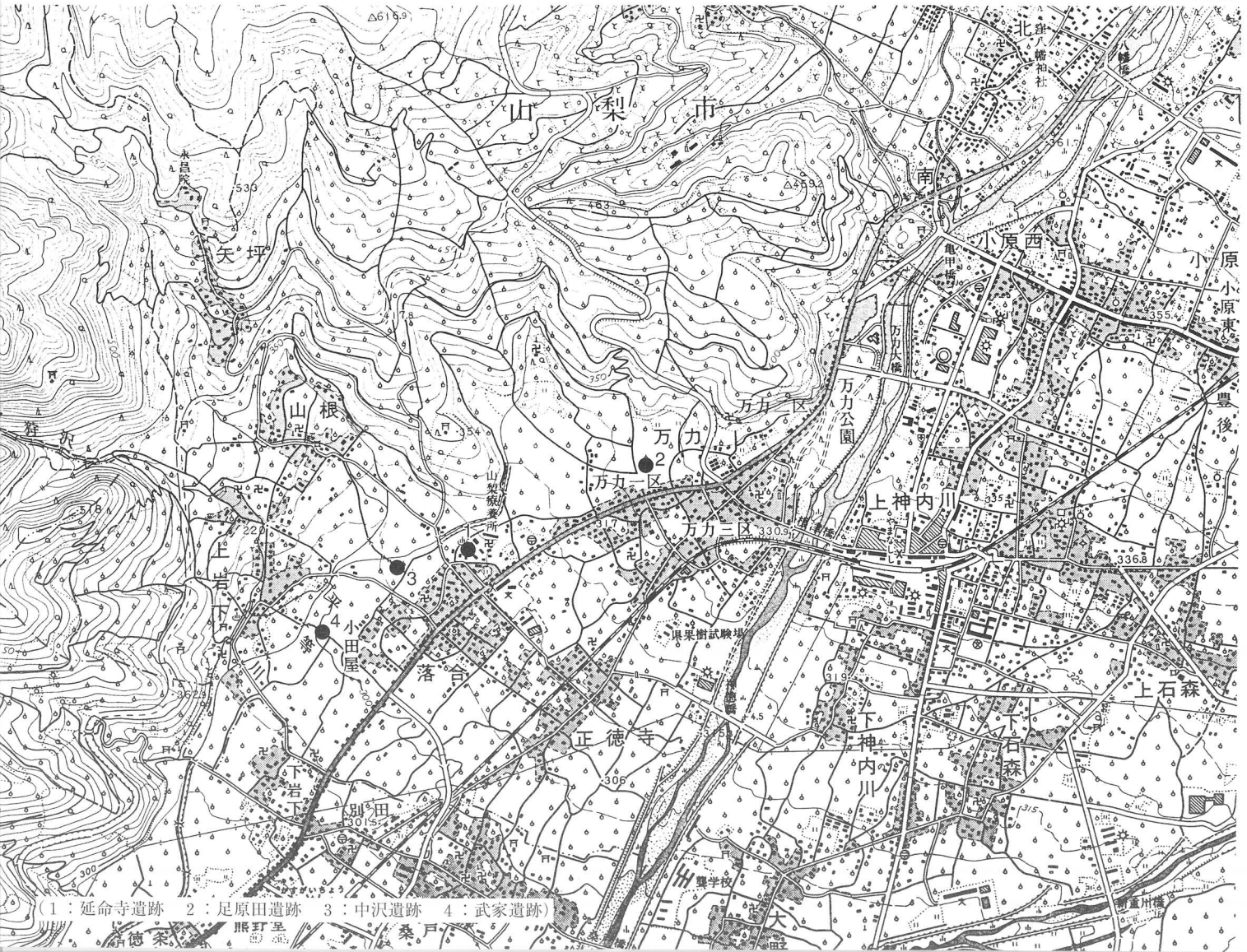
2003年7月11日（金）
北半の重機は本日で終了。廃棄坑の掘り下げ。

2003年7月14日（月）
雨のため北側敷地外側の側溝の水が調査区内に流入し、ポンプによる排水作業を行う。

2003年7月24日（木）
6・7号竪穴の調査。

2003年7月26日（土）

図1　延命寺遺跡の位置（上－1/200,000，下－1/25,000）



1号石組の調査。病院関係の食器類が多数出土。

2003年7月29日（火）

7・8号竪穴調査。1号石組の清掃、写真撮影。

2003年7月31日（木）

全景写真撮影に向けて清掃し、3号館屋上から俯瞰写真撮影。

2003年8月1日（金）

本日にて図化作業を残し、ほぼ掘削作業は終了。

2003年8月7日（木）

器材撤収し、現場作業は終了する。

2003年8月9日（土）

重機による埋め戻し。

第3節　整理等作業の経緯

整理作業は2003年9月から2005年3月末まで、（財）山梨文化財研究所内で行われた。整理体制は次のとおりである。

整理担当者　櫛原

整理作業参加者　矢房静江、保坂真澄、広瀬悦子、林紀子、梶原薫

整理作業の流れは通常どおりで、遺物洗浄、注記、接合ののち、遺物実測、トレース、図版作成を実施した。井戸出土の短刀についてはX線写真撮影を行い、実測のため簡易的な錆落しを実施したが、保存処理は施していない。そのほか理化学的分析等は実施していない。

第2章　遺跡の位置と環境

第1節　地理的環境

延命寺遺跡は甲府盆地北縁部、笛吹川右岸の平地に立地し、標高310mである。甲府方面と埼玉県秩父方面をつなぐ秩父往還とも呼ばれる国道140号線（雁坂みち）沿いにあり、現在、山梨厚生病院付近を中心に径300mの範囲が遺跡指定されている。北西には大蔵経寺山（715.6m）、兜山（913.0m）をはじめとする比較的低い山々が連なる。兜山とその北側にある棚山の山麓からは夕狩沢など平等川の支流が流れ出しているが、山梨厚生病院北側に隣接する夕川（木綿川）という小河川も支流のひとつである。平等川は山すそを西南方向に流下し、甲府市内で笛吹川につながっており、延命寺遺跡周辺は笛吹川氾濫原および平等川等の扇状地が形成した平坦地といえる。

北西の山腹には矢坪、山根、上岩下等の集落があり、モモ・ブドウを中心とした果樹地帯となっている。遺跡からは北側に上万力金桜神社の松林を間近に望むことができる。

今回調査が行われた地点は山梨厚生病院敷地内で、6号館とその西側に隣接するグラウンドの西隣、病院の西門近くにある車庫北側にあたる。

第2節　歴史的環境

延命寺遺跡の北500mには上万力金桜神社が所在する。遺跡名とされた字名「延命寺」は、遺跡付近にかつて存在した寺院名で、『甲斐国志』「大宮権現」（巻56　神社部第2）中に記載がみられる。ここでは『甲斐国志』を書き下した赤岡重樹著『甲斐國古社史考』の一文を引用しておく。

「金桜大神社　東山梨郡上万力村字金桜鎮座

社記に大宮大権現又金峯大権現と称すとあり。御朱印社領拾四石九斗余、成務天皇御宇鎮座、其の後落合の白山・熊野堂の熊野・岩下の走湯・別田の箱根を配祀して五所権現と称し、万力・落合・正徳寺・山根・矢坪・岩下・金塚・熊野堂・別田・小松・切差・赤柴膝立十二村の総鎮守なり。天正十年三月織田信長乱入し、神主・社僧離散し殿堂大破に及びしを、徳川家康入国社領寄進によりて復興せしと伝ふ。付近に馬場・的場・相撲場・制札場・桜畑・神子屋敷・祓戸等の旧址あり。社僧延命寺は退転して後浄家に改宗し、東光

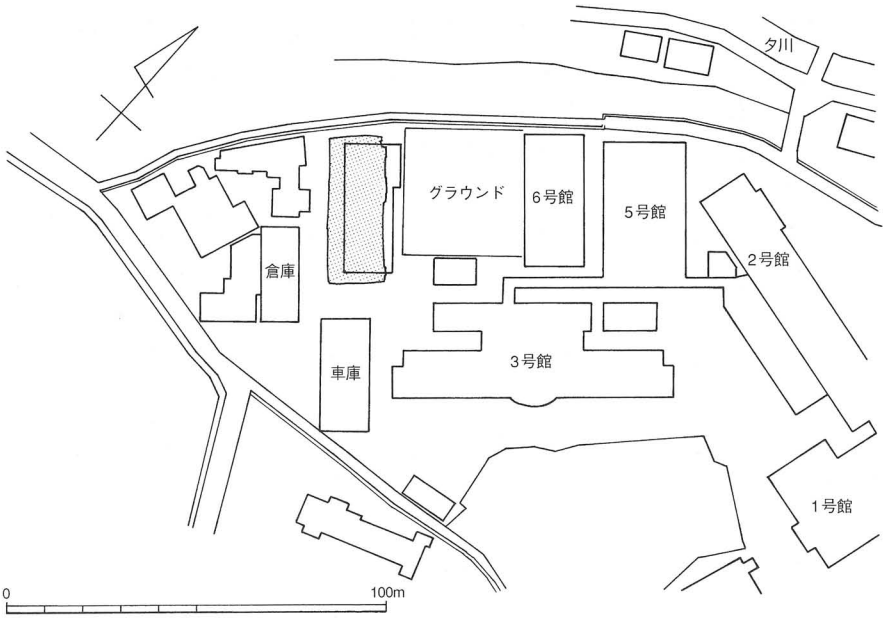


図2　厚生病院内建物配置と調査地区

寺村に一寺を建立し、大宮山誓願寺と称し現存せり。」

これによれば、延命寺は上万力金桜神社の神宮寺であったが、織田勢乱入後、退転して大宮山誓願寺に移ったといわれる。大宮山誓願寺は現在、甲府市東光寺にあり、浄土宗甲府五山のひとつとされる名刹である。『甲斐国志』によれば「文禄中古府ヨリ今ノ地ニ移レリ」とあるほか、当初建立されたのは下横沢町（現甲府市朝日町）ともいわれ、延命寺との関連については記されていない。仮に移転説が確かであるならば、誓願寺が山号を「大宮山」とするのは、大宮大権現とも呼ばれた金桜神社から採択したものであろう。

兜山については、山頂付近に「兜山の烽火台」が所在することが『日本城郭大系』で指摘されていたが、詳細な調査報告はこれまで行われていなかった。2005年３月に信藤祐仁、櫛原功一、内田裕一らが踏査したところ、標高820m付近の岩場で10世紀前半の甲斐型土師器が散布するのが確認され、付近には水場、修行窟（座禅窟）とも考えられる人工的な岩穴（岩窟）があり、さらに付近には３段からなる造成面が存在することが判明した。３段の造成面は「兜山の烽火台」とされた遺構とは別地点で、堀切等の防御施設がないこと、10世紀前半の土師器が周囲の岩場などから採集されることなどに鑑み、山岳寺院（山林寺院）の一種、山房と考えられる（未報告）。

兜山の東側の沢を夕狩沢という。甲斐守護武田信昌と跡部氏が戦った古戦場と伝えられる。寛正６年（1465）、夕狩沢の戦いで敗れた跡部景家は敗走し、小田野城で自害して跡部氏は滅び、武田氏は国内の実権を掌握したといわれる。付近に所在する矢坪の永昌院は信昌の創建で、境内には信昌の墓所と伝えられる五輪塔がある。県指定文化財の銅鐘は永和2年（1376）神取村大林寺で鋳造、応永27年（1420）東光寺に移し、永正元年（1504）信昌により永昌院に寄進されたといわれる。そのほか聖徳寺（山梨市正徳寺）には信昌の摘子信縄の牌子があり、さらに下岩下（笛吹市春日居町）には武田信虎誕生屋敷がある。このように周辺には永昌院を中心として武田信昌に関連した古跡が多い。

今回の調査地点は現山梨厚生病院の敷地内である。山梨厚生病院は昭和26年12月、山梨療養所として設立され、昭和47年11月には温泉病院山梨療養所となり、その後平成2年に山梨厚生病院と改称し、現在では県内有数の総合病院となっている。

調査地点は旧山梨診療所の外来病棟が存在した場所で、平成２年まで外来病室として使用され、平成２年以降８号館という名称で旧施設は倉庫として使用されていたが、平成12年３月に建物は撤去された。現在は2004年に完成した「精神障害者通所授産施設　ひらしな」が開設されている（写真１）。

写真１　授産施設「ひらしな」

延命寺遺跡周辺には、山梨市教育委員会の詳細分布調査により、原ノ前遺跡（奈良）、金桜遺跡（縄文・平安）、地蔵久保遺跡（平安）など、いくつかの遺跡の分布が知られている。2002～2003年には山梨県埋蔵文化財センターにより西関東自動車道予定地内で発掘調査が行われ、足原田遺跡・武家遺跡・中沢遺跡が調査された（図１）。足原田遺跡（山梨市万力）では延命寺遺跡と同時期の古墳時代前期の谷が検出され、多量の土器が出土した。竪穴はなく、居住域との関連、遺構の性格は不明である。武家遺跡（山梨市上岩下）では、弥生時代後期の竪穴１軒、方形周溝墓２基以上が検出され、方形周溝墓は群集した状況を呈している。中沢遺跡（山梨市落合）では、奈良時代～平安時代初頭の竪穴７軒、古墳時代後期の溝１条が検出されている。これらの遺跡は、本遺跡と同様に山すそに近く、平等川流域に立地する点が共通する。そのほかにも周辺には間之田西遺跡など古墳時代の遺跡分布が知られ、笛吹川右岸には弥生時代末～古墳時代に密な集落域が形成されていたことが想定される。

参考文献

赤岡重樹　1936『甲斐國古社史考』

磯貝正義ほか　1980『日本城郭大系８　長野・山梨』新人物往来社

磯貝正義編　1995『日本歴史地名大系19　山梨県の地名』平凡社

佐藤八郎校訂　1998『甲斐国志』雄山閣

長沢宏昌ほか　2003「中沢遺跡・武家遺跡」『年報19』山梨県埋蔵文化財センター

小林弘典　2004「足原田遺跡」『山梨考古』92　山梨県考古学協会

宮澤公雄　2004『堀ノ内遺跡』（財）山梨文化財研究所ほか

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査は先述したように、2003年６月３日から８月７

日まで、約２ヶ月間行われた。発掘調査の経過でも記したとおり、山梨市教育委員会の試掘調査の結果、建物建設予定地全面から土師器などの遺物が出土したため、全域を調査対象とし、廃土置き場の関係上、南半、北半の順に廃土を反転して調査することとした。

調査の方法は以下のとおりである。重機により表土を除去した後、人力で精査を行い、遺構確認をした。国家座標に基づき調査区内に５ｍグリッドを設定し、杭を打設した。出土遺物は光波トランシットによってＸ（北方向）、Ｙ（東方向）、Ｚ（標高）の３次元データを測定し、台帳に記載した。遺物は通し№で取り上げ、後日図面にドットを落とした。遺構平面図も同様に光波によって測点を取り、平面図上にドットを落としながら現場で平面図を仕上げた。土坑、ピットについては10cmメッシュを張った取り枠により図化を行った。また竪穴、土坑、ピット、竈等は通常どおり、断面観察、図化ののち、完掘した。全体図作成については、空撮ができなかったため光波測量図のみとし、等高線データを加えた。俯瞰写真は病院建物屋上からの斜め写真を撮影した。

調査した面は北半で１面、南半では一部２面で、南半では上層で溝を調査した後、下層でピット等を調査した。

第２節　層　序

調査区のほぼ中央、D2グリッド内に廃棄坑があり、その北壁を精査して土層堆積状況を確認した。

第７図に示したように、３層中に古墳時代から平安時代の遺物包含層があり、それ以下は砂層と土層の互層となり、地表下2.5mで礫層面となっている。重機で７層付近、地表下約1.5m付近まで掘り下げ、D3グリッド付近の５ｍ四方程度を鋤簾がけしたが、遺物は皆無であり、今回の調査区内では３層以下に遺物包含層はないと判断した。

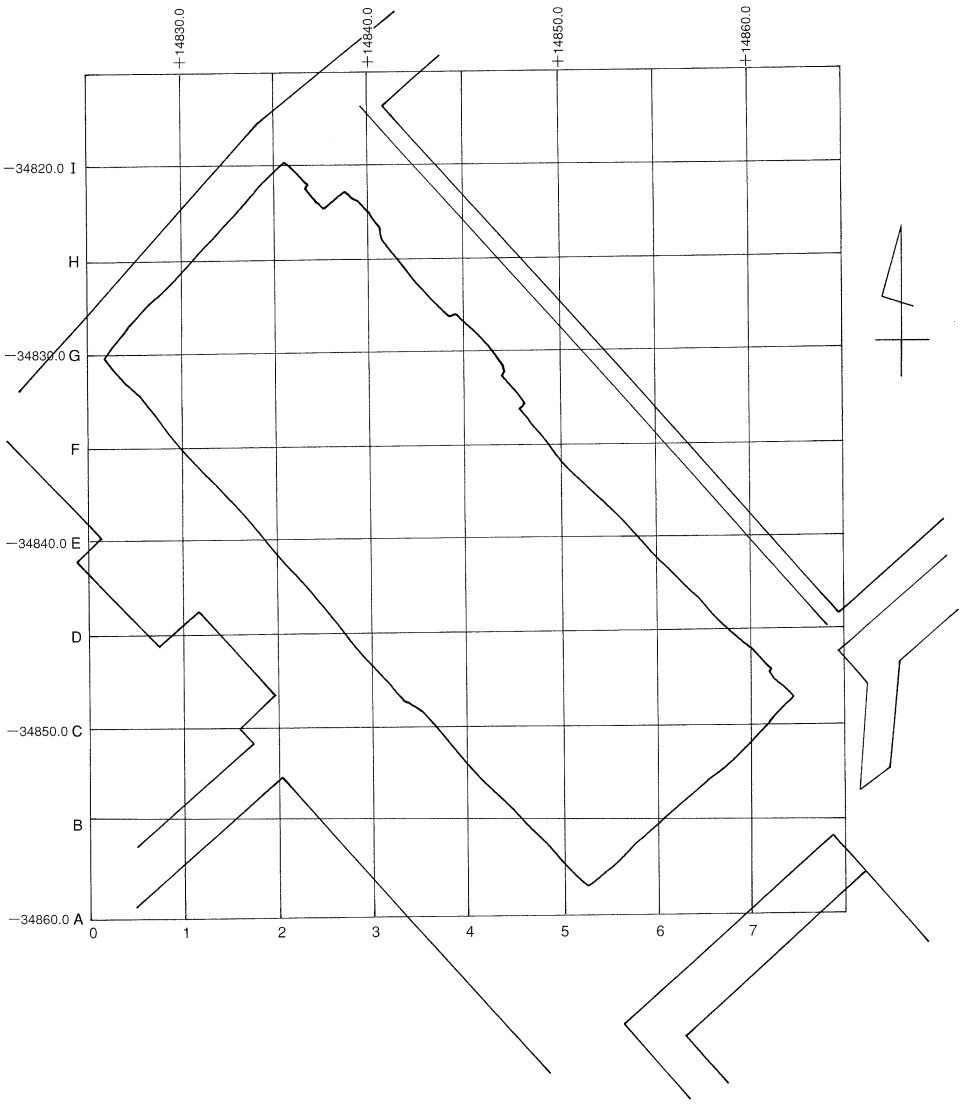


図３　調査地区と座標（グリット幅は５ｍ）

第３節　遺　構

古墳時代～平安時代の竪穴８軒、土坑7、ピット56、溝12のほか、井戸１、石組２などが検出された。旧病棟に関連した廃棄坑（撹乱）が随所に存在したため、遺構の遺存状況は不良であった。以下、個々の遺構について、番号順に説明する。

（１）竪穴建物

竪穴建物は計８軒検出されたが、うち２軒（５・８号竪穴）についてはプランが不明確で、竪穴建物と断定するのは難しい。竪穴の時期については、古墳時代初頭以降、平安時代末まで断続的に認められている。

１号竪穴（第２図）　D・E5グリッド、調査区東壁に接して位置する。主軸方向はN-40°-E。2.0m四方の隅丸方形の小型竪穴で、竈は明確ではないものの、竈と考えられる焼

土分布が北西コーナーにあり、一応、コーナー竈と考えた。竈には袖石、天井石に相当する構築材はない。焼土は竈底面にはなく、覆土中にブロック状に存在した。竈内からはわずかに土師器片、平瓦が出土している。床面は全体に軟弱で、硬化面はない。貼り床を想定して床面を除去したところ、明確な貼り床はなく、西壁に接して１号土坑が検出された。竪穴以前の土坑と思われる。壁は全体的に緩やかで、不明瞭であり、とくに東壁が漠然としている。周溝、柱穴は確認されていない。覆土中には礫が混じっている。遺物は床面から浮いて10世紀後半の土師器が少量出土し、竈周辺に散在するが、全体に少ない。規模が非常に小さな竪穴であることから、通常の居住施設としての住居ではない可能性がある。

２号竪穴（第２図）　C6グリッドに位置する一辺3.6mの竪穴で、東側は約半分が調査区外にかかっているが、隅丸方形の竪穴と考えられる。西側では３号竪穴を切って重複する。中央付近に1.5m四方、深さ60cmのセメント製の四角い枡が床面以下に構築され、汚泥が堆積しており、山梨診療所時代の下水の水溜めと思われる。主軸方向はN-58°-E。竈は調査区内にはなく、調査区外に存在すると思われる。床面はやや軟弱で、際立った硬化面はない。焼土ブロックが床面上に散在して確認された。周溝、ピットはない。壁は西・南側で遺存状況が良好であったが、構築面の土質との区別がしにくい部分があり、もう少し広がる可能性もある。南壁際には９世紀後半の甲斐型坏３個体が床面から11～12cm浮上して並んで出土し、そのうち１個には外面に「四」あるいは「目」の焼成後線刻文字をもつ（２号竪穴１）。全体に遺物量は少なく、床面からの出土はほとんどない。

３号竪穴（第２図）　C6グリッドに位置し、北側を撹乱に大きく切られ、東側を２号竪穴に切られた竪穴である。掘り上がりの姿は２号竪穴より古いように見えるが、２号竪穴覆土中に床面が存在した可能性もあり、確実な切り合い関係は定かではない。西壁の一部が残るのみのため、竪穴規模は不明であるが、南北2.6m以上の隅丸方形の竪穴住居と考えられる。南側は溝状の落込みに切られ、地山の礫層が露出している。主軸方向はN-60°-E。竈はない。床面には中央付近を中心に硬化面が広がる。床面には一部礫層が露出することから、硬化面下は地山と考え、貼り床の有無は調査していない。西壁の立ち上がりはやや不明瞭で、周溝・ピットはない。床面からは瓦あるいは鋳型関連かと考えられる筵目状圧痕を外側にもつ土製品が出土している。全体に遺物は非常に少なく、床面直上の遺物も土製品以外にない。

４号竪穴（第３図）　B5グリッドに位置する。東壁、中央わずかに東南隅寄りに竈をもつ一辺3.2mの竪穴で、西に向かってわずかに傾斜する地形のためか、西壁は遺存していない。東壁を除き壁は不明瞭であり、一部サブトレンチで確かめたが、全体に不明瞭であった。主軸方向はN-52°-E。周溝は北壁下の一部を除いて全周するものと思われる。床面には壁際を除き硬化面が残る。竈は袖石を両脇に立てた石組の竈で、竈手前には焚き口となる掘り方があり、煙道は短い。袖石の石は北側に１個、南側に２個の礫を立て並べたもので、袖石の高さは30cm、袖石間の焚き口の幅32cmである。竈内には支脚石はない。竈南にはコーナー部分に浅いピットがある。遺物は床面上、床面近くから少量出土し、11世紀前半、平安末の土師器碗、高台坏がある。貼り床と想定した床面を除去したところ、床下から５号土坑が検出された。竪穴構築時、あるいはそれ以前の所産と思われる。

５号竪穴（第３図）　H1グリッドに位置し、調査区北東隅に検出された水溜め状石組（現代）と重複する竪穴状遺構で、2.3×1.2mが確認されたが、柱穴、周溝はなく竪穴住居と断定することは難しい。主軸方向はN-30°-W。壁の高さは10数cmで、床面には51号ピットのほか、シミ状のピットが分布する。51号ピットは90×40cmの穴で、竪穴とは別遺構としたが、一体の遺構として理解すべきかもしれない。なお、水溜め状石組は方形に石積みを行い、敷地外の道路側溝から土管を通して導水するようになっており、石組中央にはコンクリートによる境が設けられている。

６号竪穴（第４図）　F1グリッド付近に位置する。撹乱坑によって北西側を欠失した隅丸長方形の竪穴で、遺存部分で４×3.2mを測る。主軸方向はN-40°-W。南側床面には地山礫を含む礫が露出し、覆土中にも大型礫が複数認められた。床面には明確な硬化面はない。周溝、柱穴はない。炉、焼土分布は確認できなかった。壁の立ち上がりは低く、不明瞭である。床面を除去したところ、床下に不整形の落込みが検出され、掘り方かと思われた。遺物は竪穴中央より南半に床面よりわずかに浮上して散在して５個体以上のＳ字甕などが出土した。県史編年古墳Ⅲ期。

７号竪穴（第４・５図）　F2グリッド付近に位置する。東側を撹乱坑によって大きく切られ、また西側は６号竪穴と重複する。遺存部分では4.6×3.7mを測る。撹乱坑の部分で床下を含む土層堆積状況を確認しているが、６号竪穴同様に竪穴プランは不明瞭である。主軸方向はN-42°-W。床面には硬化面がなく、浅いシミ状

のピットが多数みられた。南西側では地山の礫層を含む礫が露出する。壁の立ち上がりは浅く、周溝はない。ピット、炉は確認されていない。北西隅のほぼ床面上にわずかに遺物分布が認められた。古墳前期。

8号竪穴（第5図）　G3グリッド、1号石組北側の1号井戸周辺、調査区境付近に6.6×2.9mの規模で確認された隅丸方形の竪穴。竪穴プランは不明瞭で、サブトレンチで土層をチェックしたが、竪穴としては曖昧な遺構といえる。主軸方向はN-50°-E。床面に硬化面はなく、柱穴、周溝、炉はない。遺物は非常に少なく、時期不明ではあるが、古墳初頭～前期の可能性がある。

（2）土　坑

柱穴よりも規模の大きなものを土坑とした。7基あり、うち2基は竪穴床下検出例である。

1号土坑（第8図）　D5グリッド内、1号竪穴床下で検出された楕円形の土坑。1.25×1.08m、深さ12cm。古墳前期の土師器片が出土したことから1号竪穴に伴うものではない。

2号土坑（第8図）　D3グリッドにあり、4号ピットと重複する。0.9×0.9m、深さ8cmの円形の土坑。古墳前期か。

3号土坑（第8図）　D4グリッドにあり、6号溝と重複する。1.9×1.2m、深さ16cmの楕円形の土坑。古墳前期か。

4号土坑（第8図）　E4グリッド内、8号溝と重複する。1.1×0.9m、深さ18cmの楕円形の土坑。

5号土坑（第8図）　B5グリッド内の4号竪穴床下で検出された。0.9×0.7m、深さ10cmの不整円形の土坑。

6号土坑（第8図）　F4グリッド内、1号石組南に位置する円形土坑。0.9×0.85m、深さ26cm。

7号土坑（第8図）　H2グリッド内、8号竪穴北壁に接して位置する。1.0×0.7m、深さ20cmの楕円形土坑。北側を撹乱坑により切られる。

（3）ピット

遺物が出土したピットを中心に58号ピットまで番号を付けたが、ほかにいくつかの小ピットがある。ピットはD4・D5・G1グリッドを中心に分布し、個々のピットについては第8～11図のとおりである。掘立柱建物の柱穴を示すような明確な配置はないが、39～43・49号ピットは長さ6.3mにわたって直線的に並び、掘立柱建物の一辺、あるいは柵列状柱穴列として理解しておく（図4）。そのほか、全体図（第1図）の図上で見るかぎり30・38号ピットを結ぶラインと30号ピットから16号ピットをつなぐ直角方向に派生するライン上に位置するピットが掘立柱建物となる可能性はある。

（4）井　戸

1号井戸（第11図）　G3グリッドに位置する。直径0.9m、深さ0.65mで、最上面は縁を固定するように、セメントが貼られている。南側には井戸に付随するように配石が認められる。井戸内の南側石積み中には、井戸底から28cm上、上から60cm下の石積み中に、差し込むようにして刀子（短刀）が1点出土した。井戸廃棄時の祭祀行為とも思われるが定かではない。石積みの裏込め石中には、瓦等が混じり、明治以降構築の可能性がある。

（5）石　組

1号石組（第12図）　G4グリッド付近、1号井戸南側に位置し、東側が調査区ラインにかかって検出された、1.8×3.7m、深さ1.3mの長方形水溜め状石組。当初は完掘予定ではなかったが、大雨により調査区東壁が崩落し、東側の石積みが現われたため、調査区を一部拡張する形で全掘した。石積み方法は、いわゆる矢羽積みで、基底部には大型礫を並べ、基底部以外の石積みは、やや小型の礫を積み上げている。東面の石積みは高さ1.75mと高く、それ以外の石積みは1.2mと少し低い。低い方は削土によって低くなった可能性はある。内部からは、底近くから山梨診療所時代の食器類ほか、陶磁器類などの廃棄物が出土した。

（6）溝

計12本検出され、調査区に対して直交するように構築されたもの（1・8・9・11・12号溝ほか）と南北方向に構築されたもの（6号溝）を主とするほか、それ以外の方向を示すもの（10号溝）がある。単独で存在するものと、2本平行するように配置するものがあり、後者については道路側溝の可能性がある。素掘りの溝のほか、石組みの溝（3号溝）がある。

1号溝（第6図）　C4・D5グリッド付近にあり、北東から南西にほぼ直線的に通る溝。長さ10.1m、幅0.3～0.6m、深さ14cm（壁断面では深さ30cmを確認）で、西端は撹乱坑により切られている。

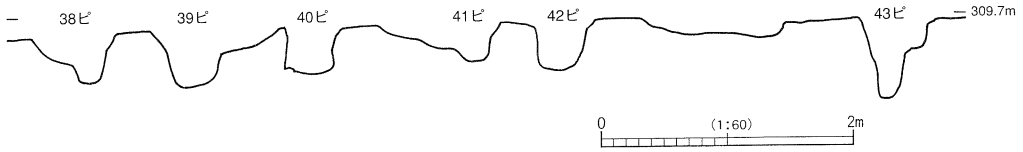


図4　ピット列断面

２号溝（第２図）　B6・C6・C7グリットの2・3号竪穴南側にあり、１号溝と同様に北東から南西方向にほぼ直線をなす。B6グリッド内で消失している。長さ6m、幅0.4m、深さ10数cmを測る。出土遺物から10世紀後半か。

３号溝（第６図）　調査区南端のB4グリッド付近に位置する。石列によって構築された溝で、調査区内で長さ5.7mを確認した。幅20cm、深さ35～50cm。緩やかに弧を描き、弧の外側にあたる北東側の石列中には約1.5～1.8m間隔で大型礫が置かれている。当初、暗渠排水施設かと思われたが、蓋にあたるものがないことから、溝とした。大型礫は円礫で、礎石のような平面はない。意匠としての置石か、何らかの機能をもつものか不明である。石列は一部２段に積み上げられている。天目茶碗から近代の磁器まで認められることから、江戸以降。

４号溝（第７図）　C5グリッドにあり、北西から南東方向に通り、5号溝とはほぼ直角に交差している。長さ4.0m、幅0.3～1.0mと短い。深さ12cm。

５号溝（第７図）　C5グリッドにあり、４号溝と直交する溝で、長さ2.7m、幅1.1m、深さ18cmを測る。北東から南西に直線的にのび、北東側では撹乱坑によって切られている。

６号溝（第７図）　C5～E5グリッド付近にあり、北から南に向かってわずかに蛇行しながら直進する、幅が広く浅い溝。長さ18m、幅1.1～1.8m、深さ５cm程度で、溝断面は皿状をなす。南端は３号溝周辺に認められる削平により、欠失している。４号竪穴を切るようにみえるが、４号竪穴の方が新しく、６号溝が４号竪穴を切っているわけではない。両者ともにその周辺で削平されたような状況を呈する。北側で１号竪穴に切られている。遺物は散在して出土し、他の溝よりは遺物量が多い。

７号溝（第７図）　C3・D4グリッドにあり、北東から南西に向けて緩やかに弧状に曲がる。長さ８m、幅0.3～1.3mを測り、覆土中には礫が入る。時期は遺物から10世紀後半～11世紀代。

８号溝（第７図）　D4・E4グリッドに位置し、南西側1.5mにある９号溝と平行するように直線的に構築されている。南東側には３mの間を置いて４号溝があり、さらに北西側の延長線上には11号溝、あるいは12号溝が位置することから、それらは本来一体のものであった可能性がある。８号溝と９号溝の組み合わせ同様に、11号溝と12号溝が平行することから、道路状遺構として理解できるかもしれない。ただ8号溝の北西端には大きな撹乱があり、8・9号溝と11・12号溝をつなぐ中間の様相は残念ながら不明となっている。長さ9.5m、幅0.5～1.1m、深さ15cmを測る。

９号溝（第７図）　D3・D4グリッドにあり、８号溝と平行するように北西から南東に直線的に構築されている。北西端は撹乱により切られている。長さ8.5m、幅0.3～0.8m、深さ約6cmを測る。出土土器から古墳前期か。

10号溝（第７図）　E4グリッドに位置し、南東端は６号溝に連結、あるいは切られて重複する直線的な溝である。長さ4.5m、幅0.4～0.5m、深さ数cmを測る。出土遺物から古墳前期か。

11号溝（第７図）　G2・H1グリッドに位置し、北西から南東へ断続的に屈折した溝である。12号溝と約1.8mの間を置いてほぼ平行する。12号溝とは中央でH状に連結した溝があり、これも11号溝の一部とした。長さ1.8m、幅0.5m、深さ約５cm。

12号溝（第７図）　G2・H2グリッドに位置する。11号溝と平行するわずかに曲がった溝で、中央に50・59号ピットが溝と重複する。長さ4.7m、幅0.4～0.5m、深さ約6cmを測る。

第４節　遺　物

ここでは遺物図版順に各遺構の出土遺物を説明するとともに、その他の出土資料について付記する。出土遺物量については、全体の重量で示したほか、必要があれば破片数を示した。

１号竪穴遺物（第13図）　１～４は土師器坏。いずれも甲斐型土器直後、山梨県史編年（県史編年）でいう奈良平安Ⅶ期（10世紀後半）とされる。やや薄く、口縁部は玉縁が残り、体部下半のヘラケズリはない。１は底部糸切り痕をそのまま残し、底部が円柱状に厚みをもち、粘土円柱作りを示唆する。５は高坏で、古墳時代後期初頭（県史編年古墳Ⅳ期）か。６は10世紀前半の甲斐型坏。７は甲斐型甕で、口縁部は肥厚する。８は竈内から出土した１枚作りの平瓦片で、両面には糸切り痕が残り、布目痕はなく、酸化炎焼成である。厚さ1.4cmとやや薄く、側面は鋭角にヘラケズリされ、両面に付着した多量の離れ砂が特徴的である。本竪穴からは図示資料を含め計1400gの土器類が出土し、大半は小破片化した古墳時代前期のS字甕などである。竪穴の時期を示す奈良平安Ⅶ期についてはほかに10数片があり、全体に少ない。坏かと思われる須恵器片も２片ある。

２号竪穴遺物（第13図）　１～３は甲斐型土師器坏で、いずれも体部内面に放射状暗文をもち、体部外面下半に１は手持ちヘラケズリ、２・３は回転ヘラケズリを

施す。1には体部外面に焼成後線刻があり、「目」または「四」と判読できるが、何らかの記号かもしれない。見込み部には暗文はない。県史編年でいう奈良平安Ⅳ期（9世紀前半）。2は底面から底部付近が摩滅し、調整が判りにくくなっている。いずれもほぼ同じ器形である。4は県史編年でいう古墳Ⅲ期（古墳前期末）と考えられる器台である。5は県史編年奈良平安Ⅸ期（11世紀後半）あたりに位置づけられる土師質土器坏で、出土地点が3号竪穴に近いことから仮に3号竪穴が新しいとすると、3号竪穴帰属遺物の可能性が高い。6は平安時代の須恵器甕で、やはり1～3同様に南壁付近から出土し、土師器と同時期かと思われる。計2300gが出土し、小破片の多くは古墳前期である。須恵器蓋、甕の小破片1点ずつが出土している。

3号竪穴遺物（第13図）　1・2は口唇部にキザミをもつ単純口縁甕で、県史編年古墳Ⅱ期か。3は外面（凸面）に筵目状圧痕、内面（凹面）に簾状圧痕をもつ円筒形、もしくは容器状土製品で、瓦あるいは鋳型関連の土製品と考えられる。1・2の土師器とは時期の違うものと思われ、2号竪穴5と同様に平安時代末の所産か。筵目状を呈すところが平安時代の瓦に共通するが、丸瓦とすると厚みが厚い。軒丸瓦の可能性もあるが、厚みが不均一な点も瓦とは異なる。3は重量1310gで、そのほかに840gの土器が出土している。大半は古墳時代前期の小破片である。2号竪穴で記したように、本竪穴は県史編年奈良平安Ⅸ期の可能性があるが、同時期の破片は数点にすぎない。

4号竪穴遺物（第14図）　1～4は土師質土器坏で、器壁はやや厚く、口縁も玉縁ではないことから甲斐型直後よりも1段階程度新しい、県史編年奈良平安Ⅷ期（11世紀前半）と考えられる。1～3はロクロナデ、底部糸切り未調整。4はロクロナデではなく何らかの整形技法で製作、調整された坏で、内外面ともにナデが多用されている。5はハ状の高台をもつ土師質土器で、坏部形態は1～3と類似する。6は磨り石で、使用痕は顕著ではない。出土遺物量は6の石器（568g）を除くと1230gである。図示資料以外に奈良平安Ⅷ期の遺物は数点と少なく、小破片は古墳前期等で占められる。

5号竪穴遺物（第14図）　1は壺底部で、内外面ともにヘラミガキが施される。51号ピット（第15図）出土の高坏、あるいは蓋は本竪穴に帰属する可能性があり、時期は弥生末（県史編年弥生6期）かと思われる。土器の出土量は580gと少なく、ほとんどが古墳時代前期のS字甕小破片である。

6号竪穴遺物（第14図）　1は坏または高坏。2は内面折り返し口縁の甕または壺で、内面にコゲが付着する。3～7はS字状口縁台付甕（S字甕）で、いずれも外面ハケメ、内面縦ナデ（4は一部ハケメ）調整をもち、肩部に横ハケメをもたない一群で、県史編年古墳Ⅲ期（古墳前期末）の特徴をもつ。全体的に胴上半のハケメの施文間隔が粗くなっており、密なハケメではない。8は同じくS字甕の台部であろう。端部は内側に折り返し、指頭圧痕をもつ。出土量は計2450gで、ほとんどが古墳時代前期で、図化資料以外に赤彩壺片2、キザミ口縁の甕片1がある。そのほか奈良平安Ⅶ期頃の土器もある。

7号竪穴遺物（第15図）　1は高坏脚部で、脚部に2段の円孔が貫通する。2は内外面にハケメをもつ単純口縁の小型甕で、煮沸痕をもつ。3は台付甕底部片。いずれも古墳前期であろう。計950g出土し、ほとんどが古墳前期である。

8号竪穴遺物（第15図）　1は鋸歯状沈線をもつ壺胴部で、古墳前期初頭のいわゆるパレス壺である。第17図4と類似する。2は内外面にハケメをもつ単純口縁甕。3は折り返し口縁をもつ甕。そのほか図示していないが肩部に横ハケメをもつ甕片がある。土器は計560g出土。

1号土坑遺物　図示できる遺物はない。計11片、110g出土し、全て古墳前期の土師器片である。

2号土坑遺物　図化資料はない。古墳前期と思われる土師器片2点、24g出土。

3号土坑遺物（第15図）　1は小型壺、2は甕で単純口縁である。3は台付甕の台部。計460g出土。S字甕の破片は少ないが、時期は古墳前期か。

4号土坑遺物（第15図）　1は内面横ハケメをもつ単純口縁壺。計142g出土。時期は定かではないが、古墳前期か。

5号土坑遺物　出土土器はなく、時期不明。

6号土坑遺物　計40gの土器が出土。古墳前期と思われるが定かではない。

7号土坑遺物　計72g出土。ほとんどが同一個体と思われるS字甕片で、県史編年古墳3期。

1号ピット遺物　1片、2g出土。時期不明。

2号ピット遺物　高坏脚、S字甕片など15片、45g出土。古墳前期か。

3号ピット遺物（第15図）　1はハの字に長く広がった器台脚部。計10片、82g出土。古墳前期か。

4号ピット遺物　4片、80g出土。全て古墳前期か。

5号ピット遺物（第15図）　1は内外面に密な縦ヘラミガキをもつ椀か。計2片22g。

6号ピット遺物　古墳前期甕2片、66g。

7号ピット遺物　高坏脚片など2片、30g。
8号ピット遺物　古墳前期甕片、平安時代10世紀後半？土師器坏など6片、40g。
9号ピット遺物　古墳前期と思われるやや大型の甕片など10片、120g。
10号ピット遺物　肩部横ハケメをもつS字甕1片ほか、3片、20g。古墳2期か。
11号ピット遺物　18片、172gとやや多くの土師器が出土。古墳前期。
12号ピット遺物（第15図）　1は口縁部が薄く広がる単純口縁の甕。古墳前期か。計10片、72g出土。
13号ピット遺物　1片、4g。古墳前期か。
14号ピット遺物　高坏脚など2片、14g。古墳前期か。
15号ピット遺物　4片、32g。古墳前期。
16号ピット遺物　S字甕片1片、6g。
17号ピット遺物　時期不明。
18号ピット遺物　時期不明。
19号ピット遺物　時期不明。
20号ピット遺物　S字甕1片、10g。
21号ピット遺物　台付甕底部のほか、無節縄文が施文された破片1あり。46g。
22号ピット遺物　時期不明。
23号ピット遺物　時期不明。
24号ピット遺物（第15図）　1は器台口縁部で、内外面に縦ヘラミガキをもつ。2は高坏と思われる脚部片で、外面は赤彩されている。古墳前期。計14片、140g。
25号ピット遺物（第15図）　1はロクロナデをもつ坏で、底部は糸切り未調整。県史編年奈良平安Ⅷ期か。3片、72g出土。
26号ピット遺物　S字甕4片5g。古墳前期。
27号ピット遺物　甕底部1片、20g。
28号ピット遺物　S字甕片など2片、20g。古墳前期。
29号ピット遺物　S字甕片など4片、30g。古墳前期。
30号ピット遺物　甕片1、20g。
31号ピット遺物　時期不明。
32号ピット遺物　S字甕など3片、10g。古墳前期か。
33号ピット遺物　時期不明。
34号ピット遺物　時期不明。
35号ピット遺物　3片、10g。時期不明。
36号ピット遺物　器台片1、10g。古墳前期か。
37号ピット遺物　時期不明。
38号ピット遺物　2片、2g。時期不明。
39号ピット遺物　S字甕、壷片など4片、50g。
40号ピット遺物　時期不明。
41号ピット遺物　時期不明。
42号ピット遺物　S字甕片など15片、110g。古墳前期。
43号ピット遺物　S字甕片など5片、12g。古墳前期か。
44号ピット遺物　時期不明。
45号ピット遺物　S字甕など12片、64g。古墳前期。
46号ピット遺物　壷片2、15g。時期不明。
47号ピット遺物　S字甕5片、32g。古墳前期。
48号ピット遺物　4片、15g。時期不明。
49号ピット遺物　9片、65g。古墳前期か。
49号ピット遺物　時期不明。
50号ピット遺物　S字甕1片、6g。古墳前期。
51号ピット遺物（第15図）　1は内外面にハケメをもつ高坏あるいは蓋で、口縁部にはゆがみがある。外面は粘土帯の輪積痕が残り、調整は粗い。内面は横ハケメののち部分的にナデを行う。口唇部にも横ハケメをもつ。煮沸痕はない。胎土は粗く、甕に近い。形態的にも台付甕の胴下半に類似する。時期は不明であるが、台付甕との比較から弥生末～古墳前期か。その他10片、計480g。
52号ピット遺物　2片、2g。時期不明。
53号ピット遺物　S字甕1片、2g。
54号ピット遺物　1片、2g。時期不明。
55号ピット遺物　時期不明。
56号ピット遺物　時期不明。
57号ピット遺物　1片、1g。時期不明。
58号ピット遺物　1片、20g。時期不明。
59号ピット遺物　2片、2g。時期不明。
1号溝遺物（第16図）　1はS字甕の影響を受けたと思われる有段口縁甕。その他に古墳前期の土師器片が比較的多くあり、計955gが出土した。古墳前期。
2号溝遺物　計200g出土した。約半数が10世紀後半以降の土師器で、糸切り痕を残す底部片などがみられる。そのほか古墳前期の土師器が含まれている。
3号溝遺物　380gの陶磁器、鉄製品を含む遺物が出土。17世紀頃と思われる天目茶碗片、江戸期の灰釉陶器のほか、江戸後期～近代と思われる磁器片がある。鉄製品は鋳物と思われ、円形の滑車状を呈する。近世以降。
4号溝遺物　古墳前期と思われる土師器など50g出土。近世と思われる陶器も1点含まれる。
5号溝遺物　古墳前期を含む100gの土師器が出土しているが、時期不明。
6号溝遺物（第16図）　古墳前期から平安末までの遺物が含まれるが、図化したものは古墳前期が多い。器台・高坏（5～9）、S字甕（10・11）、有段口縁壷（12）、単純口縁甕（13～15）、台付甕脚部（16・17）のほか、平安時代かと思われる須恵器坏（4）、内面をパレットとした須恵器甕転用硯（18）、県史編年奈良平安Ⅸ期かと思われる土師質土器坏（3）がある。計3770gで、

わずかに平安時代までの土器がみられるものの、圧倒的な主体は古墳前期である。

７号溝遺物（第16図）　古墳前期器台脚部（2・3）、内面折り返し口縁の甕（壷）（4）、県史編年奈良平安Ⅸ期の土師質土器坏（1）がある。それ以外に平安時代の灰釉壷、10世紀後半の土師器などがある。計1120g出土し、そのうち２割程度が10世紀後半から11世紀代と思われる。

８号溝遺物（第16図）　１は折り返し口縁の壷口縁。古墳前期か。計800gの古墳前期の土師器片が出土。

９号溝遺物（第16図）　１は高坏口縁か。780gの土師器が出土し、ほとんどが古墳前期であるが、10世紀後半の土師器も１点含まれる。

10号溝遺物（第16図）　１は口唇部にキザミをもつ単純口縁甕。計240gほどの土師器が出土しているが、S字甕など古墳前期に限られている。

11号溝遺物　時期不明。

12号溝遺物　時期不明の土師器１片、４g出土。

１号井戸遺物（第17図）　１は鉄製刀子（短刀）で、長さ25.4cm、幅27cm。約0.7cmの厚さをもつ。X線写真を撮影したところ、目釘穴が１箇所あることが判明した。井戸の石組中に差し込まれたように出土したことから、井戸と同時期かそれ以降と思われるが、時期は不明。130g。

１号石組遺物（第17図）　石組下層から出土した陶磁器類のうち、食器類の代表的なものを取り上げ、図化した。１～８は山梨療養所時代の食器類で、１・３は小皿、２は大皿、４は鉢、５・７は蓋付碗（丼）、８はご飯茶碗、６はその蓋かと思われる。皿・鉢には内面口縁部に緑の２本線、蓋、碗には口縁部外面に緑の２本線が付けられている。また３には「山梨療養所」、４には「山梨療養所厚生會」、５には「山梨厚生會」の文字が付けられている。いわゆる戦時下の国民食器の流れをくむ瀬戸物の磁器と考えられる。９は「みずほ牛乳」の湯呑み茶碗。これらは昭和26年から、温泉病院山梨療養所と改称する昭和47年まで病棟で使用されたと考えられる食器である。１号石組が廃棄されたのはその間であろう。1350g以上出土。

遺構外遺物（第17～19図）　計21030g出土。１は縄文土器で、晩期前半、大洞B-C式並行土器の口縁部。縄文土器は１以外には出土していない。２・３は波状沈線をもつ甕胴部。弥生末～古墳前期か。４はいわゆるパレス壷（パレス・スタイルの壷、宮廷式土器）で、異系統土器である。肩部に２本組みの突帯が２箇所巡り、突帯下に鋸歯状沈線が施文される。文様帯下端には斜めの刺突列が１条施文されている。肩部と底部付近の破片のため、図の器形は推定復元であるが、おそらく胴部中央やや下に最大径をもつ球形と思われる。突帯部には赤彩が認められる。５～８は器台。９は坩口縁部、あるいは器台脚部で、内面調整の状況からすると脚部の可能性が高い。11は坩と思われる口縁部。13～15は高坏。17は折り返し口縁の壷口縁。18も折り返し口縁壷で、口唇部に2本組の棒状加飾が付けられる。19は有段口縁壷。23・24はS字甕で、肩部に横ハケメをもつ県史編年古墳Ⅱ期のS字甕B類。25・27～31は単純口縁甕で28には口唇にキザミをもつ。10は須恵器坏で、時期は器形からすると9世紀後半の平安時代か。32～34は11～12世紀の土師質土器で、33・34は県史編年奈良平安Ⅹ期。32はⅧ～Ⅸ期か。

第４章　総　括

延命寺遺跡では、今回の調査によって古墳時代前期、平安時代の竪穴建物、古墳時代の溝、近世から現代と思われる井戸、石組等が検出され、遺構内外から縄文時代晩期、弥生時代末～古墳時代前・中期、平安時代９世紀中葉～11世紀代の遺物が出土した。そのほか遺跡は山梨厚生病院構内に立地することから、調査区付近に以前存在した病棟関連の廃棄物が多く出土し、中には昭和26年開設を物語る「山梨診療所」と印された食器類も出土し、名称を変えて発展を遂げた山梨厚生病院にとってみれば、今日では貴重な資料といえよう。遺跡の名称の由来となった「延命寺」に関しては、も

図５　パレス壷（第17図４）の出土状況

ともとどこに所在した寺院なのか突き止められていないが、上万力金桜神社の神宮寺として遺跡付近にあったことが想定される。調査区内でもその点を注意して調査を行ったが、寺院跡そのものの検出はない。出土資料中にも寺院関連の資料は見出すことができなかったが、わずかに中世末に遡る可能性のある陶器（天目茶碗片）がある。１号石組、１号井戸、３号溝など、近世にさかのぼる可能性のある遺構はあるものの、石積みの状況から中世までさかのぼるものとは考えられない。井戸、石組は病院開設以前から存在したと思われるもので、かつて存在したと考えられる屋敷地に伴う施設であって、病院開設初期には機能していたと思われるが、昭和30年代前後には廃棄されたのであろう。病院関係者にお伺いしたが、井戸、石組の存在を知る人はいなかった。

古墳時代初頭～前期　古墳時代初頭については、異系統土器（非在来系土器）の存在が注目される。第17図４、第15図１のいわゆるパレス・スタイルの壷（パレス壷）２点で、時期は山梨で古式土師成立期とされる京原式段階、東海地方でいうところの元屋敷式並行期に相当し、東海西部に由来する。山梨県内では中山誠二氏の集成により身洗沢遺跡（笛吹市八代町）、二之宮遺跡（笛吹市御坂町）、坂井南遺跡（韮崎市）、上野遺跡（三珠町）、長田口遺跡（南アルプス市、旧櫛形町）の計６遺跡からの出土が明らかとなっている。そのうち、身洗沢遺跡例、二之宮遺跡例が本遺跡例と形態的にも、文様要素の面でも類似している。

図６の１は身洗沢例で、肩部に貼り付け隆帯が１条巡り、その下には横位の沈線間に配された山形文（線鋸歯文）が２段巡るもので、外面は全面赤彩された壷である。器面調整として外面に斜位のハケメ、内面にヘラケズリが認められるという。調整技法、文様構成、貼付文の断面形、赤彩壷である点が延命寺例と同じである。２は二之宮例で、やや低い突帯が巡り、上下に山形文が２条存在し、下端部には斜位の短沈線が巡っている。山形文間に「く」の字の連続沈線（綾杉沈線）のある点が異なり、また突帯の形態がわずかに異なるものの、おおよそ延命寺例、見洗沢例に類似した土器といえる。以上のように、山梨県内のパレス壷には、山形文を２段もち、山形文間に突帯が巡り、下端に斜位の短沈線が巡る赤彩壷が知られる。突帯自体は頚部と肩部の境に貼付された事例が多いようであるが、多条化して肩部にもみられるのは特徴である。県内での分布は、現状としては甲府盆地東側に偏り、ひとつの分布域を形成するものと推測できる。

パレス壷（宮廷式土器）については、浅井和宏氏が形態分類、変遷、分布についてまとめ（浅井 1986）、中山氏も引用しているが、中山氏によれば横線文と山形文をもつタイプは宮廷式土器E類に相当するとされる（中山 1991）。E類段階は口縁部形態をもとに古・中・新の３時期細分がなされているが、山梨県内の事例はいずれも口縁部を欠失するため詳細な時期は不明

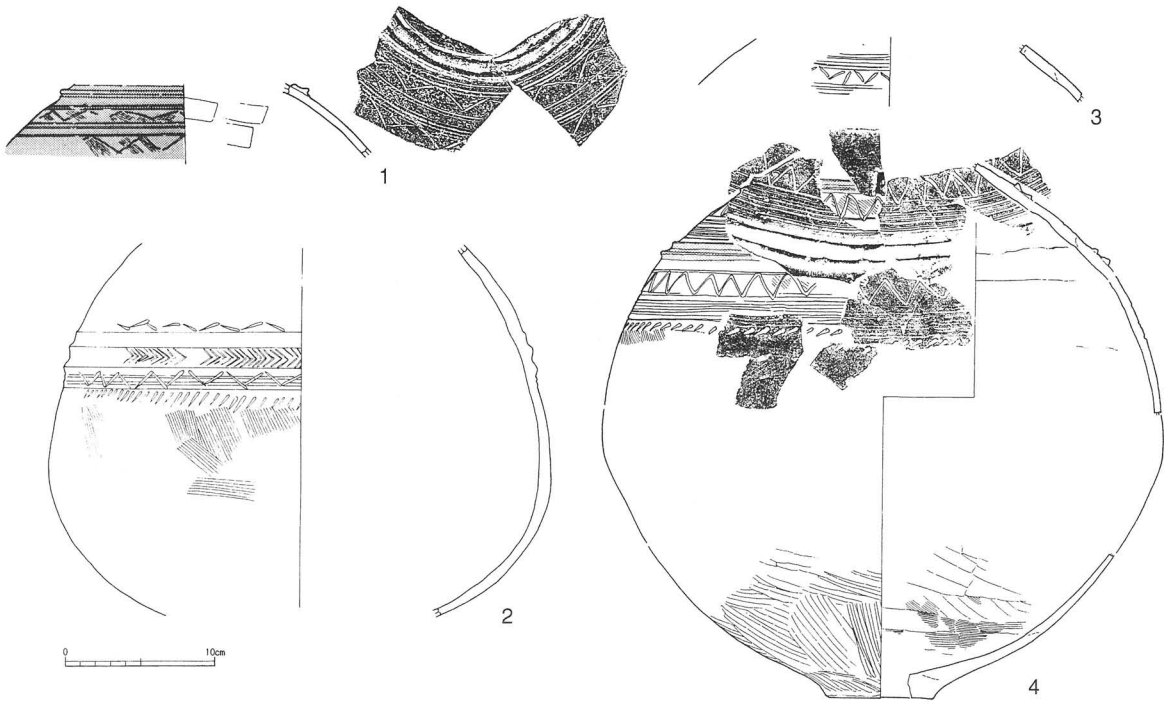


図６　山梨県内出土の「宮廷式E類」（１：身洗沢遺跡　２：二之宮遺跡　３・４：延命寺遺跡）

で、おそらく中、あるいは新段階と思われる。パレス壷は前半段階では知多半島を除く尾張を中心に分布していたが、E類段階になって東は群馬・栃木方面から西は大阪方面まで一挙に拡散するといわれ、とりわけ東日本への広域的な分布が注目される。山梨県の近隣では、松本市弘法山古墳出土例がE類新期とされ、信濃での古墳出現期の時期を示している。いずれにしても、東日本の古墳出現期において東海西部の強い影響下にあったことが土器様相から想像できるもので、S字甕の濃密な分布と合わせて当該期における東海地方との交流を示す事例といえる。本遺跡例のパレス壷の胎土観察によれば、粒径のやや大きな石英、赤色粒子を含み、在地的であり、文様要素にも甲府盆地としての地域性が認められることから、土器そのものの搬入ではなく、製作者の流入あるいは模倣として理解しておきたい。小林健二氏もこの点について「北関東西部地域ほどの強い定着性は認められないものの一定の形態を保持したものも見られることから、本県の様式に取り込まれていることは確かなようである」と指摘している（小林 1998)。

古墳時代前に関しては、不明瞭ながら2軒の竪穴が確認され、古墳時代3期という古墳時代前期末段階の集落の存在が明らかにされた。この時期に関しては周辺にいくつかの遺跡分布が知られ、とくに新環状・西関東道路建設に伴い山梨県埋蔵文化財センターによって調査された足原田遺跡（山梨市万力）では谷状遺構から土器捨て場が見つかり、多量の土器が出土した。古墳時代前期については、山梨市を含む甲府盆地東部地域での前期古墳は知られておらず、これまで注目されていない地域といえるが、足原田遺跡にみるように山梨市を中心とした笛吹川右岸に相当な規模の大集落が広範囲に広がっていることがわかる。

土器に注目すると、6号竪穴では土師器煮沸具はS字甕を主とし、わずかに模倣甕があるものの（1号溝1)、甲府盆地全体の様相と大差なく、地域性は薄いといえる。この時期は甲斐銚子塚が造られた時期にあたり、甲府盆地を中心とした甲斐地域の支配が強化された時期と思われ、S字甕の普及・定着化との関連が伺える。

小林健二氏によると、肩部横ハケメのないS字甕は、小林氏細分で古墳前期5期、Ⅳ類にあたり、東海系の影響は弱まり、在地化、定着したS字甕が変容した段階（変容期）とされる。その特徴としては口縁部の屈曲の不明瞭化、肩部横ハケメの消失、器形の長胴化をあげ、新たな器種の出現を指摘する。さらに小林氏はこうした山梨県内にみられる地域型のS字甕を「甲斐型S字甕」と呼称することを提唱し、実年代については5期を4世紀第3四半期内～第4四半期と推定する（小林 1998)。

6号竪穴のS字甕についてみると、小林氏のいう変容期の内容が必ずしも明確ではないが、内面の縦ナデ調整、外面の疎らなハケメ調整を指摘できるほか、第

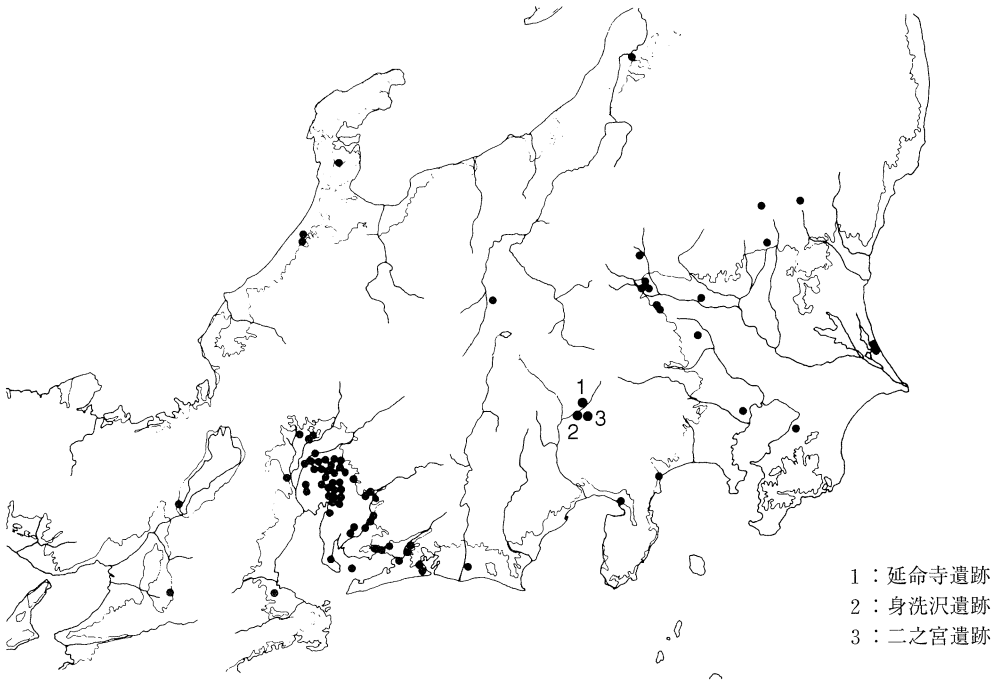
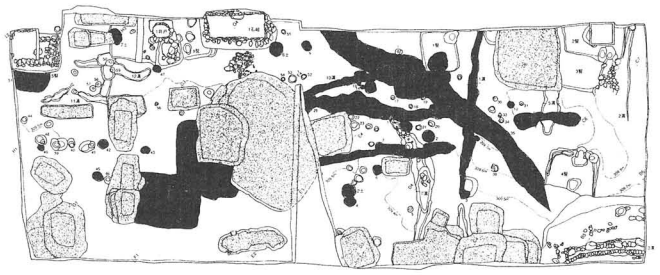


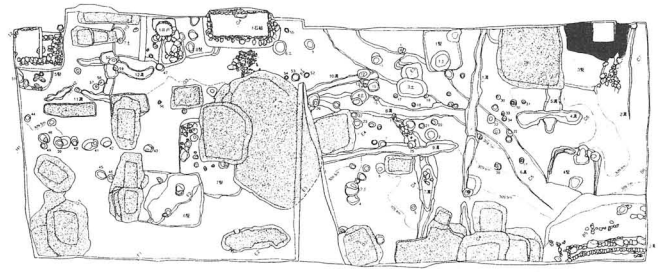
図7　「宮廷式E類」分布図（浅井1986に加筆）

14図４に見られる屈曲部境の横位沈線も特徴と思われる。本遺跡は弥生時代からの伝統的な集落とは言えず、古墳前期に集落が新たに出現する一例として理解されるが、とくに県史編年古墳3期には本遺跡のように集落が増加、拡散した可能性があり、S字甕の変容期とされる土器様相と関連させて考えることができそうである。

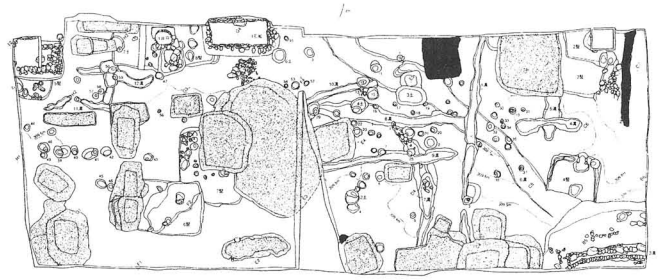
古墳前期



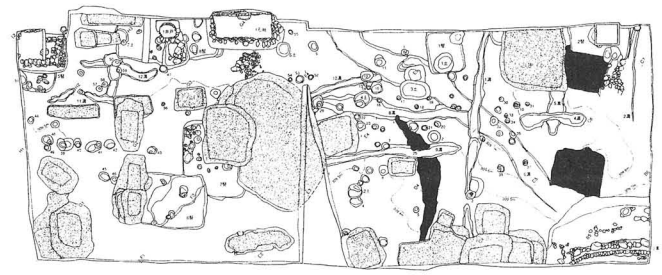
9C



10C



11C



近世～現代

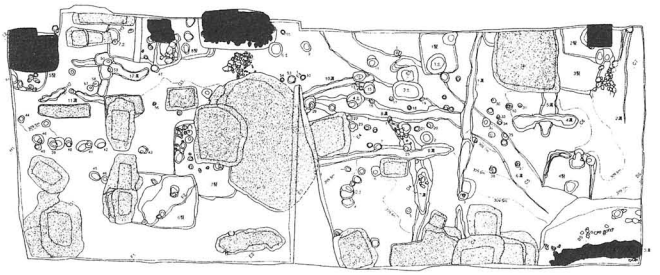


図８　遺構の変遷

平安時代　３軒の平安時代の竪穴が検出され、９世紀前半（２号竪穴）、10世紀後半（１号竪穴）、11世紀前半（４号竪穴）と、各時期１軒ずつの散漫とした状況である。断続的ではあるが、長期にわたり居住域とされ、また平安時代末には足原田遺跡でも６軒の竪穴建物跡が見つかっていることから、この一帯が平安時代において比較的安定した環境であったことがわかる。またそばにある金桜神社は、平安時代に信仰の足跡が認められる御嶽信仰の里宮で、付近一帯の総鎮守とされていることから、仮に平安時代に神社があったとするならば神社周辺には居住域としての集落が広がっていたと見られる。

平安時代の竪穴出土遺物で注目されるのは、１号竪穴竈出土の平瓦片と３号竪穴出土の不明土製品である。前者には布目はなく、両面に糸切り痕、指頭痕が残る。後者については布の代わりに筵、あるいはゴザ状の敷物を使用した瓦の可能性があるものの、断定はできない。平安時代以降の瓦出土地としては、本遺跡周辺では笛吹市春日居町の寺本廃寺、長谷寺境内、山梨市と塩山市の境にある七日子廃寺、塩山市放光寺、勝沼町大善寺がある。今後、瓦の比較を行い寺院を推定する必要があるが、今のところ類似する瓦は思い当たらない。平安時代では山林寺院が各地に建立され、各寺院のそばで瓦が生産されたらしいことから、本遺跡付近にも山中に寺院があったことが推測される。最近の調査で兜山に山房ではないかとされるテラス群が発見されているが、瓦は見つかっていない。１号竪穴出土の瓦は本集落の住人が瓦生産、寺院建立に係っていたことを示すものであろうか。３号竪穴の土製品については、凸面の圧痕が筵目と確実視できるものではいが、筵目に類似した圧痕であり、山梨県内で類例を求めると、室屋遺跡（笛吹市境川村）で筵目をもつ平瓦が採集されており、平安時代とされている。３号竪穴の帰属時期が明確ではないものの、２号竪穴出土の坏から平安末（11世紀後半）の可能性があり、その場合、１号竪穴の瓦とは時間差が生じてしまう。

以上のべたように、延命寺遺跡では古墳時代前半、平安時代に集落域として居住痕跡が確認された。とくに古墳時代初頭の東海西部の影響が強い土器の出土が注目されるほか、平安時代後半の瓦の出土についても周辺の寺院との関連性について注意しなければならない。また地名が示すように、金桜神社の神宮寺としての延命寺が存在したとされることから、金峰山信仰と

の関わりも無視できないものと思われる。

最後になりましたが、本報告を刊行するにあたり、（財）山梨厚生会　山梨厚生病院には遺跡の調査から本書の刊行に至るまで、ご理解、ご協力をいただき、心より厚く御礼申上げます。また山梨市教育委員会には調査、整理を通じてご指導、ご協力いただきました。また関係諸機関、関係各位をはじめ発掘調査に参加された方々には改めて御礼申上げる次第です。本書が地域史理解のための一助として活用されることを祈念します。

参考文献

中山誠二　1991「身洗沢遺跡における外来系土師器の諸例」『研究紀要』7　山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター

浅井和宏　1986「＜宮廷式土器＞について」『欠山式土器とその前後』第3回東海埋蔵文化財研究会

小林弘典　2004「足原田遺跡」『山梨考古』92　山梨県考古学協会

小林健二　1998「山梨県出土の東海系土器―波及と定着と変容―」『山梨県考古学協会誌』10

表1　土器・陶磁器観察表

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
13	1号竪穴	1	土師	坏	平安末	12.7/5.0/4.5	ロクロナデ	黄褐	赤	188	約8割遺存
13	1号竪穴	2	土師	坏	平安	(13.7)/-/-	ロクロナデ	黄褐	赤-大・多、焼成不良	643・645	
13	1号竪穴	3	土師	坏	平安	(13.8)/-/-	ロクロナデ	暗褐	赤-微	68	
13	1号竪穴	4	土師	坏	平安	(17.9)/-/-	ロクロナデ	黄褐	赤、雲-微	644・1竪竈	
13	1号竪穴	5	土師	高坏	古墳	-/-/-	ナデ	橙褐	長	67・81	
13	1号竪穴	6	土師	坏	平安	-/4.5/-	ロクロナデ、ヘラケズリ	橙褐	赤、白	16	
13	1号竪穴	7	土師	甕	平安	(35.5)/-/-	ハケメ	暗褐	長、角	864(竈)	
13	2号竪穴	1	土師	坏	平安	(11.0/6.1)/4.1	ロクロナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文	褐	赤-微	214	体部外面焼成後線刻「四」
13	2号竪穴	2	土師	坏	平安	(11.1)/5.6/4.0	ロクロナデ、内面放射状暗文	明褐	赤、白	221・917	体部外面～底部磨耗
13	2号竪穴	3	土師	坏	平安	(11.2)/6.0/4.2	体部下半～底部回転ヘラケズリ、内面放射状暗文	明褐	赤、雲	218・917	
13	2号竪穴	4	土師	器台	古墳	(11.0)/-/-	見込み部横ミガキ、外面ヘラケズリ	橙褐	赤、長	93	
13	2号竪穴	5	土師	坏	平安末	13.2/6.4/4.7	ロクロナデ、底部糸切り	橙褐	長、石、赤	200	
13	2号竪穴	6	須恵	甕	平安	(23.5)/-/-	ロクロナデ	灰		209・216	
13	3号竪穴	1	土師	甕	古墳	(21.4)/-/-	ハケメ、口唇部キザミ	暗黄褐	長、石	255	
13	3号竪穴	2	土師	甕	古墳	(29.8)/-/-	ハケメ、口唇部キザミ	黄褐	長、角	261	
14	4号竪穴	1	土師	坏	平安末	(11.3)/5.0/(3.4)	ロクロナデ	橙褐	石、赤	408(竈)・竈	内外面薄く黒変
14	4号竪穴	2	土師	坏	平安末	(10.2)/4.6/3.1	ロクロナデ	灰褐	雲、長、赤	236・237・266	約9割遺存
14	4号竪穴	3	土師	坏	平安末	(10.9)/4.4/3.4	ロクロナデ	鈍い褐	赤、角	879	
14	4号竪穴	4	土師	坏	平安末	(11.4/6.0)/3.9	ナデ	褐～黄褐	赤	246	
14	4号竪穴	5	土師	高台坏	平安末	(12.4/7.0)/5.6	ロクロナデ	橙褐	長、雲	267・406	約6割遺存
14	5号竪穴	1	土師	壷?	古墳?	-/(4.9)/-	外面縦ナデ、内面横ナデ、底部ナデ	明褐	長、赤、角、雲-微	948	
14	6号竪穴	1	土師	坏	古墳	(11.9)/-/-	外面ナデ	明褐	長、雲	990	
14	6号竪穴	2	土師	壷?	古墳	(25.7)/-/-	外面縦ナデ	灰褐	長、石、角、雲	1049	内面黒変(コゲ?)
14	6号竪穴	3	土師	S字台付甕	古墳	(13.0)/-/-	外面斜位ハケメ、内面縦ナデ	赤褐～黄褐	長、雲、石、角	956・977・979～981・983・984・1000・1011～1013・1018・1028・1031・1053・1054・1071・1072	
14	6号竪穴	4	土師	S字台付甕	古墳	(16.0)/-/-	斜位ハケメ、頸部沈線	黄褐～褐	雲、長、石、角、堆	929・931・977・978・1017・1020・1024・1025・1052～1055・1057・1058・1074	
14	6号竪穴	5	土師	S字台付甕	古墳	(12.8)/-/-	斜位ハケメ	鈍い褐	雲-やや多、石、長	979・981・986～988・1031・1036	外面部分的に黒変
14	6号竪穴	6	土師	S字台付甕	古墳	(14.2)/-/-	胴部やや間隔のある斜位ハケメ	黄褐	雲-大・多、長、石	955・989・1001～1005・1019・1021～1023・1045	
14	6号竪穴	7	土師	S字台付甕	古墳	-/-/-	斜位ハケメ、内面ナデ	橙褐	雲、長、赤	958・960・985・996・997・1015・1030・1032～1034・1037	
14	6号竪穴	8	土師	台付甕	古墳	-/(10.8)/-	ナデ	赤褐	角-やや多、雲、赤、長	1005～1007	
15	7号竪穴	1	土師	高坏	古墳	-/(12.2)/-	外面縦ミガキ、内面横ハケ、径1.2の孔2段	黄褐	赤、長、雲、石	1084・1090	
15	7号竪穴	2	土師	小型甕	古墳	(10.8)/4.0/(11.9)	外面ハケメ、底部ナデ	赤褐～鈍い褐	長、赤、雲	1088・1089	外面スス付着、内面薄く黒変、ほぼ完存
15	7号竪穴	3	土師	台付甕	古墳	-/-/-	ハケメ	鈍い褐	長・石-大・多、堆、雲-大	1089	内面薄く黒変
15	8号竪穴	1	土師	パレス壷	古墳初	-/-/-	鋸歯状沈線文、横ハケ	黄褐	長、石、雲	945	外面一部赤彩か
15	8号竪穴	2	土師	小型甕	古墳?	(13.0)/-/-	ハケメ	暗褐～褐	長、雲、赤	1104	外面黒変
15	8号竪穴	3	土師	甕?	古墳?	(15.5)/-/-	折り返し口縁、ハケメ	明褐	デ、赤、雲-微	1103	
15	3号土坑	1	土師	坩	古墳	(10.7)/-/-	外面一部ハケメ、内面横ナデ	茶褐	長-多、雲-微、赤	730	
15	3号土坑	2	土師	壷	古墳	(13.8)/-/-	外面細かなハケメ	鈍い褐	赤、長	866	外面薄く黒変
15	3号土坑	3	土師	台付甕	古墳	-/(8.5)/-	脚外面縦ハケメ	黄褐～褐	長・石-多、赤	865	内面薄く変色
15	4号土坑	1	土師	壷	古墳	(15.8)/-/-	外面縦ナデ、内面横ナデ	橙褐	長-多、石、雲	905	
15	3号ピット	1	土師	高坏	古墳	-/(16.0)/-	縦ミガキ	橙褐	長、赤	119	
15	5号ピット	1	土師	坩	古墳	(12.8)/-/-	内外面とも縦ミガキ	鈍い褐	赤、長	883	
15	12号ピット	1	土師	甕	古墳	(13.2)/-/-	ハケメ、ナデ	赤褐	赤、長	723	外面薄く変色
15	24号ピット	1	土師	坩	古墳	(9.4)/-/-	内外面とも縦ミガキ	鈍い褐	長、角-微	903	
15	24号ピット	2	土師	台付甕?	古墳	-/-/-	ナデ、内面ハケメ	鈍い褐	長-多、雲	391	外面赤彩、内面黒変
15	25号ピット	1	土師	坏	平安末	10.7/5.0/3.1	ロクロナデ、底部糸切り	橙褐	赤、雲-微	396	約7割遺存
15	51号ピット	1	土師	高坏?	平安	21.5/-/-	内外面ハケメ	褐	長-大・多	974	蓋の可能性
16	1号溝	1	土師	甕	古墳	(18.9)/-/-	ナデ	橙褐	長、石、赤、雲	532	外面一部黒変
16	6号溝	1	土師	高坏?	古墳	(13.9)/-/-	内面斜位ヘラミガキ	黄褐	長	667・881(11ピ)・6溝	
16	6号溝	2	土師	坩	古墳	-/3.0/-	ナデ、底部ヘラケズリ	鈍い褐	赤	898	
16	6号溝	3	土師	坏	平安末?	(10.5/4.8)/3.5	ロクロナデ、底部糸切り	鈍い黄褐	長、雲	327	
16	6号溝	4	須恵	坏	平安?	-/(7.3)/-	ロクロナデ	灰	白	51	
16	6号溝	5	土師	器台	古墳	(10.0)/-/-	見込み部放射状ミガキ・円孔、外面ヘラケズリ、	褐	赤、長	693	
16	6号溝	6	土師	器台	古墳	(10.3)/-/-	内面ミガキ	橙褐	赤、雲	516	
16	6号溝	7	土師	器台	古墳	-/-/-	縦ヘラミガキ、円孔	茶	長、赤	341	
16	6号溝	8	土師	器台	古墳	-/-/-	ヘラミガキ、見込み部放射状ミガキ、脚円孔	暗褐	長、雲	173	
16	6号溝	9	土師	器台	古墳	-/(16.8)/-	ナデ	赤	断面黒色サンド	798	
16	6号溝	10	土師	S字台付甕	古墳	(10.0)/-/-	外面ハケメ後横沈線	灰褐	長、角	492	
16	6号溝	11	土師	S字台付甕	古墳	(17.1)/-/-	外面斜位ハケメ、内面ナデ	鈍い褐、内面暗褐	長-やや多、雲	674	
16	6号溝	12	土師	壷	古墳?	(14.2)/-/-	ナデ、ミガキ	橙褐	赤	798	
16	6号溝	13	土師	甕	古墳?	(18.6)/-/-	ハケメ	暗褐	長、角	493	外面スス付着
16	6号溝	14	土師	甕	古墳?	(20.4)/-/-	ハケメ、ナデ	鈍い褐～橙褐	長、雲	662	外面薄く黒変
16	6号溝	15	土師	甕	古墳?	(21.8)/-/-	ハケメ	黄褐	長、赤	84	

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
16	6号溝	16	土師	台付甕	古墳	-/8.7/-	ハケメ	褐	長-やや多、雲	64・799	
16	6号溝	17	土師	台付甕	古墳	-/(11.8)/-	ハケメ、内面ナデ	褐	長、角	695	
16	6号溝	18	須恵	壷	平安?	-/-/-	叩き	灰	白	328	転用硯（内面）
16	7号溝	1	土師	坏	平安末	(13.0/7.1)/4.0	ロクロナデ、糸切り	明褐	赤、長	31	
16	7号溝	2	土師	器台	古墳	-/(18.8)/-	外面縦ミガキ	橙褐	長、石、赤	404	
16	7号溝	3	土師	器台	古墳	-/(16.5)/-	外面ミガキ、内面横ナデ	鈍い褐	長、石、赤	773	外面赤彩?
16	7号溝	4	土師	壷?	古墳?	(27.8)/-/-	内面折り返し口縁、外面横ハケ後縦ミガキ	鈍い褐	長、石、雲	637(7溝)・792(9溝)	
16	7号溝	5	土師	甕	古墳?	-/(9.0)/-	外面縦ハケ、内面横ハケ、底部外面ナデ	橙褐	長、赤、堆、角	392(7溝)・652(9溝)	
16	8号溝	1	土師	甕	古墳?	(17.0)/-/-	折り返し口縁、内面横ナデ	暗～灰褐	長-大、雲	550	内外面薄く黒変
16	9号溝	1	土師	器台	古墳	(20.0)/-/-	内外面ナデ	褐	長、赤、雲	638	
16	10号溝	1	土師	甕	古墳	(20.0)/-/-	口唇キザミ、内面横ハケ	褐、内面灰褐	長・石-やや多、赤	720・722	内面灰色
17	1号石組	1	磁器	小皿	昭和	(7.8/4.8)/2.3	高台付、口縁内面に緑色2本線	白		1石	
17	1号石組	2	磁器	皿	昭和	(15.1/10.3)/2.8	高台付、口縁内面に緑色2本線	白		1石	底部外面に2本の重圏隆線
17	1号石組	3	磁器	小皿	昭和	9.4/5.5/1.8	高台付、口縁内面に緑色2本線	白		1石	見込み部に緑色で「山梨療養所」印字
17	1号石組	4	磁器	皿	昭和	14.5/5.4/4.1	高台付、口縁内面に緑色2本線	白		1石	楕円形の皿、内面に朱で「山梨療養所厚生會」印字あり
17	1号石組	5	磁器	蓋	昭和	(13.5/5.8)/3.8	高台付、口縁外面に緑色2本線	白		1石	外面に朱で「山梨厚生會」印字あり、丼(1-7)の蓋か
17	1号石組	6	磁器	蓋	昭和	11.9/(5.4)/2.4	高台付、口縁外面に緑色2本線	白		1石	
17	1号石組	7	磁器	碗	昭和	(15.7/5.9/7.6)	高台付、口縁外面に緑色2本線	白		1石	丼茶碗
17	1号石組	8	磁器	碗	昭和	(11.0/5.0)/7.0	高台付、口縁外面に緑色2本線	白		1石	ご飯茶碗か
17	1号石組	9	磁器	茶碗	昭和	6.6/3.6/6.8	高台付、口縁外面に朱で1本線	白		1石	体部外面に「みずほ牛乳」およびマーク、反対側に「協同乳業株式会社甲府工場電二〇八二・三五二四」の朱印字あり、完存
17	遺構外	1	土器	深鉢	縄文晩	-/-/-	沈線、縄文、内面横ミガキ	橙褐	長、雲	857・858・B6	
17	遺構外	2	土器	甕	古墳初	-/-/-	櫛描波状文	外-橙褐、内-灰褐	長、石	610	
17	遺構外	3	土器	壷?	古墳初	-/-/-	波状櫛描文、擬似縄文	明褐、内面暗褐	長、石、雲	D5	
17	遺構外	4	土師	パレス壷	古墳初	-/(7.0)/-	胴下半外面ヘラミガキ良好、胴上半２本セットの隆線２本、鋸歯状沈線文、列点文	明褐	赤-大、雲、石、長	102・103・105・106・113・118・132・133・379・381・526・648・742・758・D4・D5	外面突帯部に赤彩
18	遺構外	5	土師	器台	古墳	(10.9)/-/-	外面ヘラケズリ、内面放射状ミガキ	明褐	赤、雲	602(D4)	
18	遺構外	6	土師	器台	古墳	-/(7.7)/-	脚外面縦ヘラ削り、ミガキ、見込み部放射状ミガキ	橙褐	雲、長	1095(F3)	内面灰色
18	遺構外	7	土師	器台	古墳	-/-/-	脚外面縦ミガキ、径1.4cmの孔	明褐	赤、長、雲	124(C4)	
18	遺構外	8	土師	器台	古墳	-/(11.0)/-	ナデ、ケズリ、円孔	黄褐	石、赤	H2	
18	遺構外	9	土師	坩?	古墳	(13.8)/-/-	外面縦ヘラミガキ	橙褐	長、赤	382	脚の可能性
18	遺構外	10	須恵	坏?	平安?	(14.0)/-/-	ロクロナデ	灰		462(D4)	
18	遺構外	11	土師	坩	古墳	(10.9)/-/-	外面縦ミガキ、内面横ミガキ	灰褐	長、石	D5	
18	遺構外	12	土師	小型甕?	古墳	-/4.0/-	ナデ	褐	長、角	38	
18	遺構外	13	土師	高坏	古墳	(18.9)/-/-	ナデ	黄褐	赤-やや多、長、石	149・332・333(D3)	
18	遺構外	14	土師	高坏	古墳	(24.0)/-/-	内外面縦ヘラミガキ	橙褐	長、雲	138(C4)	
18	遺構外	15	土師	高坏	古墳	(20.9)/-/-	ナデ	橙褐	長-多、赤、石	620～624(D3)・E3	
18	遺構外	16	土師	高坏	古墳	(20.2)/-/-	内外ヘラミガキ	橙褐	長、石、赤	123	
18	遺構外	17	土師	壷	古墳	(16.5)/-/-	折り返し口縁、横ナデ	鈍い褐	赤、長、白	919(C3)	内面赤彩（焼成前?）
18	遺構外	18	土師	壷	古墳?	(15.7)/-/-	口縁部縦ハケ後横ヘラミガキ、折り返し口縁、２本セットの粘土紐貼付、内面横ヘラミガキ良好	明褐	雲-微、赤-少、断面黒色サンド、焼成良	F2	
18	遺構外	19	土師	壷	古墳?	(20.3)/-/-	ロクロナデ	明褐	雲、長、赤、断面黒色サンド	954・F2	
18	遺構外	20	土師	高坏?	古墳	(27.7)/-/-	外面横ミガキ顕著	鈍い褐	長・堆-大・多、赤	28(C4)	内外面赤彩(焼成前?)
18	遺構外	21	土師	小型壷?	古墳	-/-/-	隆線上キザミ、内面横ナデ	橙褐	雲、長、白	814(F4)	内外面赤彩
18	遺構外	22	土師	壷	古墳?	-/-/-	ナデ、胴下半縦ミガキ	橙褐	長、赤、石	607・609・614	外面黒変
18	遺構外	23	土師	S字台付甕	古墳	(9.9)/-/-	外面斜位ハケメ後横ハケメ	黄褐	長-多、雲、粘	801(F4)	
18	遺構外	24	土師	S字台付甕	古墳	(19.6)/-/-	外面縦ハケメ後横ハケメ	褐	長、角、赤、雲、内面黒色サンド	946(H1)	
18	遺構外	25	土師	小型甕	古墳?	10.9/-/-	ハケメ、ナデ	黄褐	長、雲、赤、石	970	
18	遺構外	26	土師	台付甕	古墳	-/(11.9)/-	ハケメ	黄褐～赤褐	長、雲	333・614・615	
18	遺構外	27	土師	甕	古墳	(13.7)/-/-	外面縦ハケ、内面横ハケ	外面黒褐、内面暗褐	長-大・多、雲、花崗岩	909	外面黒変
18	遺構外	28	土師	甕	古墳	(15.5)/-/-	口唇キザミ、内外面横ナデ	外面黒褐、内面暗褐	長、石	477(C4)	外面黒変(スス付着)
18	遺構外	29	土師	甕	古墳	(16.5)/-/-	外面一部ハケメ、内面横ナデ	明褐	長、石、雲	472(C4)	
18	遺構外	30	土師	甕	古墳?	(17.6)/-/-	外面縦ハケ、内面横ハケ	鈍い褐	長、白、雲	749(D4)	
18	遺構外	31	土師	甕	古墳	(22.8)/-/-	内外面横ナデ、外面一部縦ハケメ	暗褐～鈍い褐	長、石、赤、堆	130	外面黒変
19	遺構外	32	土師	皿	中世	(9.0/4.0)/2.0	底部糸切り	灰褐	雲-微	D3	
19	遺構外	33	土師	坏	平安末	10.6/-5.0/2.7	ロクロナデ、底部糸切り	橙褐	長、石、赤	136	約7割遺存
19	遺構外	34	土師	柱状高台皿	平安末	9.4/5.0/3.4	ロクロナデ、底部糸切り	橙褐	長、赤	234	約8割遺存
19	遺構外	35	須恵	甕	平安?	-/-/-	叩き	灰	白、黒	135	

表２　石器観察表

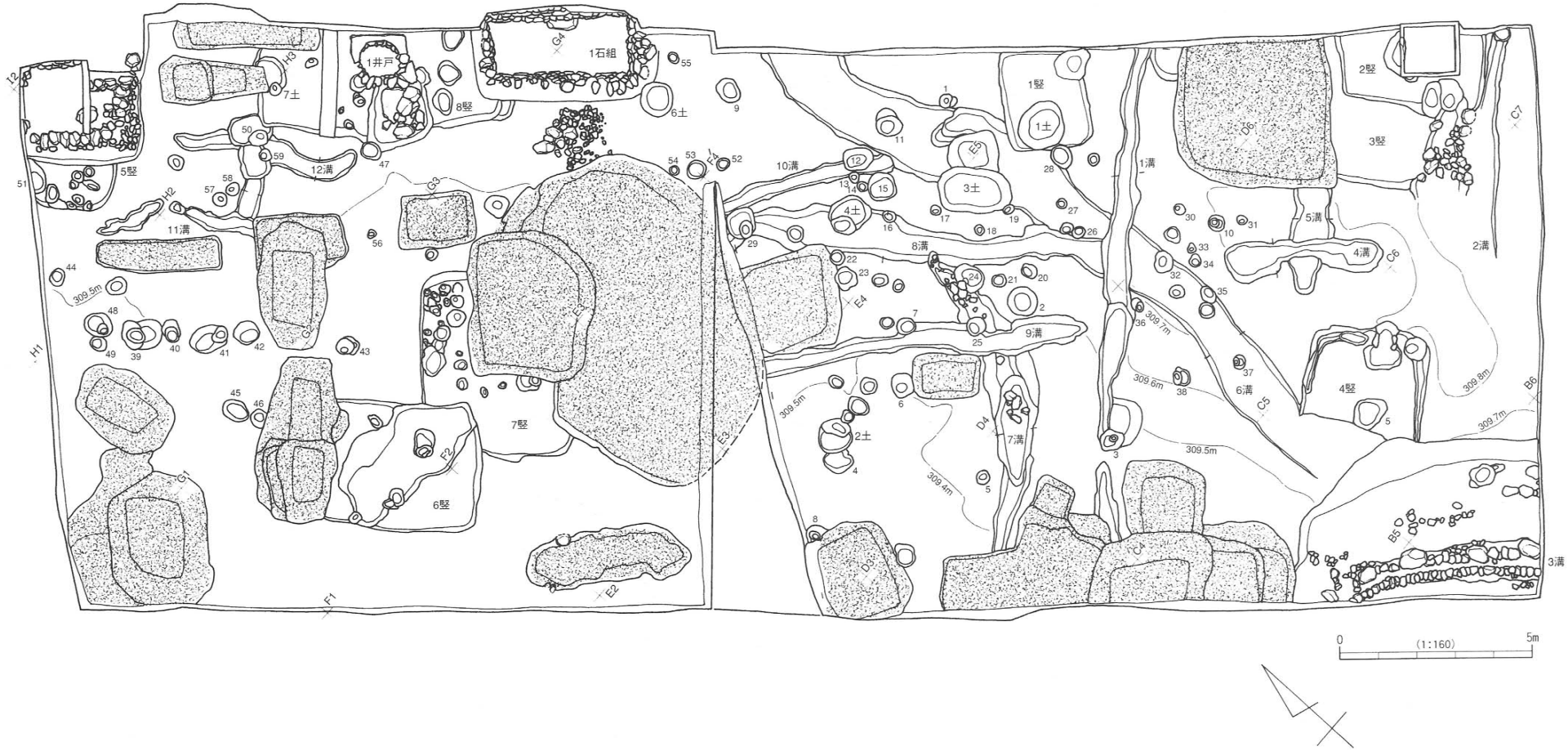
図版	地点	No.	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
14	4号竪穴	6	磨り石	8.4/7.8/6.2	568	花崗岩	白褐	268	磨り面は弱い

表３　土製品観察表

図版	地点	No.	種別	時期	長/短/厚cm 口/底/高cm	重さg	整形技法等	色調	胎土	注記	備考
13	1号竪穴	8	平瓦	奈～平	13.0/7.6/1.7	204	1枚作り、凹面離れ砂付着、ヘラケズリ、糸切痕	橙褐	長、石、赤、角-粒大・表裏	642(1竪竈)	表裏面に離れ砂付着、布面なし
13	3号竪穴	3	不明土製品	不明	17.8/13.0/8.8	1080	筵目・ゴザ?	暗褐～黄褐	長-大、石、赤、堆	264	鋳型か丸瓦の可能性
19	遺構外	36	土製円板	不明	3.4/3.0/0.9	10	内外面ナデ	橙褐	長、石、赤	D3	

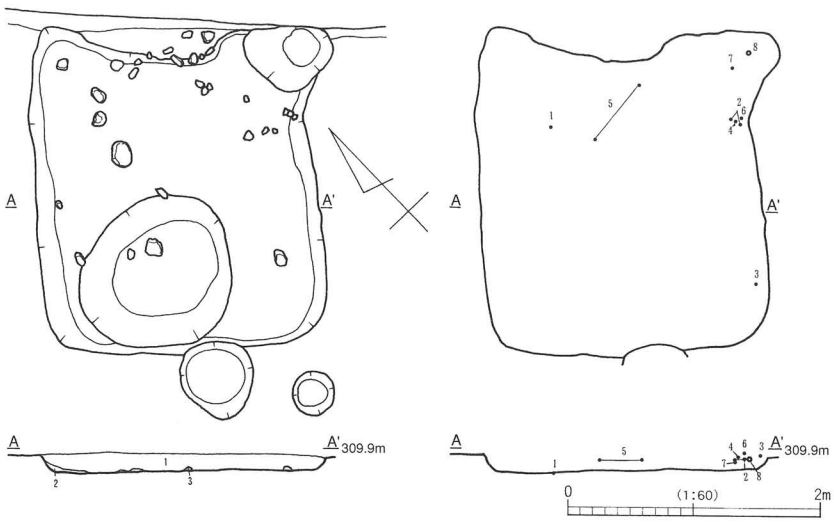
表４　金属製品観察表

図版	地点	No.	種別	材質	長cm	幅cm	厚さcm	注記	備考
17	1号井戸	1	刀子	鉄	25.5	2.8	0.7	973	目針穴あり



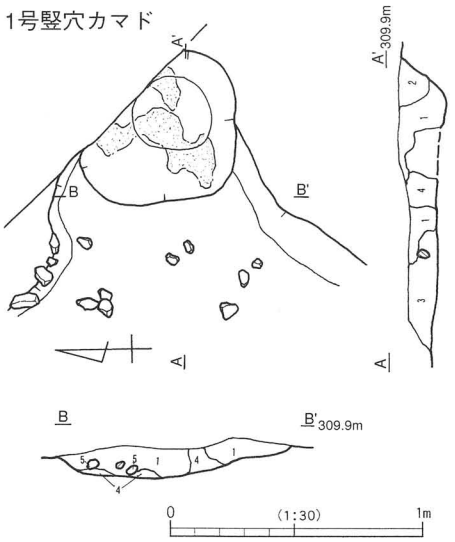
第１図　延命寺遺跡　調査区全体図（1：160）（網部は撹乱）

1号竪穴



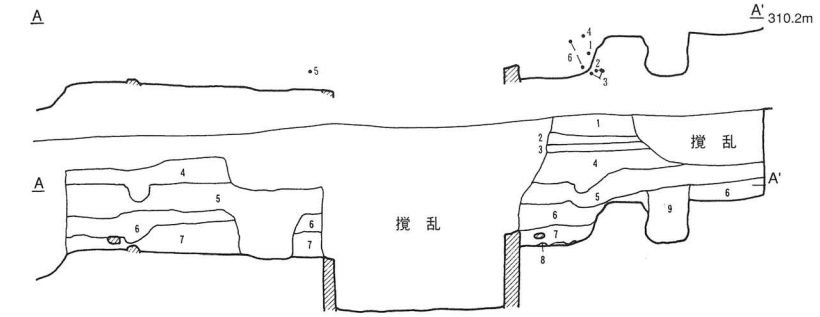
1　黒褐色砂質土（7.5YR3/2）粘性なし。しまりあり。炭化粒少量含む。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）やや黒味弱い。粘性なし。しまりあり。
3　褐色砂質土（7.5YR4/3）ブロック状に混入。

1号竪穴カマド

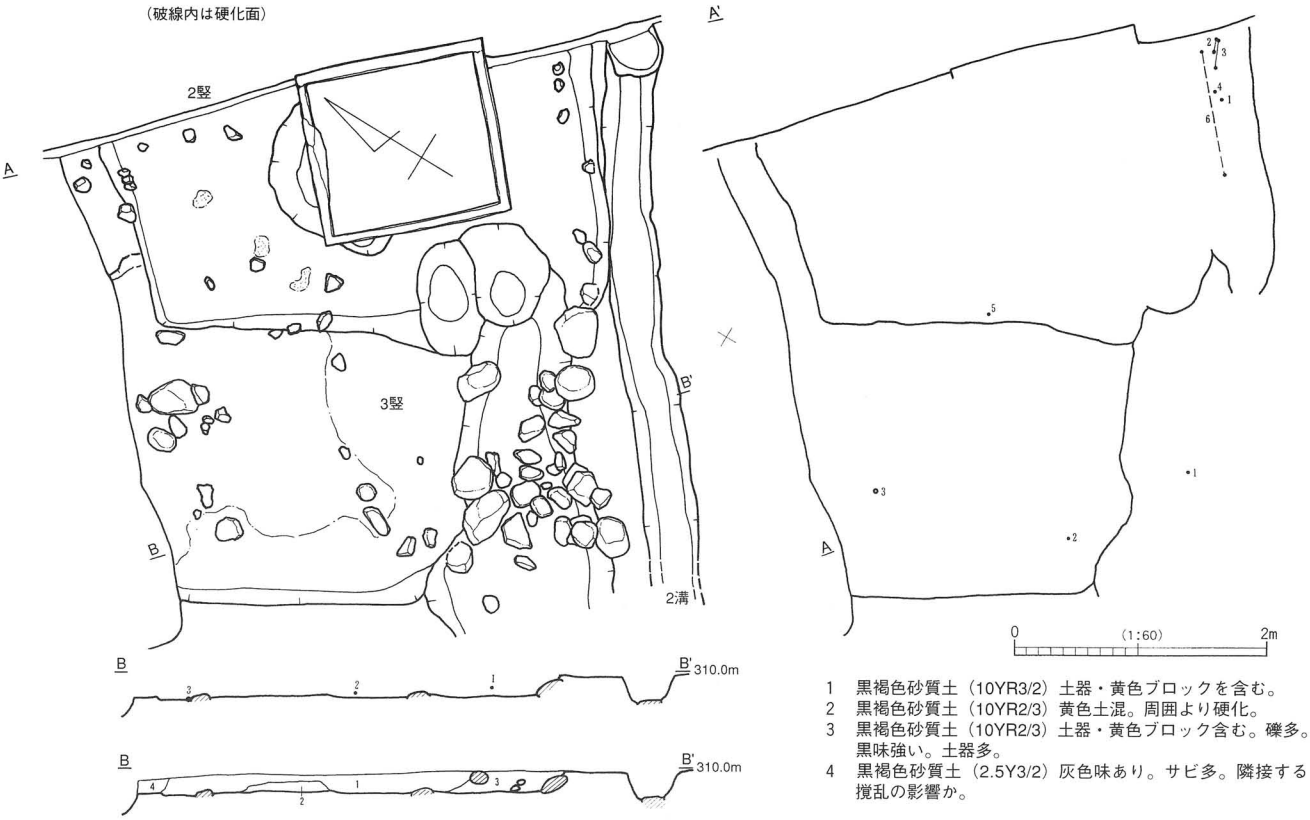


1　暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土粒・炭化粒を含む。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）1層に似るがやや灰色味が強い。
3　黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色砂質ブロックを含む。焼土なし。
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土・炭化粒なし。
5　暗褐色土（5YR3/4）焼土ブロック。

2・3号竪穴



1　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）サビ混。やや黒味あり。
2　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）サビ混。上層より明るい。
3　褐色砂質土（7.5YR4/6）サビ分が強い。
4　暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）粘性弱い。サビ混。
5　黒褐色砂質土（10YR3/1）サビ多く含む。
6　黒褐色砂質土（10YR2/2）灰色ブロック多い。土器を含む。
7　黒色砂質土（10YR2/1）土器あり。灰色粒・黄色粒少。
8　暗褐色砂質土（10YR3/3）ブロック状。地山類似。
9　黒褐色砂質土（10YR2/2）6層類似。

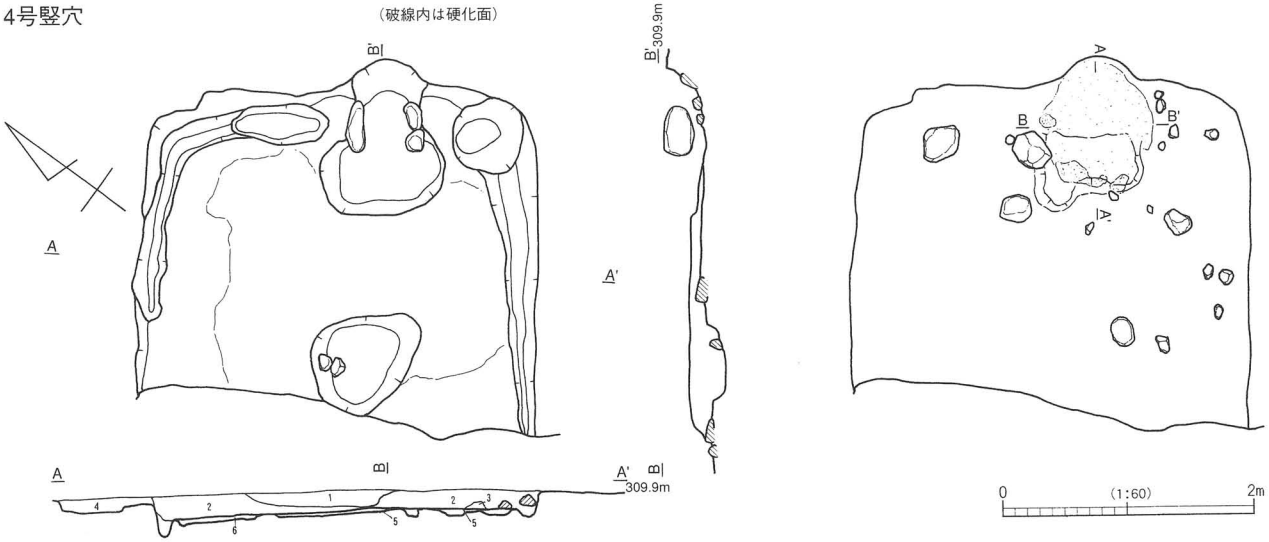


1　黒褐色砂質土（10YR3/2）土器・黄色ブロックを含む。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄色土混。周囲より硬化。
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）土器・黄色ブロック含む。礫多。黒味強い。土器多。
4　黒褐色砂質土（2.5Y3/2）灰色味あり。サビ多。隣接する撹乱の影響か。

第2図　1～3号竪穴

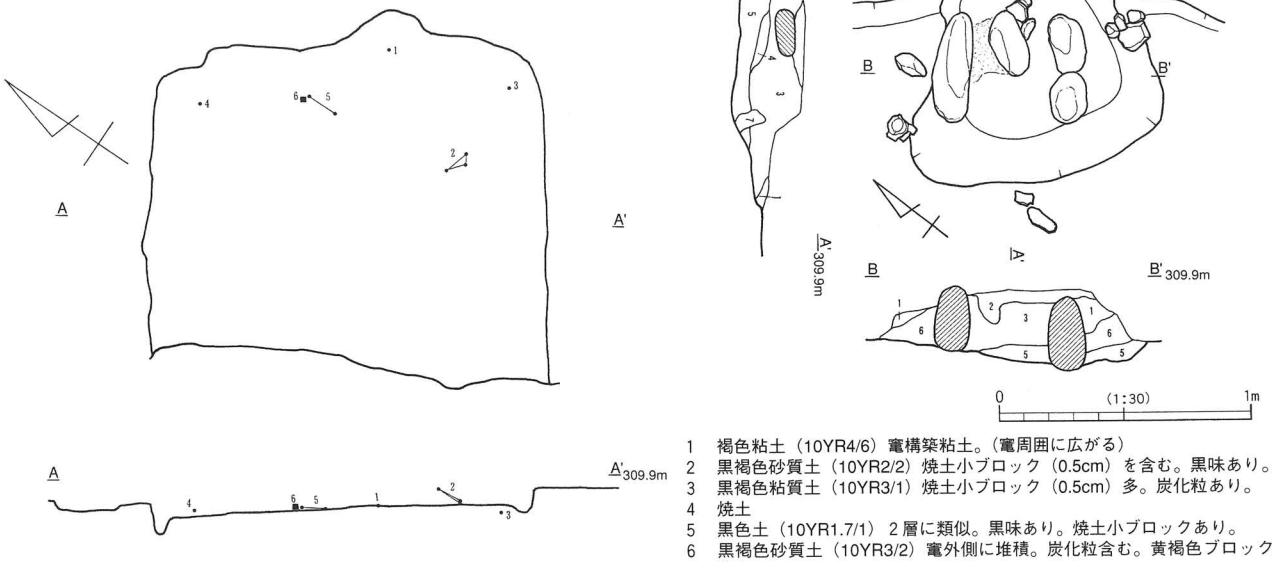
4号竪穴

（破線内は硬化面）



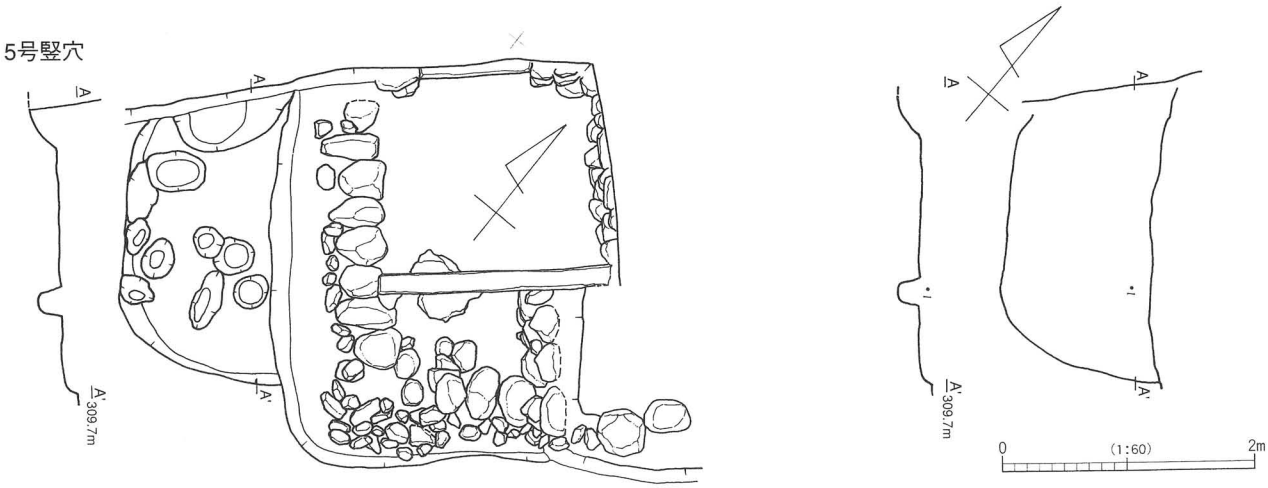
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄色ブロック多。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄色ブロック多。土器・炭化粒少。1層よりやや暗い。
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）硬化する。
4　暗褐色砂質土（10YR3/4）地山。
5　黒褐色砂質土（10YR2/3）貼床で著しく硬化する。灰色粒多。黄褐色粒少。
6　黒褐色砂質土（10YR2/3）1層に似るが、硬化弱い。

4号竪穴　竈



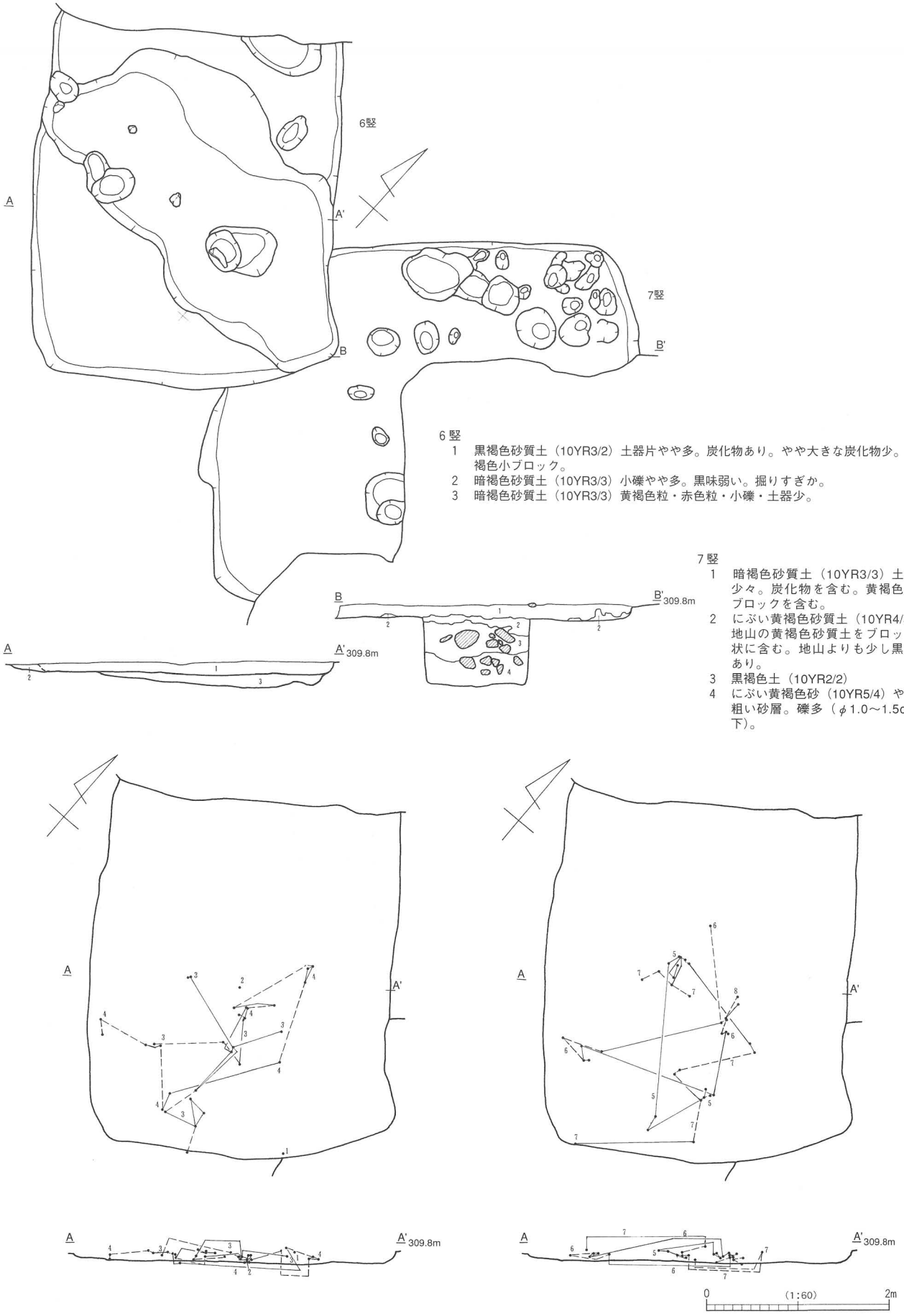
1　褐色粘土（10YR4/6）竈構築粘土。（竈周囲に広がる）
2　黒褐色砂質土（10YR2/2）焼土小ブロック（0.5cm）を含む。黒味あり。
3　黒褐色粘質土（10YR3/1）焼土小ブロック（0.5cm）多。炭化粒あり。
4　焼土
5　黒色土（10YR1.7/1）2層に類似。黒味あり。焼土小ブロックあり。
6　黒褐色砂質土（10YR3/2）竈外側に堆積。炭化粒含む。黄褐色ブロック含む。
7　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）撹乱状に貫入。

5号竪穴



第3図　4・5号竪穴

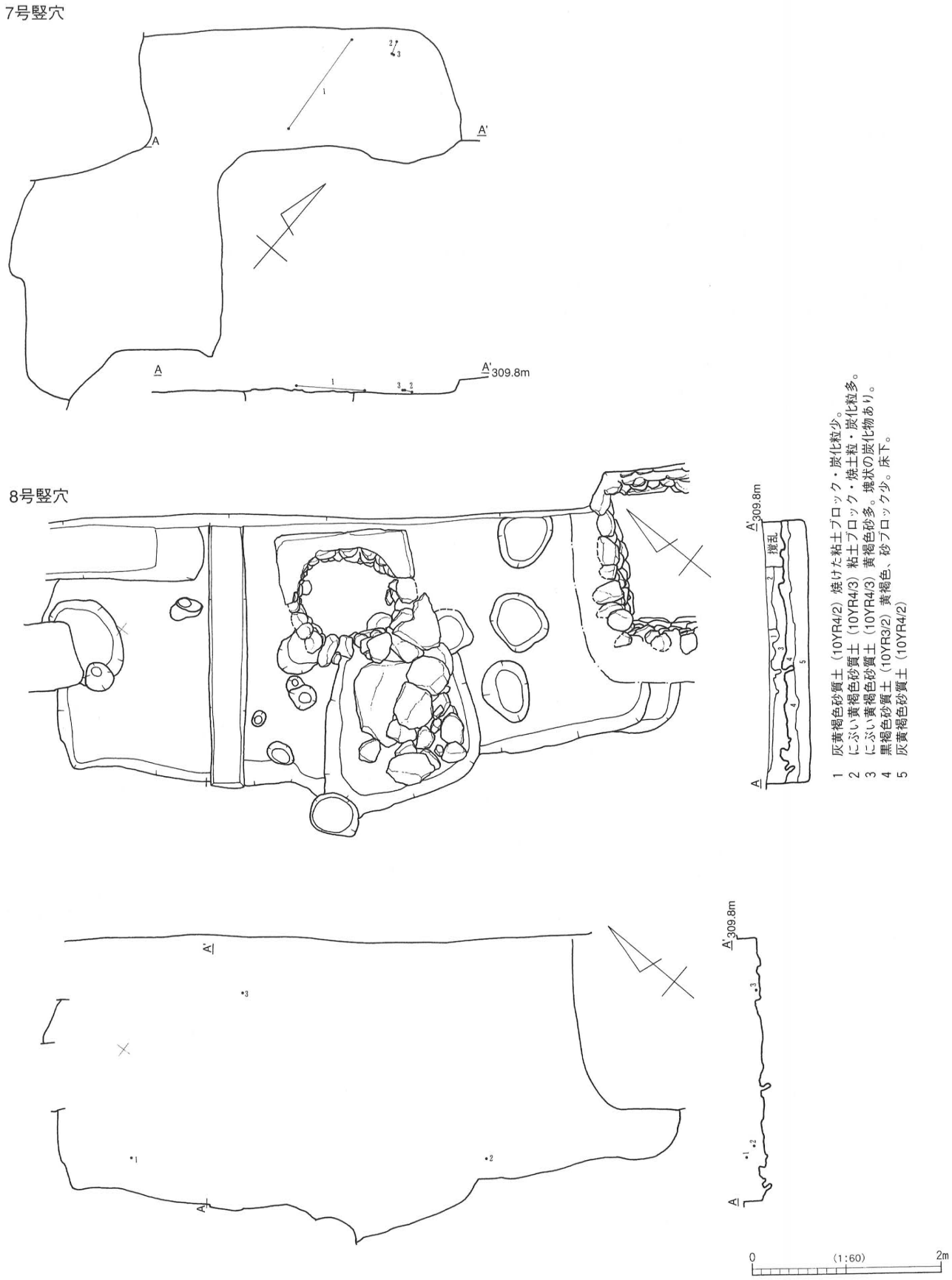
6・7号竪穴



6竪
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）土器片やや多。炭化物あり。やや大きな炭化物少。黄褐色小ブロック。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）小礫やや多。黒味弱い。掘りすぎか。
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色粒・赤色粒・小礫・土器少。

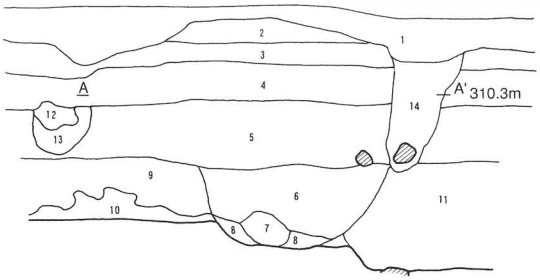
7竪
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）土器少々。炭化物を含む。黄褐色小ブロックを含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山の黄褐色砂質土をブロック状に含む。地山よりも少し黒味あり。
3　黒褐色土（10YR2/2）
4　にぶい黄褐色砂（10YR5/4）やや粗い砂層。礫多（φ1.0～1.5cm下）。

第4図　6・7号竪穴


7号竪穴
A
A'
309.8m
8号竪穴
撹乱
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼けた粘土ブロック・炭化粒少。
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）粘土ブロック・焼土粒・炭化粒多。
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂多。塊状の炭化物あり。
4 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色、砂ブロック少。床下。
5 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
0
(1:60)
2m

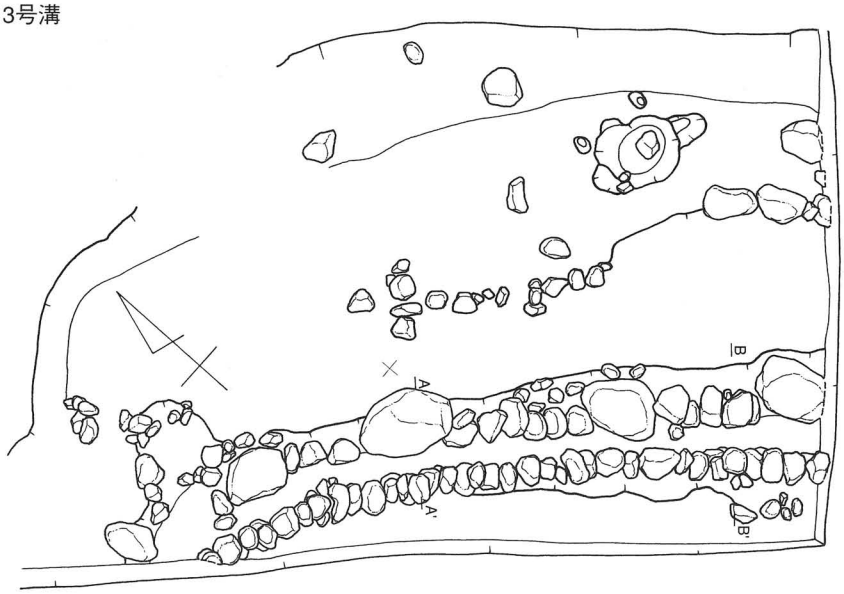
第5図　7・8号竪穴

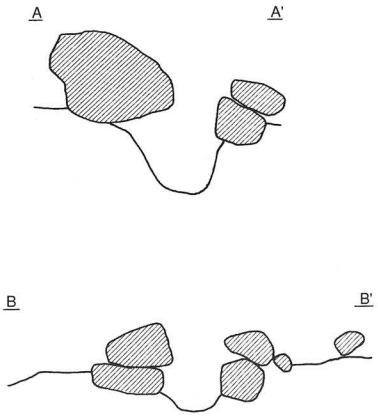
1号溝

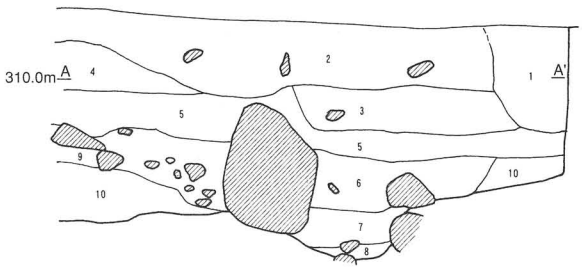


1　黒褐色土（10YR2/3）表土。黒色土主体。
2　黄褐色土（10YR5/6）旧水田止水層か。酸化土層。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）旧水田覆土か。
4　褐色土（10YR4/4）3層（上・中・下）に分けられる。4（上）と4（下）は共に旧水田止水層。間に3層と同色の灰色土が入る（4（中））。
5　黒褐色土（10YR3/2）
6　黒褐色土（10YR2/3）1溝の覆土。黒味あり。
7　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ブロック状。溝覆土中。
8　黒褐色土（10YR3/2）9層類似。黒色土中に黄褐色土を多く混入する。
9　黒褐色土（10YR3/2）10層のブロックやや多。
10　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）遺構確認面。
11　黒褐色土（10YR2/3）6層よりも褐色味が強い。下層は礫層面。
12　灰黄褐色土（10YR4/2）
13　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ブロック状。
14　黒褐色土・黄褐色土混合土。

3号溝





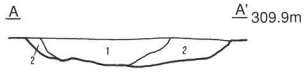


1　灰黄褐色土（10YR4/3）ゴミ穴。黄褐色ブロック混。
2　黒褐色土（10YR3/2）灰黄褐色土ブロックと黒色土ブロックの混合土。礫混。ゴミ入り。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）ややサビ化した土を含む。礫混。
4　褐色土（10YR4/4）灰黄褐色土（10YR4/2）がサビ化する。旧水田面。止水層か。
5　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）微細な砂質土。炭化物あり。
6　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）サビ粒・炭化粒あり。
7　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）6層類似。やや暗い。
8　灰黄褐色砂（10YR4/2）やや粗い砂層。下層は小礫多い。
9　にぶい黄褐色礫（10YR4/3）径2～5cm大の礫多。
10　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）緻密。しまり強い。

0　(1:30)　1m

第6図　1・3号溝

4号溝

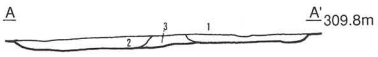


1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄色ブロック含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）サビが入る。

5号溝

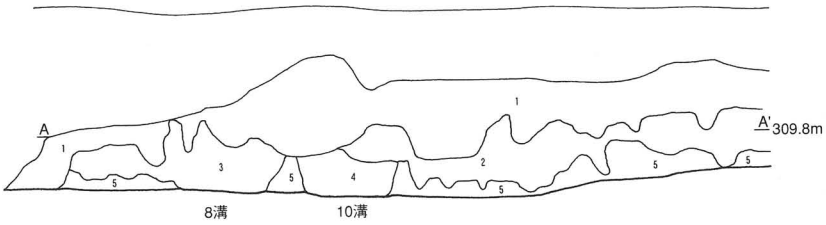
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）灰色砂質土主体。黒褐色ブロック入る。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）サビ粒を含む。

6号溝



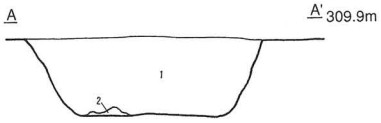
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黒味強い。
2　黒褐色砂質土（10YR3/2）1層よりも黒味弱い。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄味強い。

8・10号溝



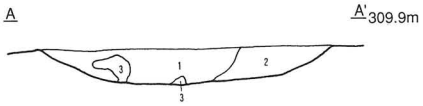
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
2　黒褐色砂質土（10YR3/2）
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック・灰色粒含む。8溝覆土。
4　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色粒灰色粒多。10溝覆土。
5　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質ブロック含む。

7号溝



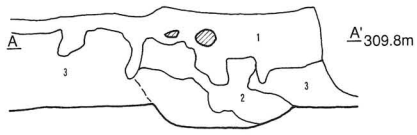
1　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）灰褐色砂主体。黄褐色砂質ブロックを含む。
2　黄褐色砂層（10YR5/6）サビ化した砂層。

8号溝



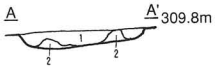
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）2・3層をブロック状に含む。サビ多。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）サビ多。
3　褐色砂質土（10YR4/4）

9号溝



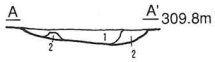
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土含む。上の方はサビあり。しまりあり。灰色粒多。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂ブロック含む。9号溝覆土。
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）下層はやや暗い。黄褐色粒ブロック多。

11号溝



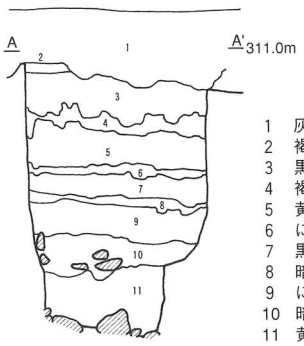
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）
2　灰黄褐色土（10YR4/2）黄褐色小ブロック多。地山直上層。

12号溝



1　黒褐色砂質土（10YR3/2）
2　黄褐色砂質土（10YR5/6）地山と同質。

0　(1:30)　1m

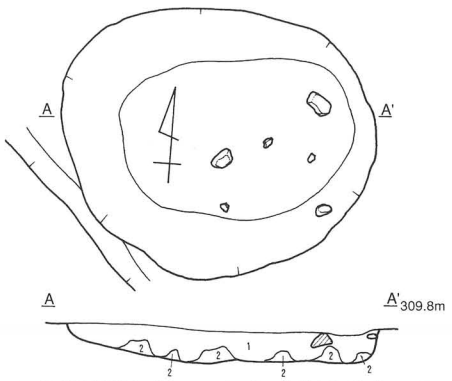


1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）ガラス、コンクリート、礫など昭和30年頃のゴミを含む。
2　褐色砂質土（10YR4/6）サビ粒多。水田の止水層か。
3　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質小ブロックやや多。古墳～平安時代の遺物を含む。
4　褐色砂（10YR4/4）3層と5層の中間層。黄褐色砂質土主体。
5　黄褐色砂（10YR5/8）灰白色砂質ブロックやや多。
6　にぶい黄褐色砂（10YR4/3）5層と7層の中間層。径約0.5cmの小礫やや多。
7　黒色土（10YR1.7/1）上層に径約0.5cmの小礫をやや多く含む。黄褐色砂質ブロックあり。やや粘性あり。
8　暗褐色砂（10YR3/3）7層と9層の中間層。
9　にぶい黄褐色砂（10YR4/3）灰白色砂質ブロックやや多。
10　暗褐色土（10YR3/3）径10cm～20cmの礫やや多。
11　黄褐色砂（10YR5/6）上層はサビ粒の影響で褐色。下層は灰青色の砂層。最下層は径10cm～20cmの大型の礫からなる礫層。

0　(1:60)　2m

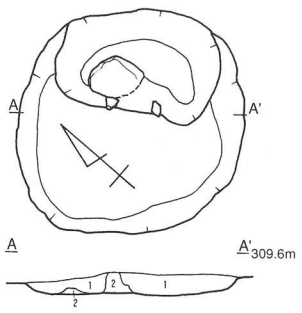
第7図　4～12号溝、土層断面図

1号土坑



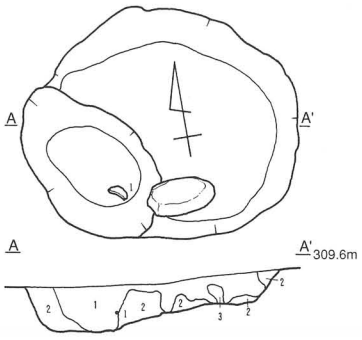
1　黒褐色砂質土（10YR2/2）礫・黄褐色砂質ブロック・土器片を含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）地山に類似。ブロック状に分布。

2号土坑



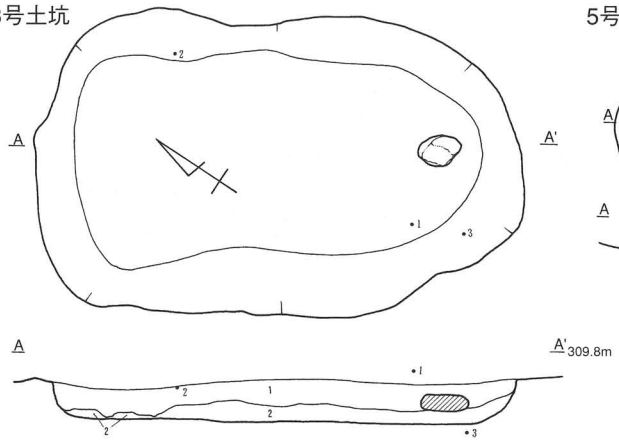
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山に類似。

4号土坑



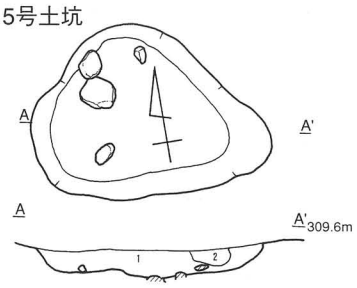
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色粒・炭化粒少。
2　にぶい黄褐色砂（10YR4/3）黄褐色砂質ブロック含む。
3　黄褐色砂（10YR5/6）ブロック状に入る。

3号土坑



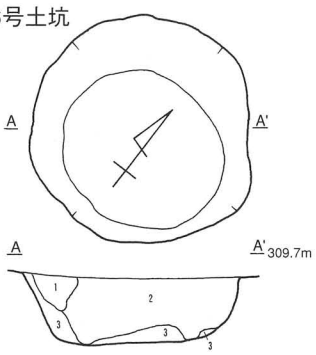
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）2層および黄褐色砂質土をブロック状に含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山との中間層。

5号土坑



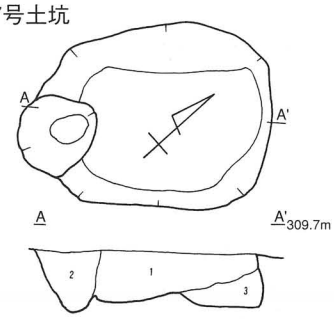
1　黒色砂質土（10YR2/1）黄色粒子少。礫を含む。
2　にぶい黄褐色砂質土ブロック（10YR5/3）

6号土坑



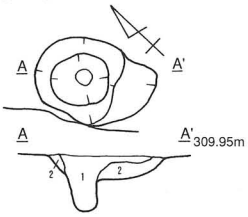
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色ブロック含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）地山と2層の混合。

7号土坑



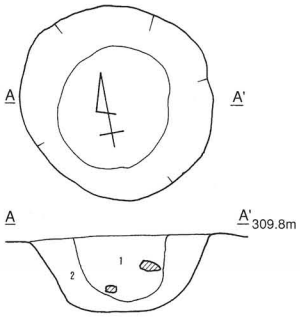
1　暗褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色ブロック・土器片含む。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄色味あり。
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色ブロック含む。

1号ピット



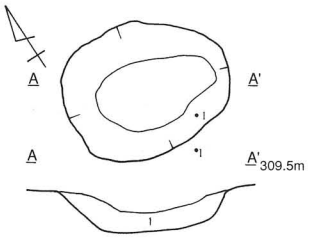
1　黒褐色砂質土層（10YR3/2）
2　黒色砂質土層（10YR2/1）黄褐色砂質ブロックを含む。

2号ピット



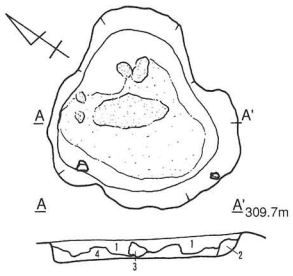
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック多。礫を含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質ブロック少。地山より明るい。

3号ピット



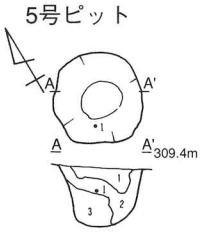
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色、灰色砂質ブロックをまだら状に多く含む。

4号ピット



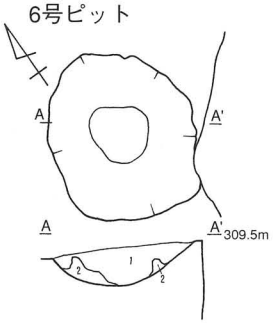
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土粒・炭化粒を含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）ブロック状。
3　焼土。
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山類似。

5号ピット



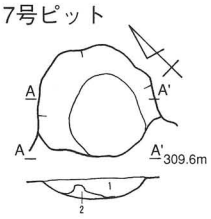
1　黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色粒を含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂多。
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）

6号ピット



1　黒褐色砂質土（10YR3/2）全体的に黄褐色土混入。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）地山に近い。

7号ピット

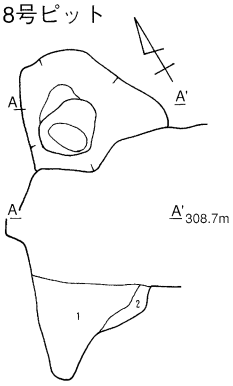


1　黒褐色砂質土（10YR2/2）黒味強い。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山に近い。

0　(1:30)　1m

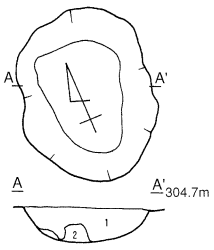
第8図　1～7号土坑、1～7号ピット

8号ピット



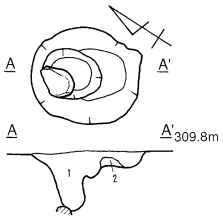
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック・灰色粒多。炭化砂少。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質ブロックを含む。地山に近い。

9号ピット



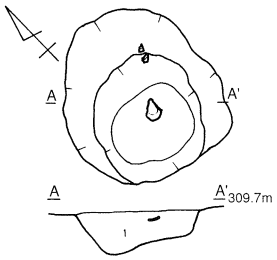
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質ブロック含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山に近い。

10号ピット



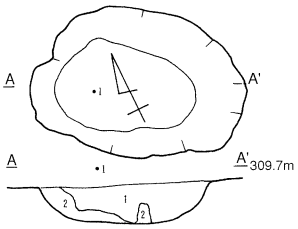
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）

11号ピット



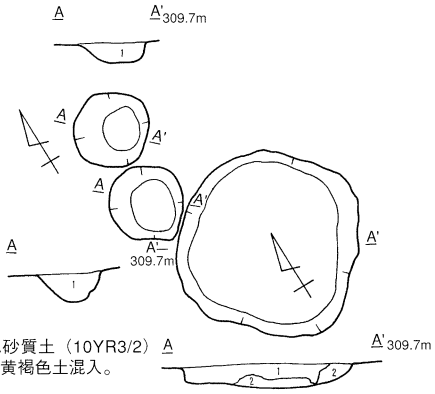
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）灰色砂質ブロック・土器片を含む。

12号ピット



1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄色砂質ブロック含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）

13・14・15号ピット

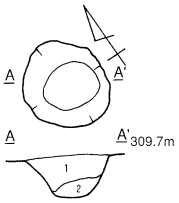


13号ピット
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）下層は黄褐色土混入。

14号ピット
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）全体に黄褐色ブロック混じる。

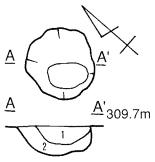
15号ピット
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色・灰色砂質ブロック混。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山と1層の混合。

16号ピット



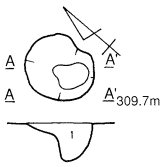
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色ブロック多。
2　褐色砂質土（10YR4/4）地山に近い。

17号ピット



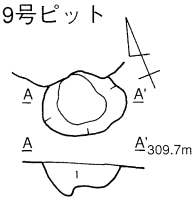
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）地山と1層の中間層。

18号ピット



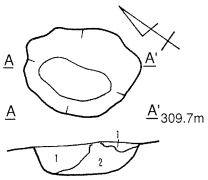
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）灰色砂質ブロック含む。やや粒子粗。

19号ピット



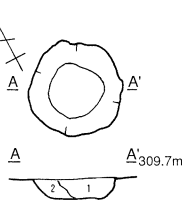
1　黒褐色砂質土黄色砂質ブロック少。

20号ピット



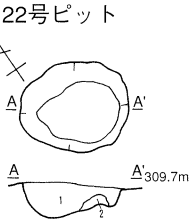
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）細かい黄褐色・灰色粒子を全体的に混入。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）

21号ピット



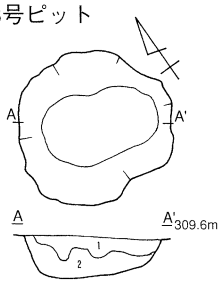
1　黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色砂質ブロック少。黒色度強。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック多。

22号ピット



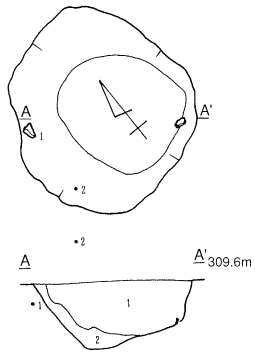
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山類似。

23号ピット



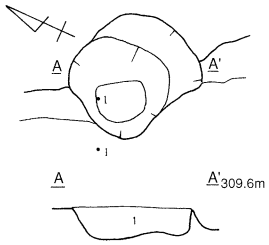
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック多。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山と1層の中間層。

24号ピット



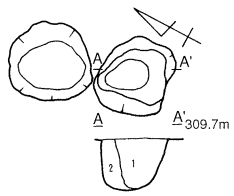
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロック混。土器を含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）地山の黄褐色砂混。

25号ピット



1　黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色砂質ブロック多。まだら状。

26号ピット

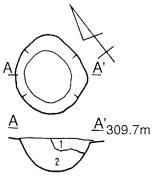


1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色粒子が全体に混入。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/2）下層は黄色度強。

0　(1:30)　1m

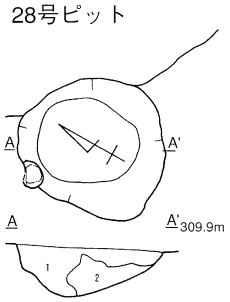
第9図　8～26号ピット

27号ピット



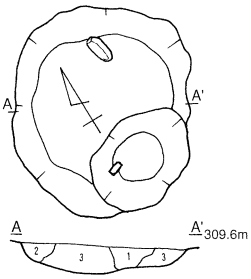
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色粒混入。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）

28号ピット



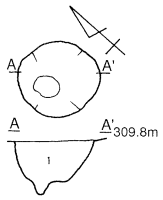
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）灰色・黄褐色粒少。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂混。

29号ピット



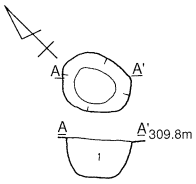
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色砂質ブロックを含む。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土ブロック含む。

30号ピット



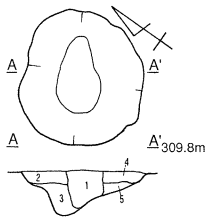
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）粒子細かくやや粘性あり。

31号ピット



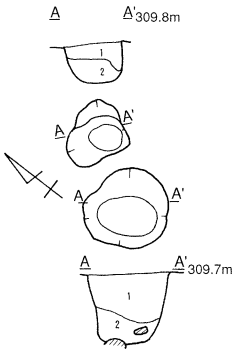
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）

32号ピット



1　暗褐色砂質土（10YR3/3）全体に黄色粒混入。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）1層に類似。
4　黒褐色砂質土（10YR3/2）やや灰色度。
5　黒褐色砂質土（10YR2/3）2層に似る。

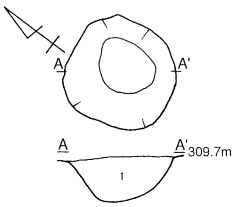
33・34号ピット



33ピット
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色ブロック含む。

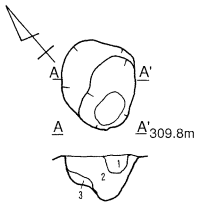
34ピット
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）灰色砂質ブロック含む。
2　黒褐色砂質土（10YR2/2）礫を含む。地山類似。

35号ピット



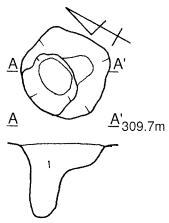
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）土器を含む。

36号ピット



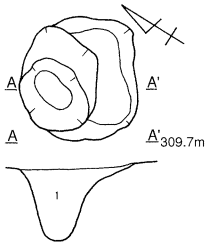
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黒色度強い。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質ブロック混入。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山類似。

37号ピット



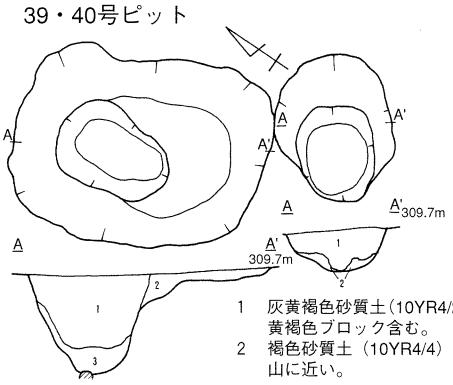
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）礫を含む。下層は黒色が強く、地山に類似。

38号ピット



1　暗褐色砂質土（10YR3/3）粒子やや粗。黄褐色粒混。

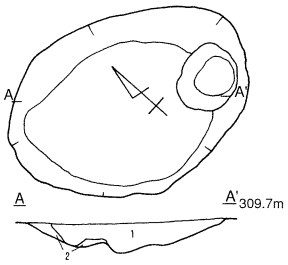
39・40号ピット



1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色ブロック含む。
2　褐色砂質土（10YR4/4）地山に近い。

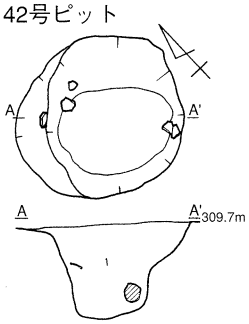
1　灰黄褐色土（10YR4/2）炭化物を含む。土器片やや多。黄褐色ブロックあり。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山に類似。黄褐色ブロック・サビ含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）1層に類似。やや黒色度強い。

41号ピット



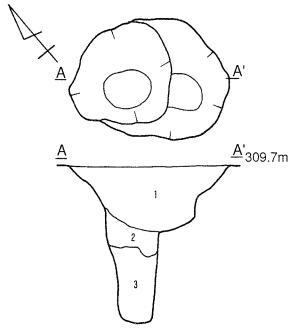
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）褐色ブロックを含む。やや黒味が強い。
2　褐色砂質土（10YR4/4）地山類似。

42号ピット



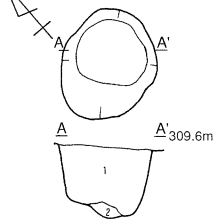
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）土器片・礫・黄褐色小ブロックを含む。

43号ピット



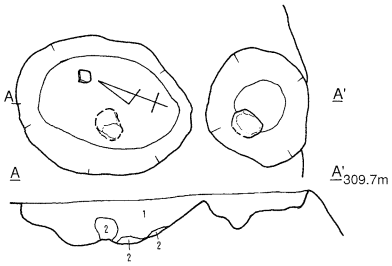
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）褐色小ブロックを含む。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）やや黒色度強い。
3　黒褐色砂質土（10YR3/2）2層より黒色度弱い。

44号ピット



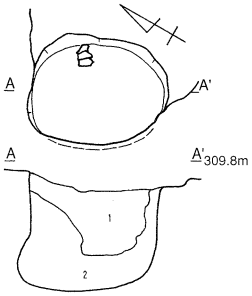
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土粒・炭化物を微量に含む。
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）地山に近い。

45・46号ピット



1　暗褐色砂質土（10YR3/3）土器片あり。炭化物・褐色小ブロックやや多。
2　褐色砂質土（10YR4/4）ブロック状。

47号ピット

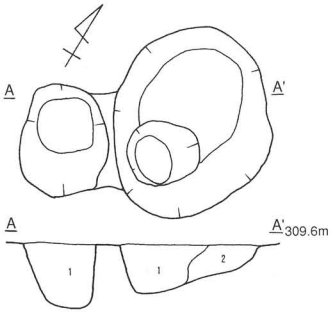


1　暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色ブロック・土器片を含む。
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）下層は掘りすぎか。掘り方不明瞭。

0　（1:30）　1m

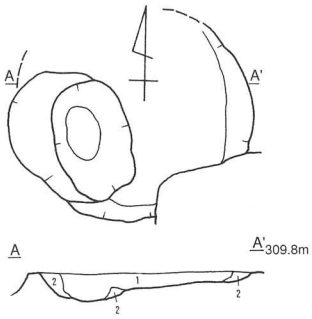
第10図　27～47号ピット

48・49号ピット



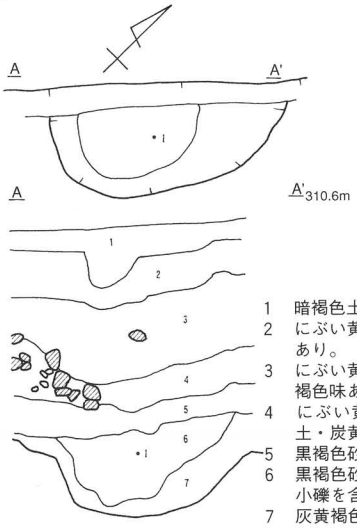
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）土器片を含む。黄褐色ブロックやや多。
2　にぶい王黄褐色砂質土(10YR4/3)

50号ピット



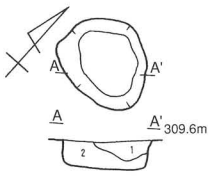
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）黒色度やや強。
2　にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)

51号ピット



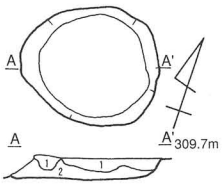
1　暗褐色土（10YR3/3）しまりなし。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）弱い粘性あり。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）全体的に褐色味あり。炭化物含む。
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土・炭黄褐色土混入。
5　黒褐色砂質土（10YR2/3）砂黄褐色砂混入。
6　黒褐色砂質土（10YR3/2）やや灰色味あり。小礫を含む。51号ピット覆土。
7　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）

52号ピット



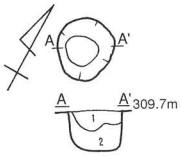
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色粒混。
2　褐色砂質土（10YR4/4）地山類似。

53号ピット



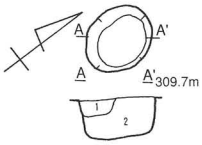
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）地山類似。

54号ピット



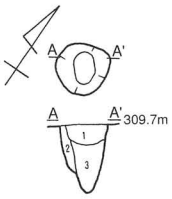
1　黒褐色砂質土(10YR2/3)
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）地山類似。

55号ピット



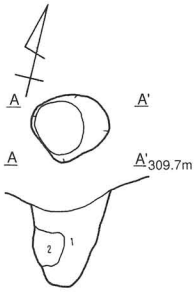
1　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土混。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）地山類似。

56号ピット



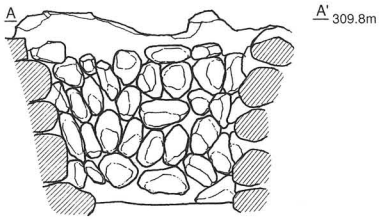
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）

57号ピット

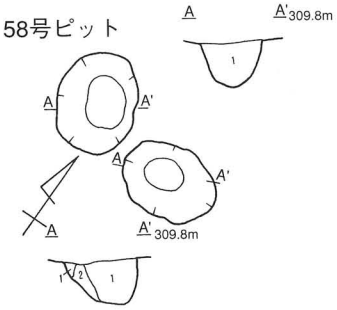


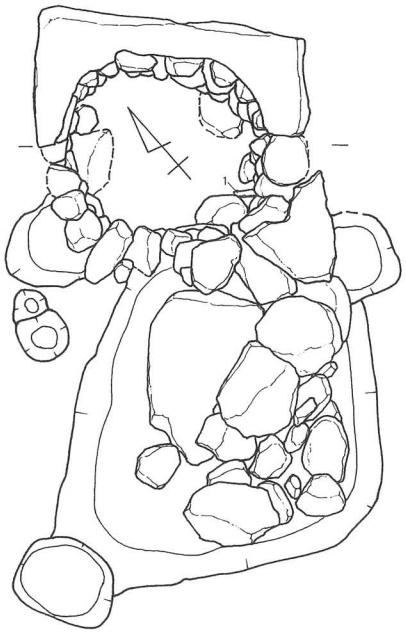
1　暗褐色砂質土(10YR3/3)黒褐色・黄褐色砂質土混入。炭化物・土器片を含む。
2　黒褐色砂質土(10YR2/2)弱い粘性あり。

1号井戸



58号ピット



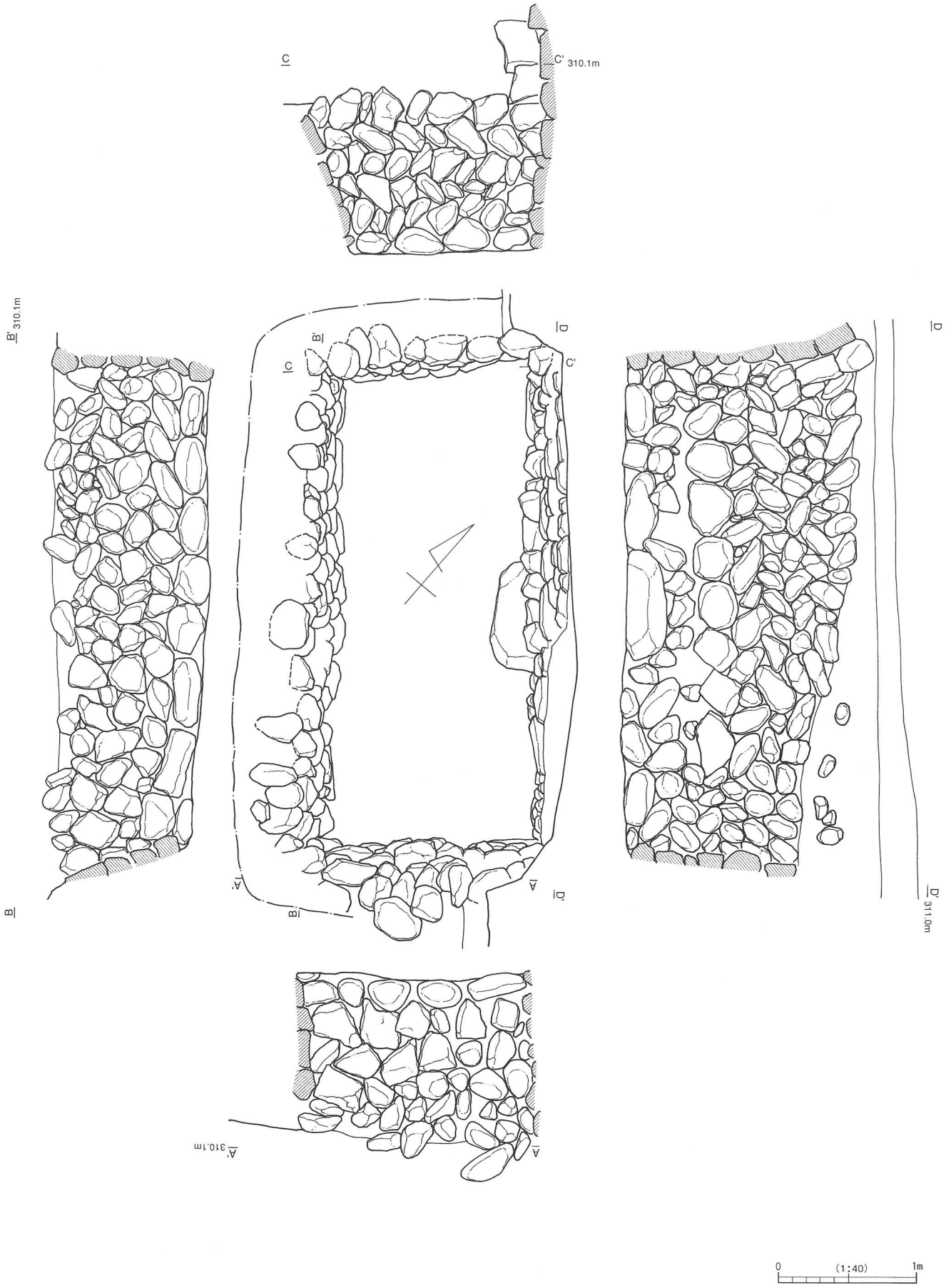


57号ピット
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化粒あり。黄色味あり。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）地山に近い。

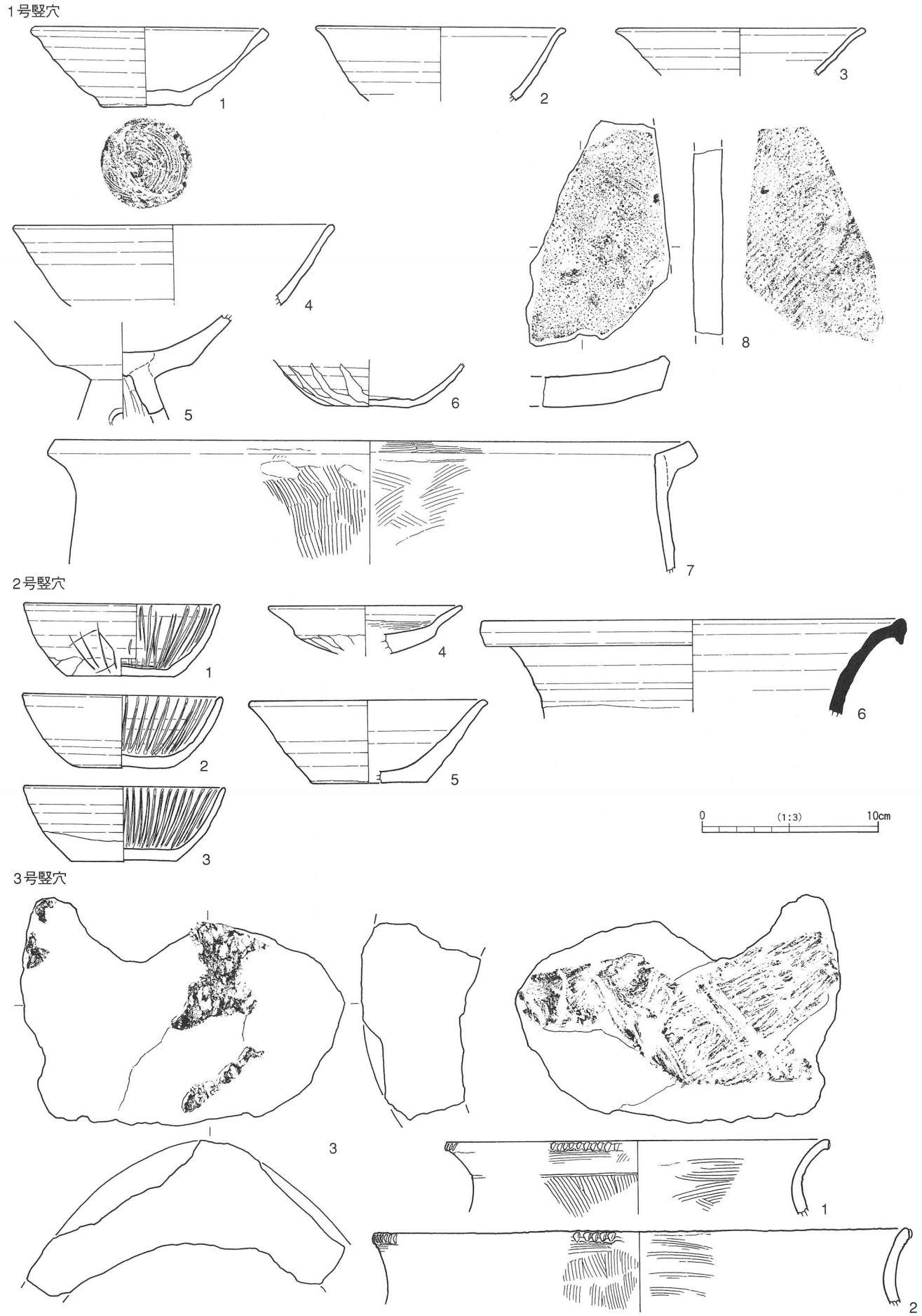
58号ピット
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化粒あり。黄色味あり。

0　(1:30)　1m

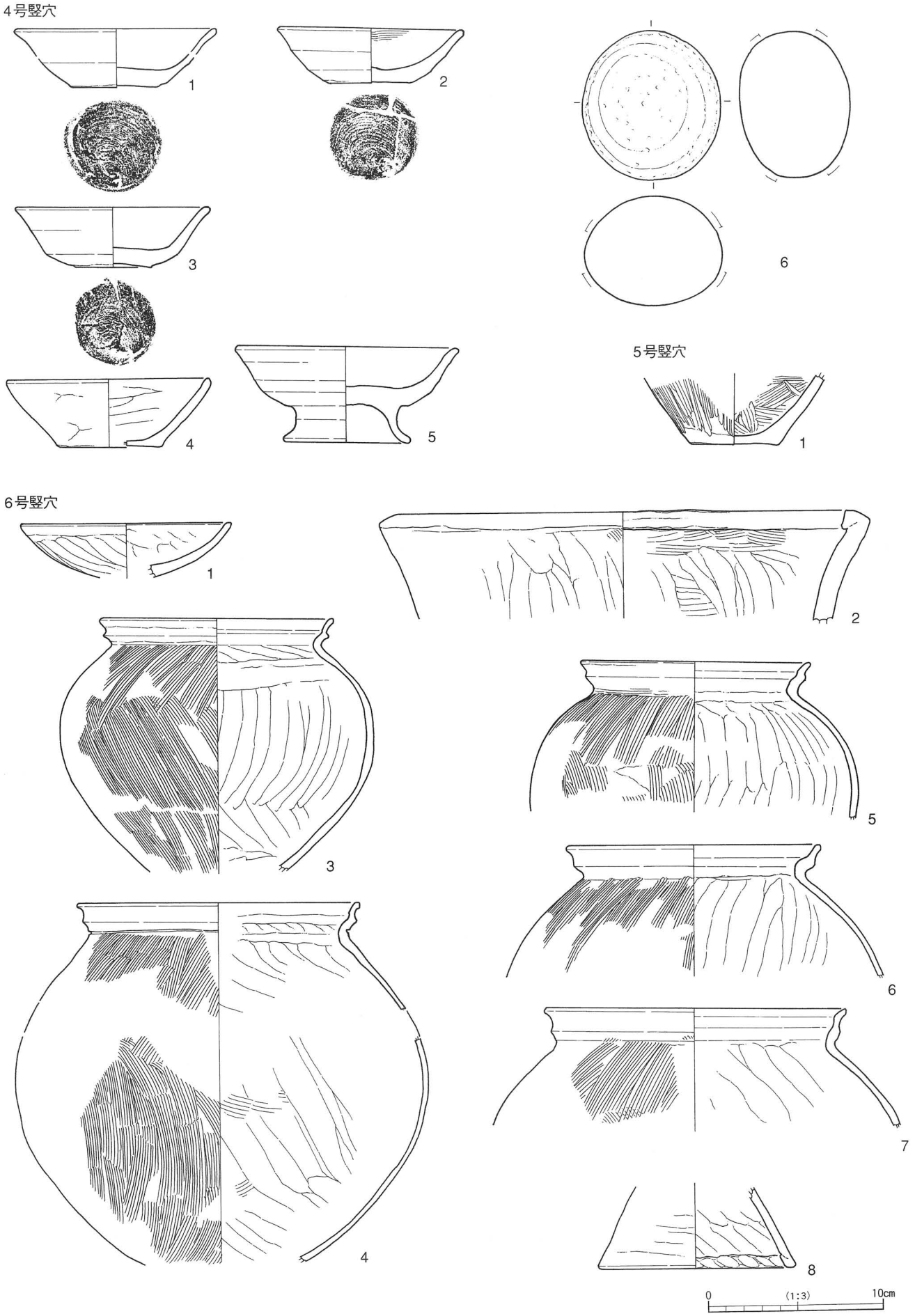
第11図　48～58号竪穴、1号井戸



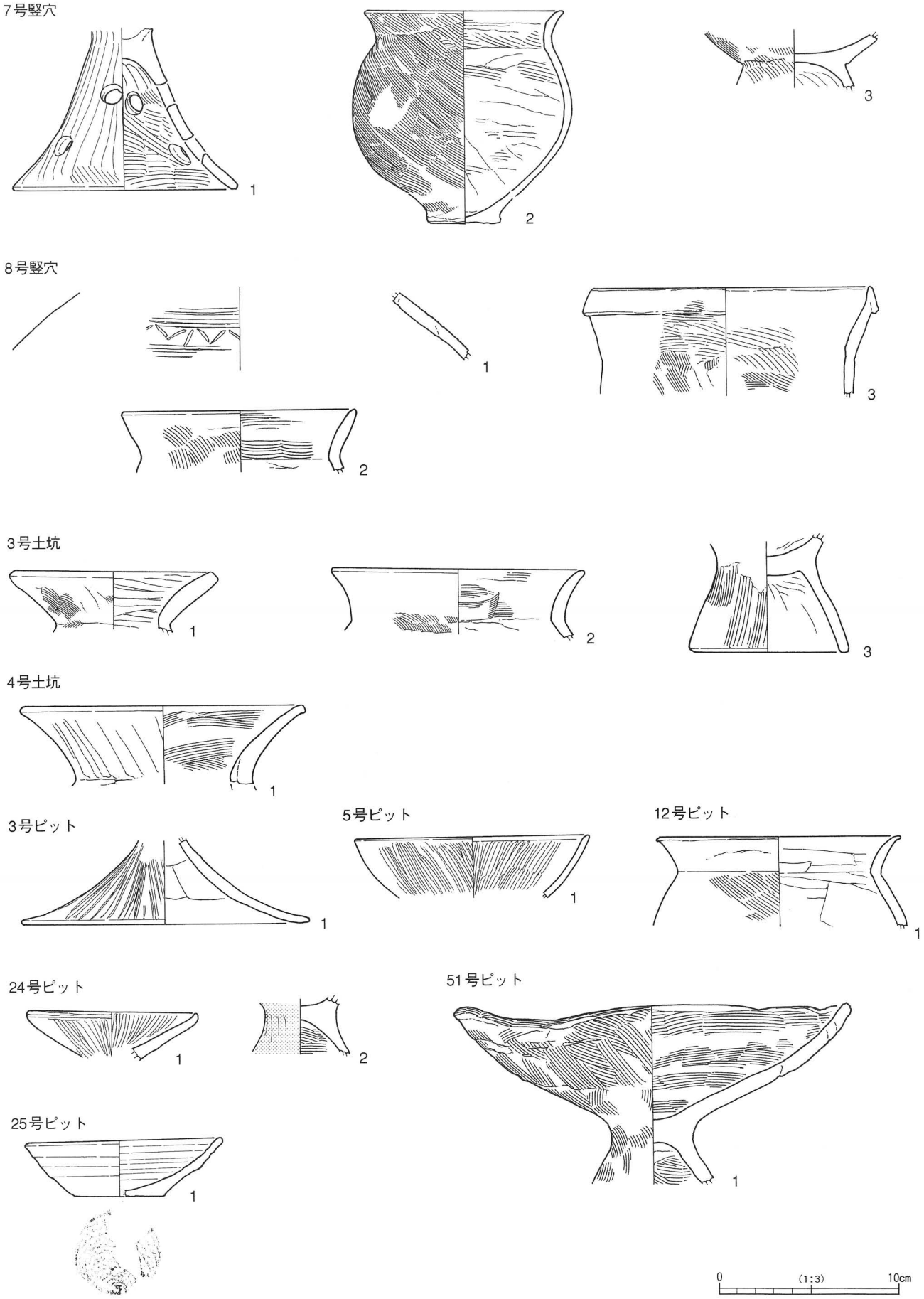
第12図　1号石組



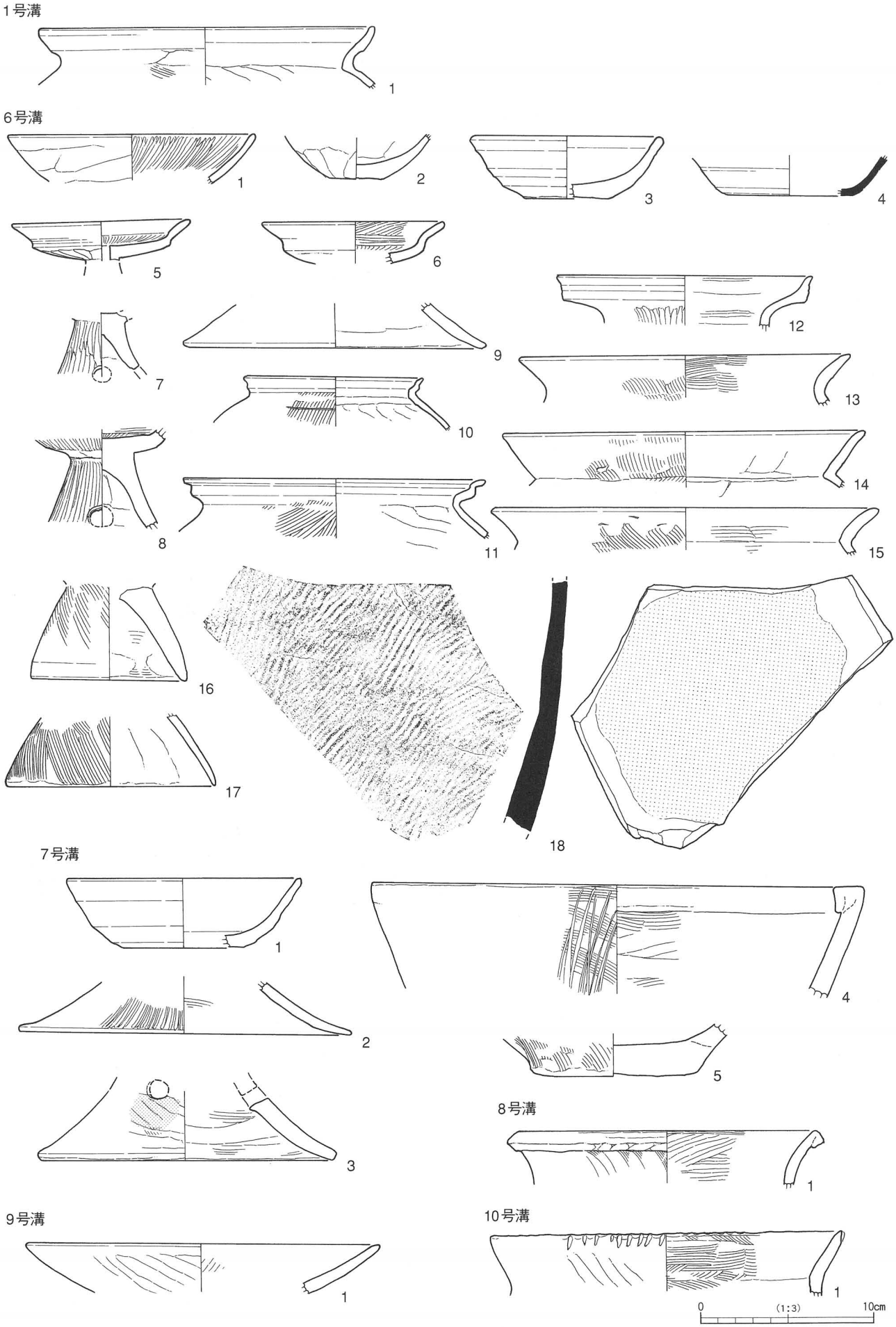
第13図　1～3号竪穴遺物



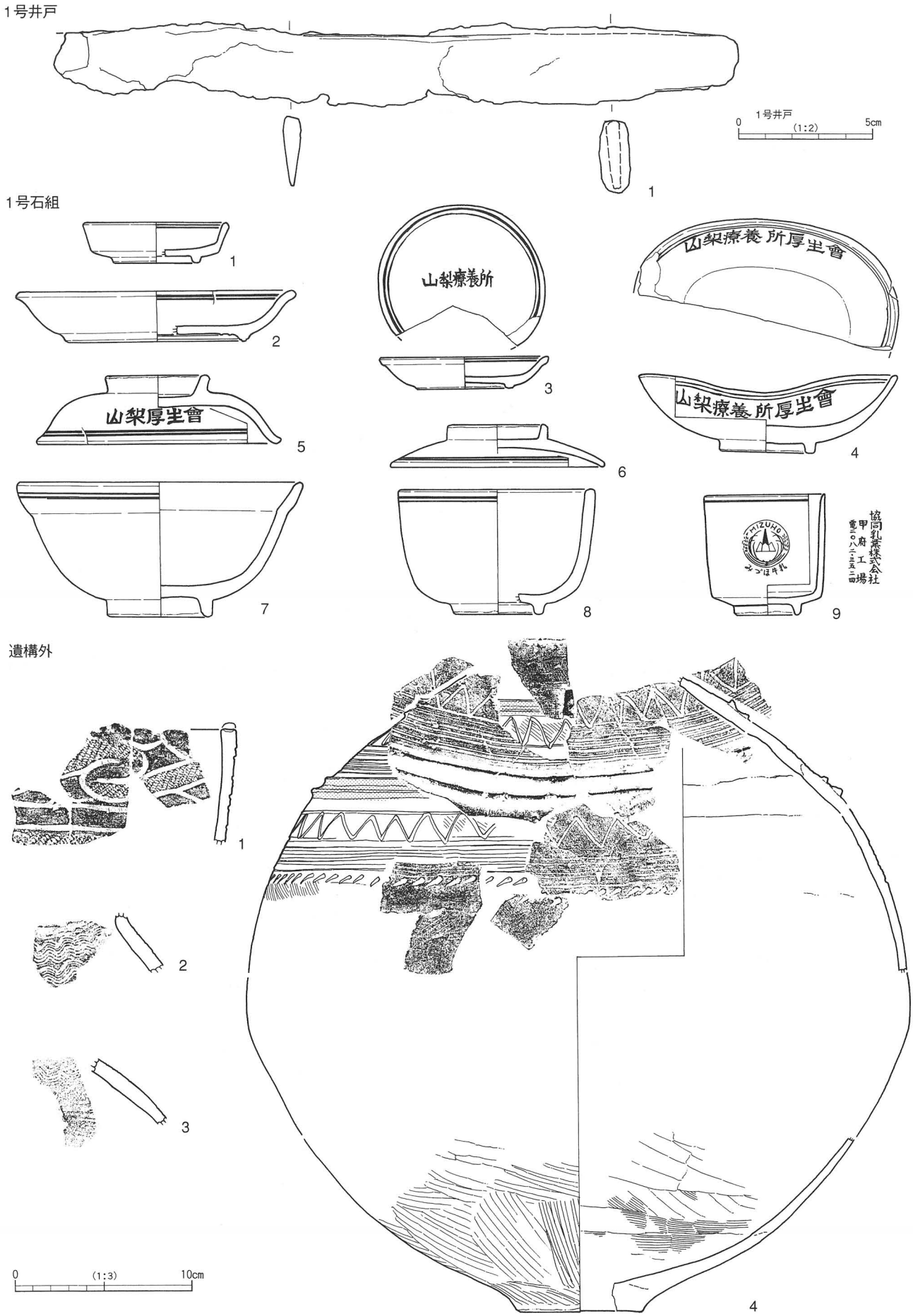
第14図　4～6号竪穴遺物



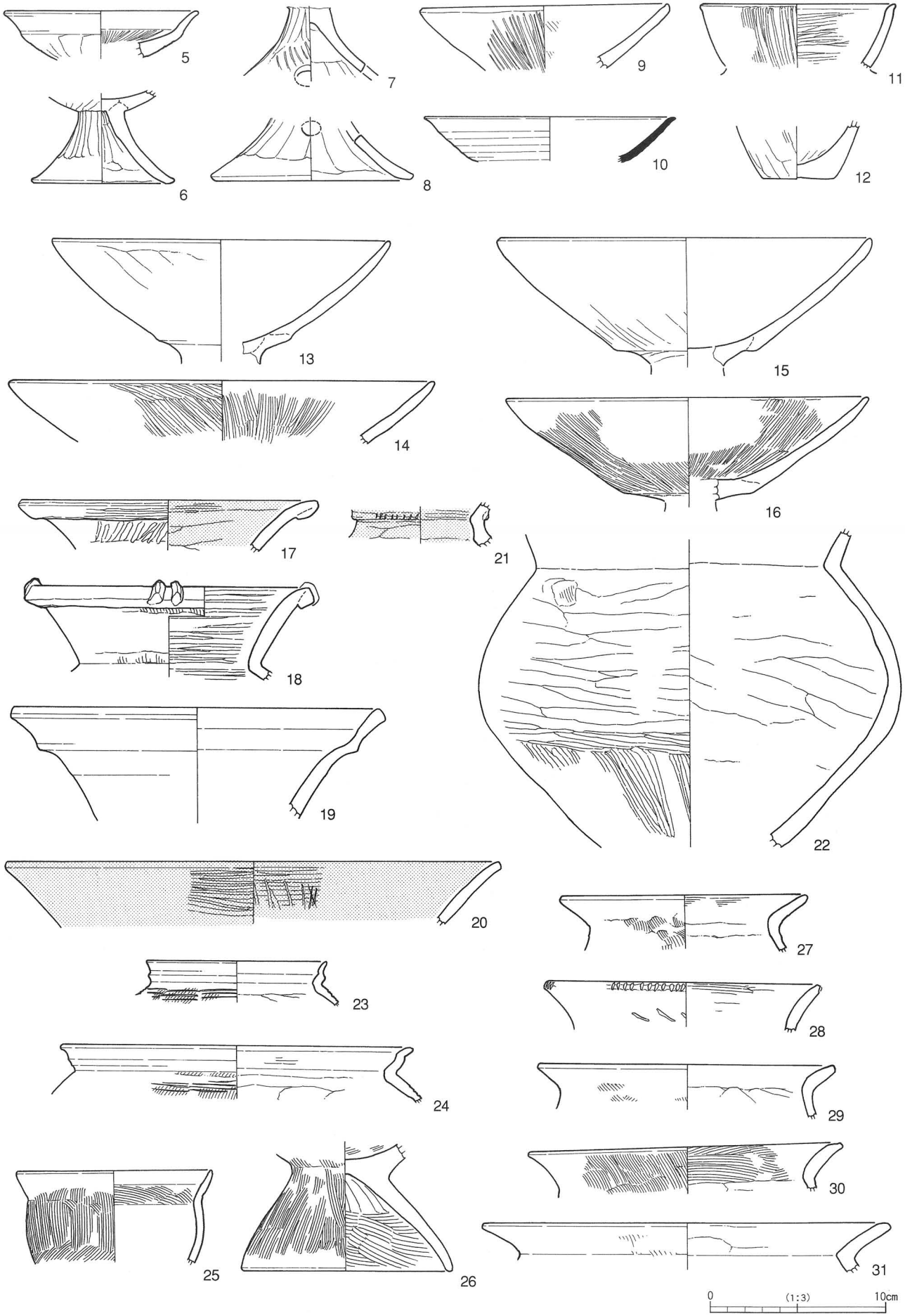
第15図　7・8号竪穴遺物、3・4号土坑遺物、3・5・12・24・25・51号ピット遺物



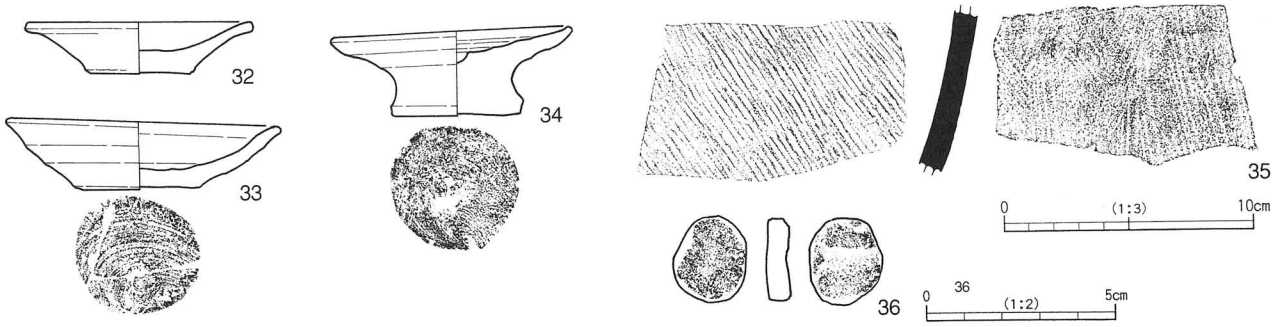
第16図　1・6～10号溝遺物



第17図　1号井戸遺物、1号石組遺物、遺構外遺物（1）


5
7
9
11
6
8
10
12
13
15
14
16
17
21
18
22
19
20
27
23
28
24
29
25
26
30
31
0
(1:3)
10cm

第18図　遺構外遺物（2）

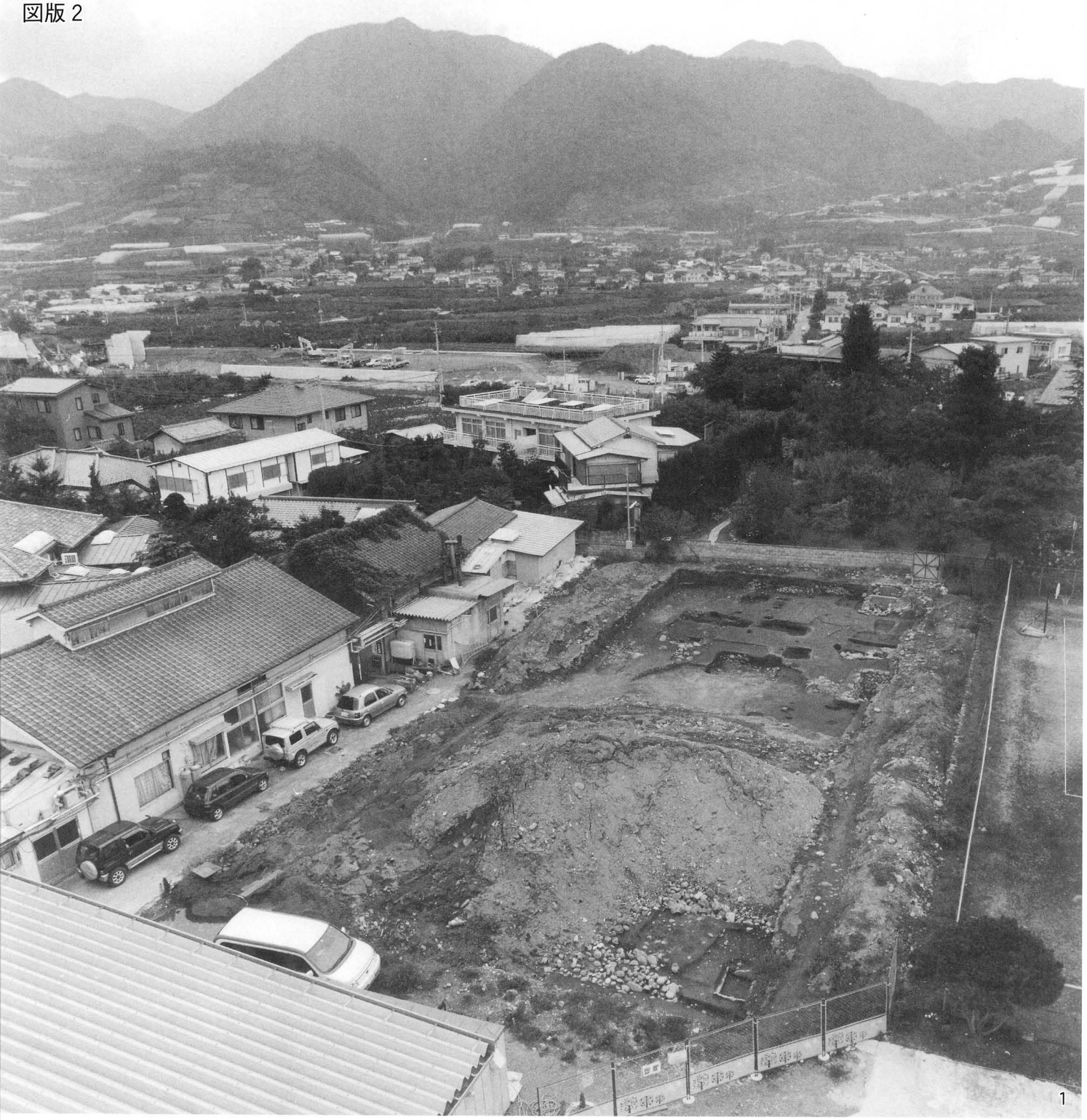


第19図　遺構外遺物（3）

1：調査区南側全景
（2000年 7 月 9 日南東 3 号館屋上より撮影）

2：同

図版 2



1：調査区北側全景（2000年7月31日）南東3号館屋上より撮影

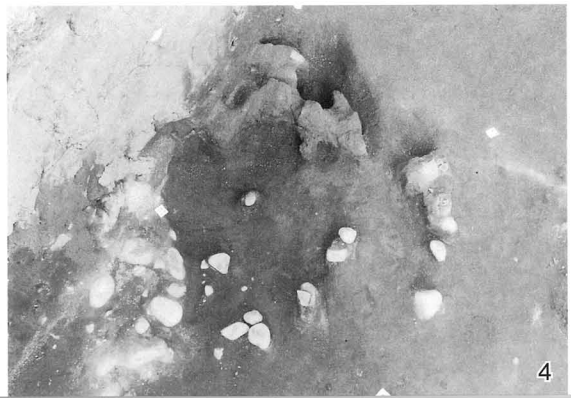
2：調査区北側全景（南より）

1：調査区南側上層（溝完掘状況、北より）

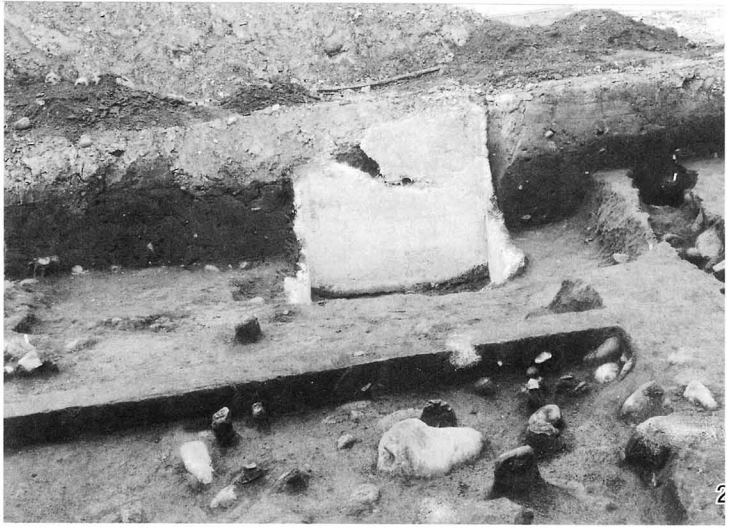
2：調査区南側下層（ピット完掘状況、北より）

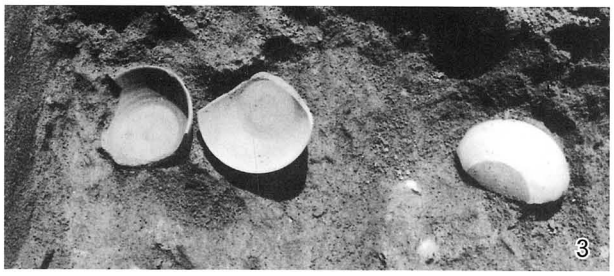
3：1号竪穴遺物出土状況（西より）

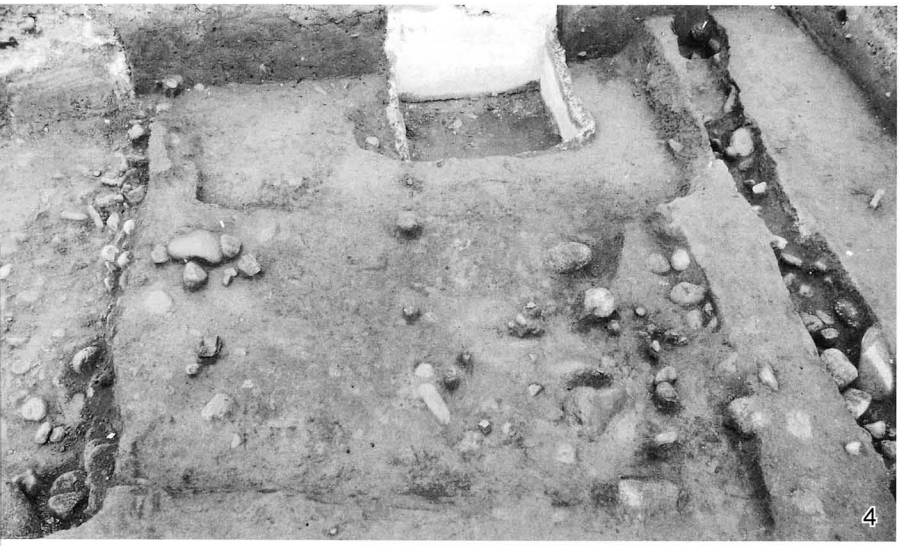
4：1号竪穴竈

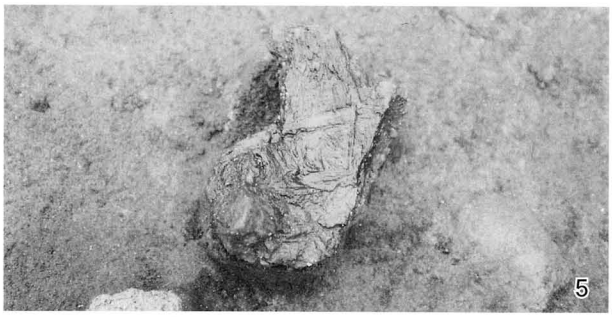


図版 4

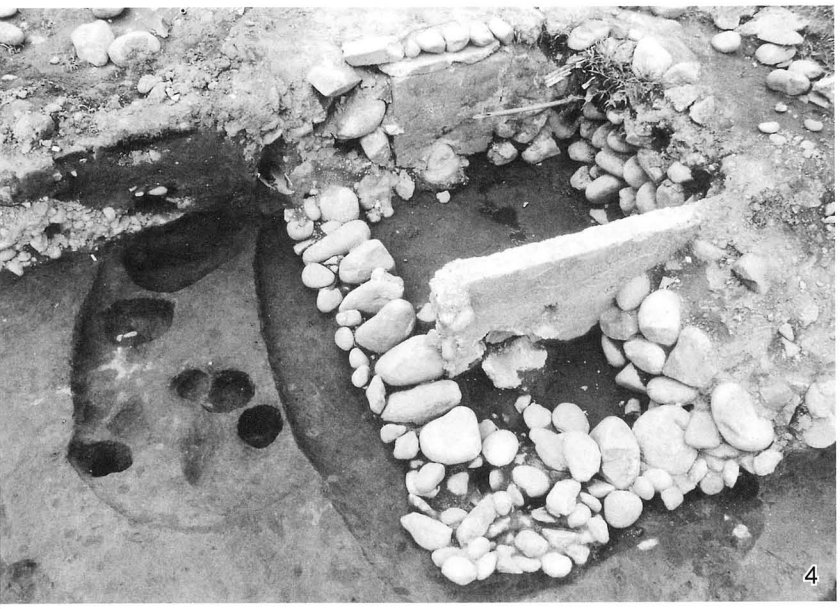






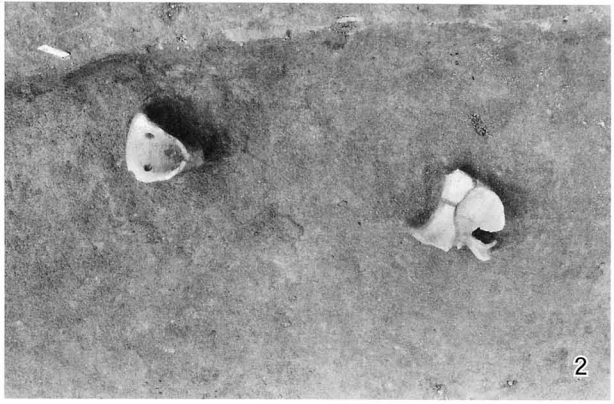


1：2号竪穴遺物出土状況（西より）　2：同（東壁断面状況）
3：同土師器坏出土状況　4：3号竪穴遺物出土状況（西より）
5：同土製品出土状況　6：4号竪穴遺物出土状況（南より）
7：同完掘状況　8：同床下完掘状況
9：同竈検出状況（西より）



1：4号竪穴竈完掘状況（北より）
2：　同　（南より）
3：　同　（西より）
4：5号竪穴周辺石組（南より）
5：5号竪穴（南より）
6：6号竪穴遺物出土状況（西より）
7・8：同遺物出土状況
9：6・7号竪穴完掘状況（南より）

図版 6



1：7号竪穴遺物出土状況

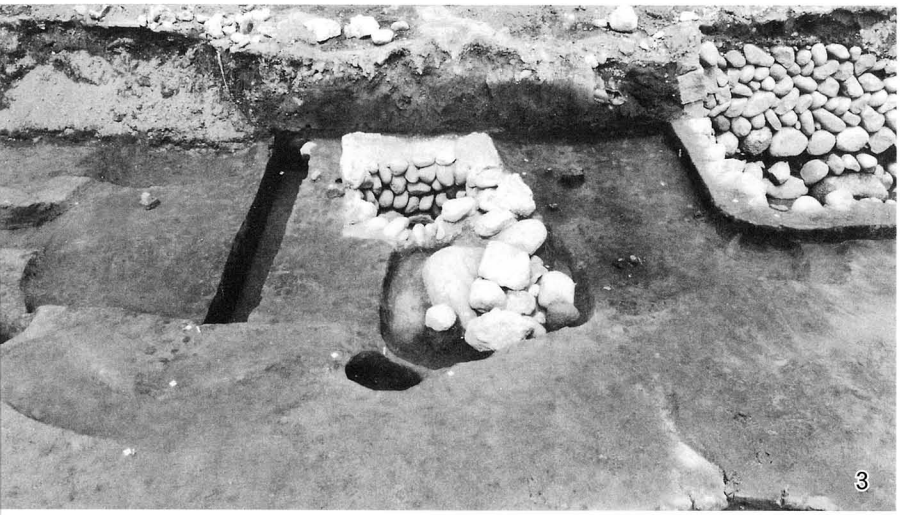
2：　同

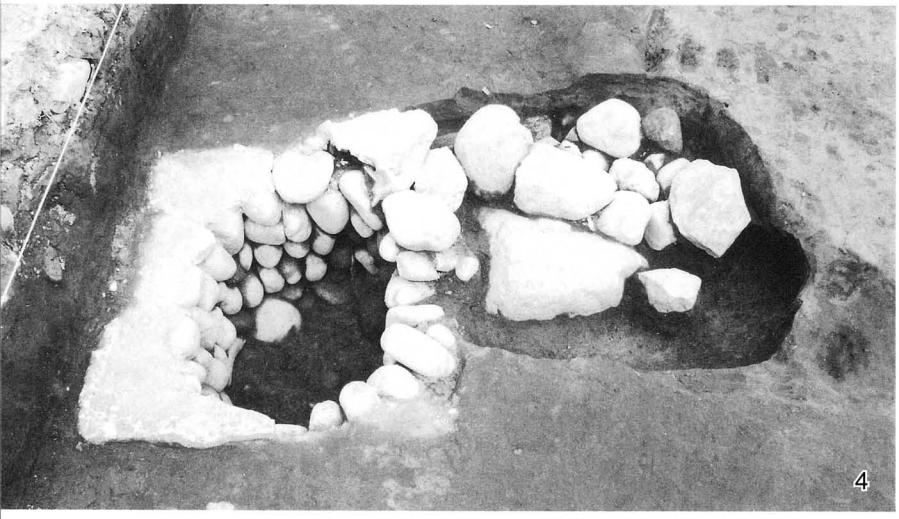
3：8号竪穴完掘状況（西より）

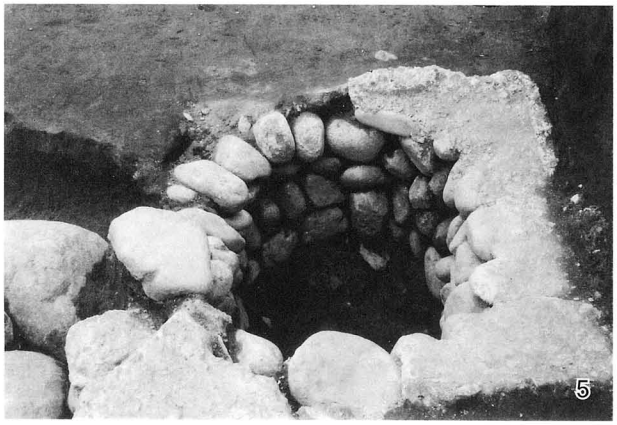
4：1号井戸周辺完掘状況（北より）

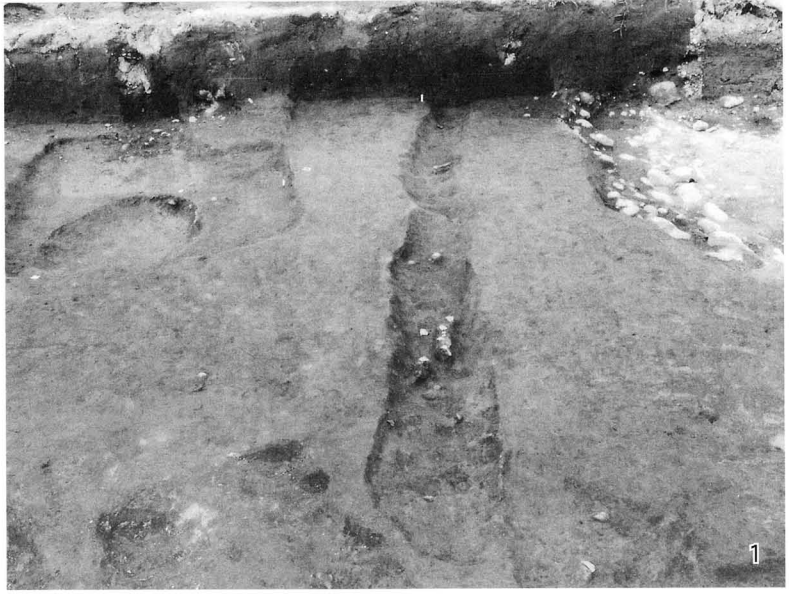
5：1号井戸

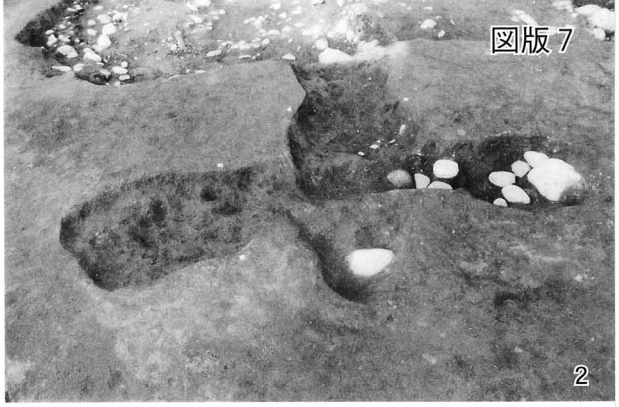
6：1号石組（西より）

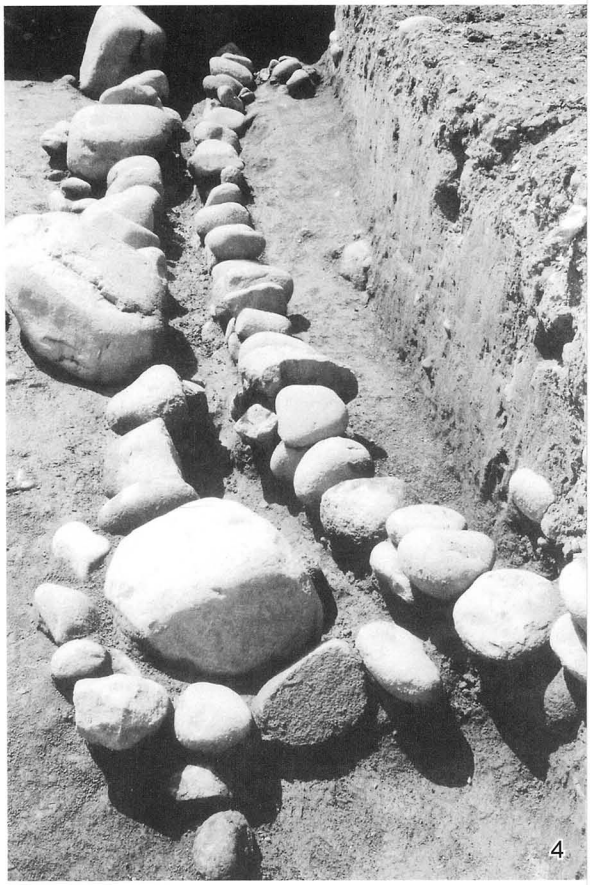












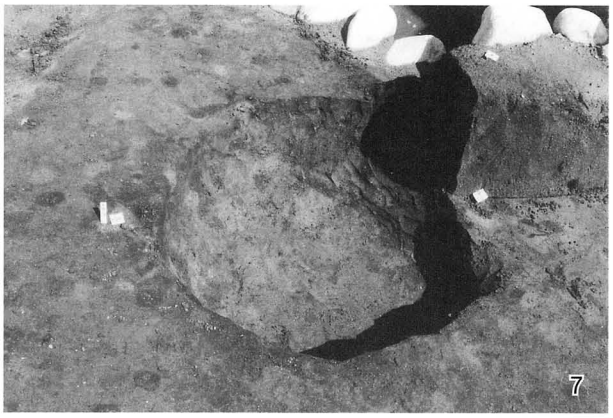
１：１号溝（西より）　２：４・５号溝（西より）　３：３号溝（南より）
４：同（北より）　５：６・10号溝（南より）　６：７号溝（西より）
７：８号溝（南より）

図版8

1：9号溝（南より）

2・3：ピット群

4：1号土坑（1号竪穴内）

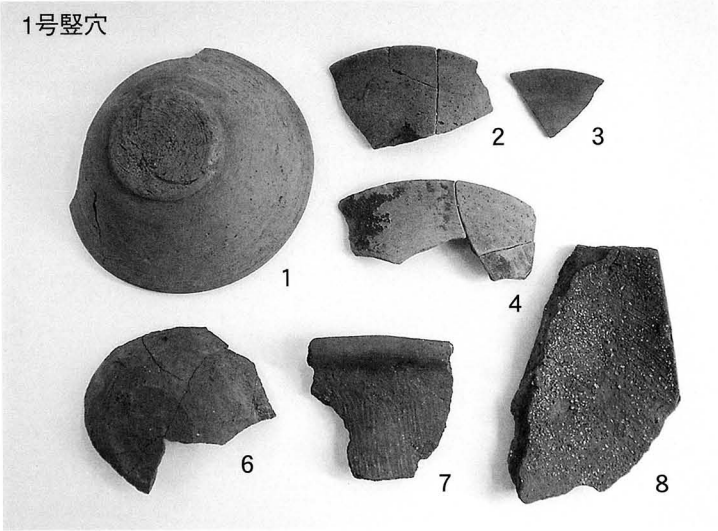


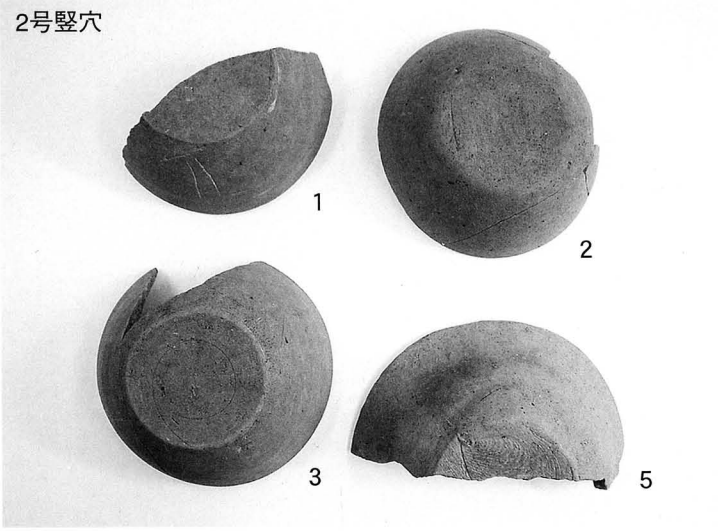
5：2号土坑

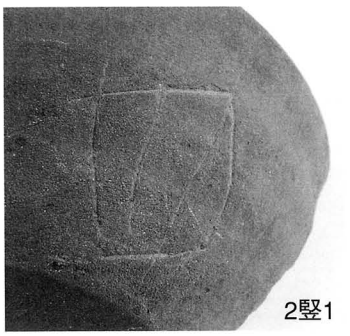
6：3号土坑

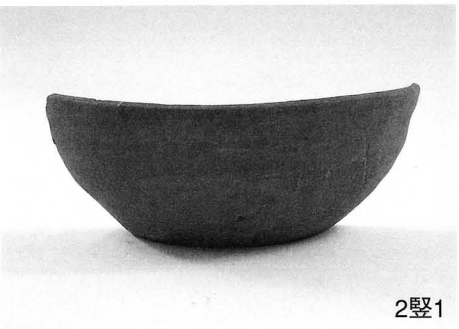
7：6号土坑

8：7号土坑

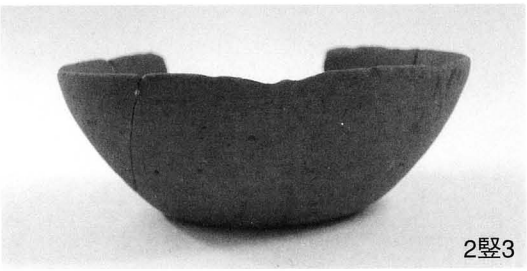

1号竪穴
1
2
3
4
6
7
8

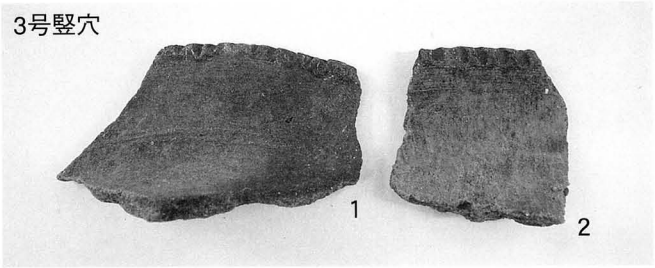

2号竪穴
1
2
3
5

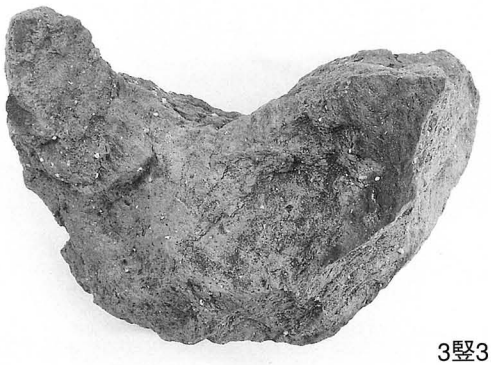

2竪1


2竪1

2竪2


2竪3

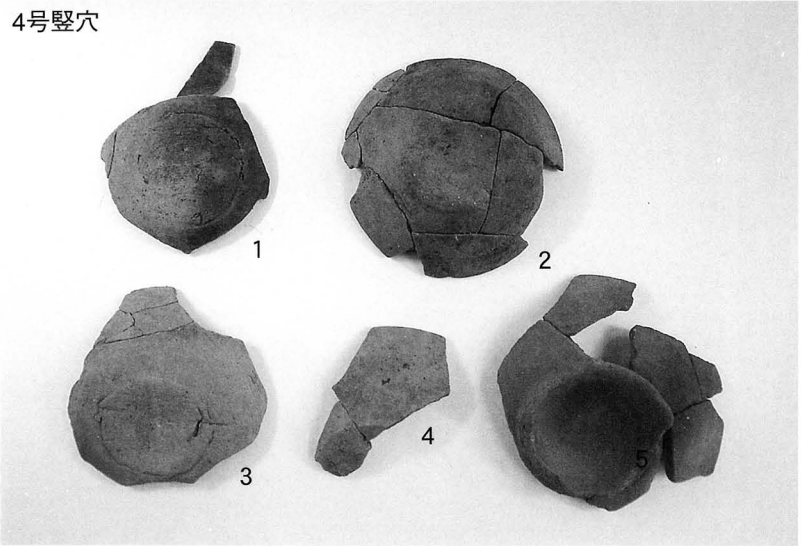

3号竪穴
1
2


3竪3

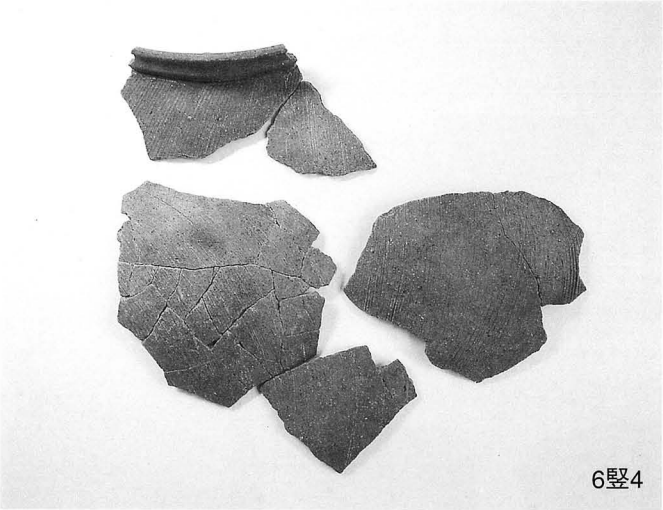
3竪3

1竪8

4号竪穴



6竪3



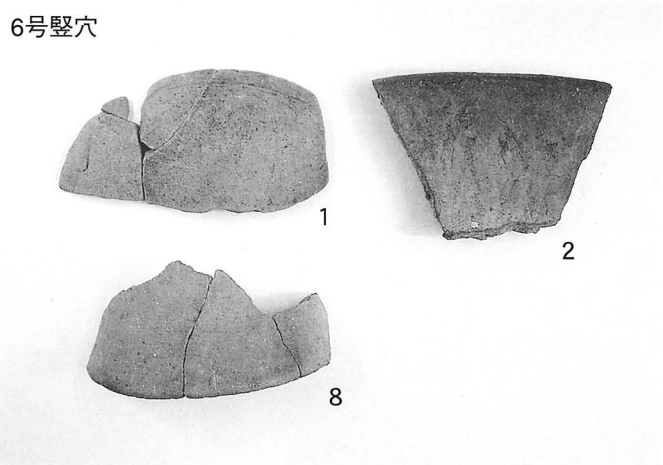
6竪4

6竪7

6竪5

6竪6

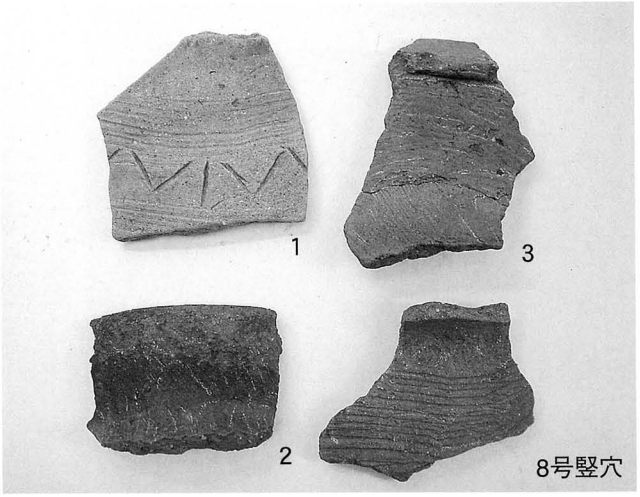
6号竪穴



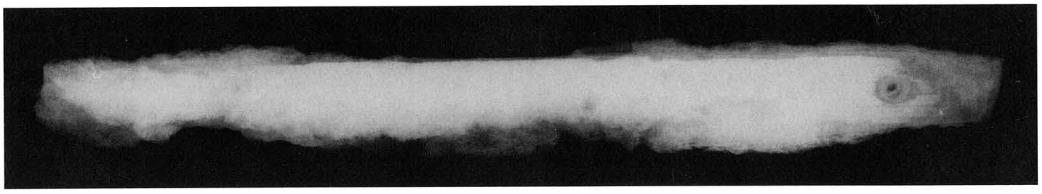
7竪1

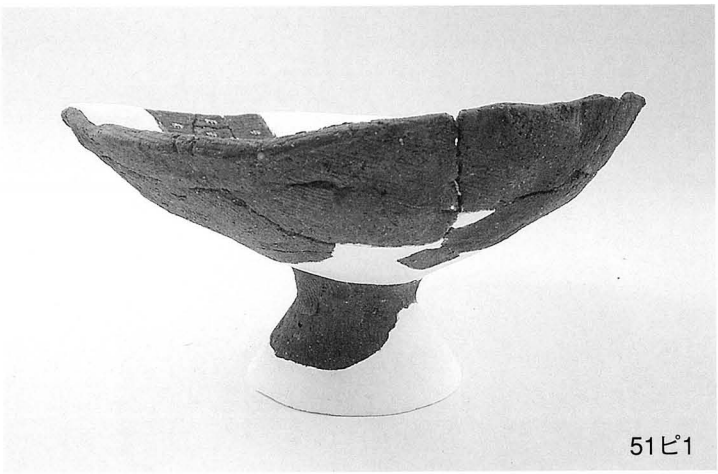
7竪2

7竪2



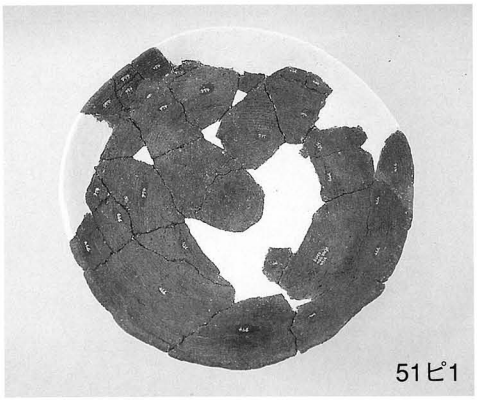
8号竪穴

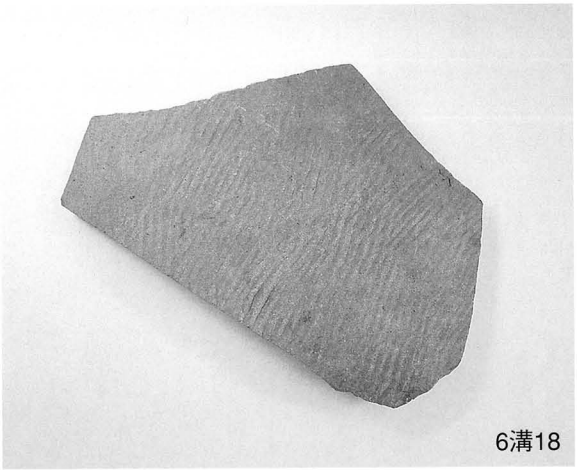

1号井戸1

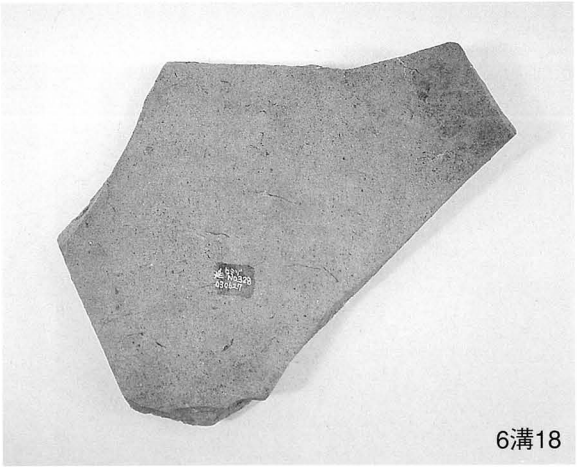

51ピ1

51ピ1

51ピ1


51ピ1


6溝18


6溝18

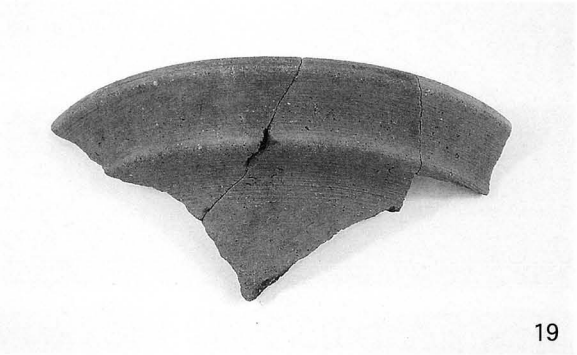
図版12

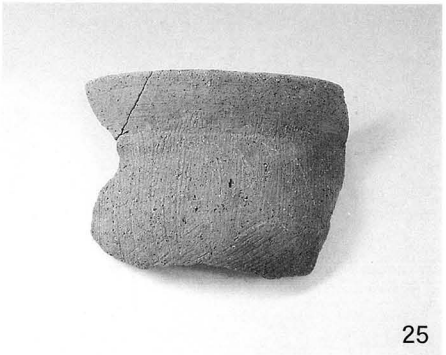
遺構外

1

2

18

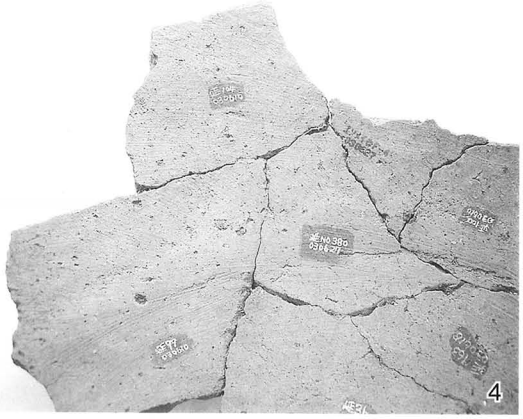

19

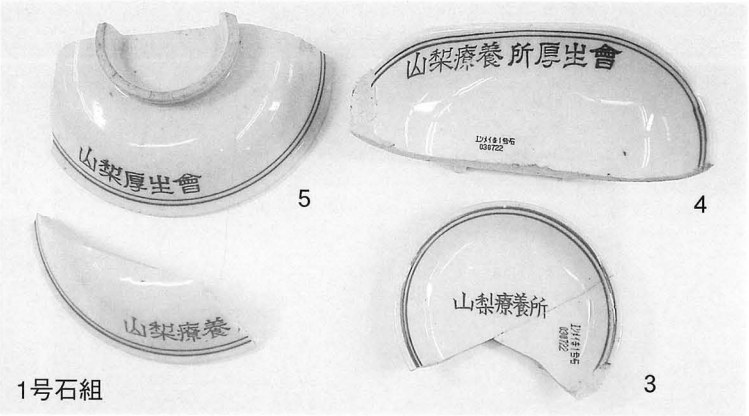

25

4

4

4


4



1号石組

報告書抄録

フリガナ	エンメイジイセキ	
書名	延命寺遺跡	
副題	山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書　第9集	
著者名	櫛原功一	
発行者名	㈶山梨厚生会　山梨厚生病院・山梨市教育委員会・（財）山梨文化財研究所	
編集者名	㈶山梨文化財研究所	
住所・電話番号	〒406-0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566 ㈶山梨文化財研究所　TEL 055－263－6441	
印刷所	帝京サービス	
発行日	2005年3月31日	
延命寺遺跡	所在地	山梨県山梨市落合870
	1/25,000 地図名・位置・標高	塩山　北緯 35度41分08秒　東経 138度39分50秒　標高 309m
遺跡概要	主な時代	古墳時代前期、平安時代、近・現代
	主な遺構	竪穴建物跡８・土坑・ピット・溝、井戸、石組
	主な遺物	土師器Ｓ字甕・パレス壷・土師器坏・甕など
	特殊遺構	井戸・石組
	特殊遺物	線刻土器・パレス壷
	調査期間	2003年６月３日～８月７日

なお緯度・経度は世界測地系データに基づく数値である。

延命寺遺跡
—山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書—

平成17年（2005）3月31日　発行

編　　集　㈶山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055-263-6441

発　　行　㈶山梨厚生会　山梨厚生病院・山梨市教育委員会・㈶山梨文化財研究所

印　　刷　㈱帝京サービス